

Pioneer

DEH-P940

CD/チューナー・WMA/MP3/AAC/WAV 対応・DSP メインユニット

取扱説明書

目次 4 ページ

carrozeria

安全のために必ずお守りください

絵表示について

この取扱説明書、取付説明書および製品への表示は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

- 表示内容を見逃して、誤った使いかたをしたときにおよぼす危害や損害の程度を次の表示で区分し、説明しています。



警告

この表示の欄は、「人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。



注意

この表示の欄は、「人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

- お守りいただく内容の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。



このような絵表示は、注意（警告を含む）しなければならない内容です。



このような絵表示は、禁止（やってはいけないこと）の内容です。



このような絵表示は、必ず行っていただく強制の内容です。

安全上のご注意 (別冊の「安全上のご注意」もお読みください。)



警告

安全のために必ずお守りください

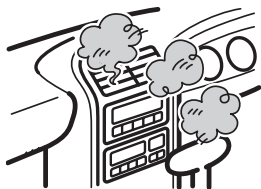
[異常時の処置]

故障のまま使用しない



画面が映らない、音が出ないなどの故障の状態で使用しないでください。必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

異常のまま使用しない



万一、煙が出る・変なおいがする・内部に異物が入った・水がかかったなど異常が起きましたら、ただちに使用を中止し、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。そのままご使用になると事故・火災・感電の原因となります。

ヒューズは規定容量のヒューズを使用する



ヒューズを交換するときは、必ず表示された規定容量のヒューズをご使用ください。規定容量以上のヒューズを使用すると、火災の原因となります。

目次

安全のために必ずお守りください

絵表示について	2
安全上のご注意	3

はじめに

各部のなまえ	8
ご使用になる前に	10
デモモードについて	12
リモコンの準備	12
本機のリセットについて	13
DSPモードを切り換える	13
フロントパネルの 取り外しかた／取り付けかた	14
サブウーファースの設定について	16
音の調節について	18
ガイド表示について	19

ここだけ読めばすぐ使えます

聞きたいソース（音源）を選ぶ	20
ソースを切り換える	
電源を切る	
内蔵CDのふだんの操作	22
CDを再生する	
曲を選ぶ	
早送り／早戻しをする	
音量を調節する	
CDを取り出す	
WMA/MP3/AAC/WAVの ふだんの操作	24
CD-ROMを再生する	
フォルダーを選ぶ	
曲を選ぶ	
早送り／早戻しをする	
音量を調節する	
CD-ROMを取り出す	
ラジオのふだんの操作	26
バンドを選ぶ	
放送局を選ぶ	
音量を調節する	

マルチCDのふだんの操作	28
CDを選ぶ	
曲を選ぶ	
早送り／早戻しをする	
音量を調節する	

内蔵CDでCDを聞く

聞きたい曲を直接選ぶ	30
モードの切り換えかた	31
同じ曲を繰り返し聞く	32
いつもと違う曲順で聞く	32
聞きたい曲をさがす	33
CD再生を一時停止する	33
選曲方法を切り換える	34
10曲飛びに選曲する	34
CDのタイトルを入力する	35
タイトル表示を切り換える	36
曲名を見て聞きたい曲をさがす	37

WMA/MP3/AAC/WAVを聞く

聞きたい曲を直接選ぶ	38
モードの切り換えかた	39
同じ曲やフォルダーを繰り返し聞く	40
いつもと違う曲順で聞く	40
聞きたい曲やフォルダーをさがす	41
再生を一時停止する	42
選曲方法を切り換える	42
フォルダー内の曲を 10曲飛びに選曲する	43
聞きたいフォルダーや曲を 一覧からさがす	44
タイトル表示を切り換える	45

ラジオを聞く

放送局を1局ずつ登録する	46
登録した放送局を呼び出す	47
モードの切り換えかた	47
複数の放送局を自動的に登録する	48
放送局名を見て 聞きたい放送局を呼び出す	48
放送局名を選ぶ	49

マルチCDでCDを聞く

(別売のマルチ CD を組み合わせたときのみ)

聞きたいCDを直接選ぶ	50
聞きたい曲を直接選ぶ	50
モードの切り換えかた	51
同じ曲やCDを繰り返し聞く	52
いつもと違う曲順で聞く	52
聞きたい曲やCDをさがす	53
CD 再生を一時停止する	54
聞きたい曲だけ指定しておく	54
指定した曲だけ再生する	55
曲の指定を1 曲ずつ解除する	56
曲の指定をCD ごとに解除する	56
CDのタイトルを入力する	57
タイトルを見て	
聞きたいCDをさがす	59
曲名を見て聞きたい曲をさがす	59
タイトル表示を切り換える	60

iPodを聞く

(別売の iPod アダプターを組み合わせたときのみ)

iPodのふだんの操作	62
プレイリストを選んで再生する	63
聞きたい曲をさがす	64
モードの切り換えかた	65
同じ曲や聞いているリストを	
繰り返し聞く	66
いつもと違う曲順で聞く	66
再生を一時停止する	67
タイトル表示を切り換える	67

テレビを見る

(別売のテレビを組み合わせたときのみ)

テレビのふだんの操作	68
ファンクションモードの操作	69
チャンネル一覧から見たい	
チャンネルを呼び出す	69

はじめに

ここだけ読めばすぐ使えます

内蔵CDでCDを聞く

WMA/MP3/AAC/WAVを聞く

ラジオを聞く

マルチCDでCDを聞く

iPodを聞く

テレビを見る

DVDを再生する

内蔵DSPで音を調節する

別売DSPで音を調節する

便利な機能と初期設定

その他 (付録)

目次

DVDを再生する

(別売のDVDを組み合わせたときのみ)

DVDのふだんの操作	70
表示を切り換える	71
ファンクションモードの操作	72

内蔵DSPで音を調節する

DSPについて	74
オーディオ調節のポイント	75
オーディオ調節モードの切り換えかた	76
左右チャンネルの 調整モードを切り換える	77
リスニングポジションを選ぶ	78
前後左右の音量バランスを 調節する	78
タイムアライメントを選ぶ	79
タイムアライメントを調節する	80
ネットワークを調節する前に	81
ネットワークを調節する	82
サブウーファーを使う	84
低い音を出力しないようにする	86
オートイコライザーを ON / OFFする	88
イコライザーカーブを選ぶ	88
イコライザーカーブを 大まかに補正する	89
イコライザーカーブを 細かく調節する	89
音響効果をかける	90
イメージに合った 演奏会場を再現する	91
小音量時の音にメリハリをつける	92
CDやiPodなどの 音質を調節する	92
騒音に合わせて音量を変える	93
各ソースの音量の違いをそろえる	93
オートタイムアライメント& イコライジングを行う前に	94
オートタイムアライメント& イコライジングを行う	96

別売DSPで音を調節する

オーディオ調節のポイント	98
オーディオ調節モードの切り換え	99
前後左右の 音量バランスを調節する	100
リスニングポジションを選ぶ	100
ドルビープロロジックIIを使う	101
ミュージックモードを調節する	102
SFCで音場を再現する	103
センターなしで5.1chの サラウンド感を再現する	104
ダイナミックレンジ コントロールを使う	104
オリジナルの音質で聞く	105
各ソースの音量の違いをそろえる	105
オートイコライザーを ON / OFFする	106
オートタイムアライメント& イコライジングを行う前に	106
オートタイムアライメント& イコライジングを行う	108
接続したスピーカーの設定をする	110
サブウーファーの位相を 切り換える	111
クロスオーバー周波数を設定する	112
スピーカーレベルを調節する	113
テストトーンでスピーカー レベルを調節する	113
タイムアライメントを選ぶ	114
タイムアライメントを調節する	114
イコライザーカーブを選ぶ	115
3バンドパラメトリック イコライザーを調節する	116

便利な機能と初期設定

瞬時に音量を小さくする	118
時計を表示させる	118
よく使う機能を直接操作する	119
交通情報を受信する	119

エンタテインメントを表示する	120
ナビゲーションの音声を本機で再生する	121
初期設定モードの切り換えかた	122
時計を合わせる	123
フロントパネルの外し忘れを警告する	123
フロントパネルを外しやすくする	124
外部機器を使う	124
外部機器の名称を入力する	126
夜間のディスプレイの明るさを切り換える	126
ディスプレイの明るさを調節する	127
イルミネーションの色を変更する	127
音の歪みを補正する	128
オーディオ設定をリセットする	128
ミュート／アッテネートを切り換える	129
内蔵パワーアンプをON / OFFする	130
フィーチャーデモをON / OFFする	130
リバースモードをON / OFFする	131
スクロールのしかたを切り換える	131
エクスターナルユニットの操作	132

その他（付録）

CDの正しい使いかた	134
WMA/MP3/AAC/WAVファイルについて	136
故障かな？と思ったら	140
こんなメッセージが表示されたら	142
保証書とアフターサービス	143
用語解説	144
おもな仕様	146

はじめに

ここだけ読めばすぐ使えます

内蔵CDでCDを聞く

WMA/MP3/AAC/WAVを聞く

ラジオを聞く

マルチCDでCDを聞く

iPodを聞く

テレビを見る

DVDを再生する

内蔵DSPで音を調節する

別売DSPで音を調節する

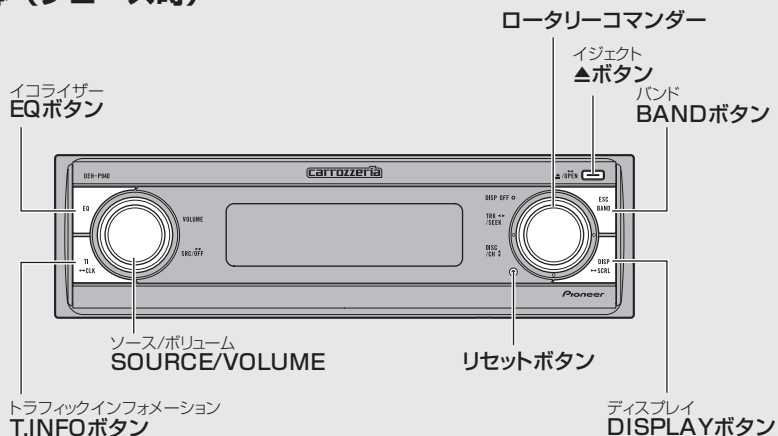
便利な機能と初期設定

その他（付録）

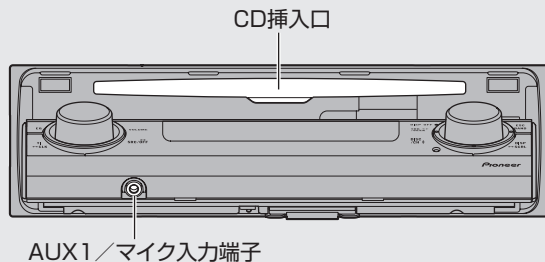
各部のなまえ

は
じ
め
に

本体（クローズ時）



本体（オープン時）

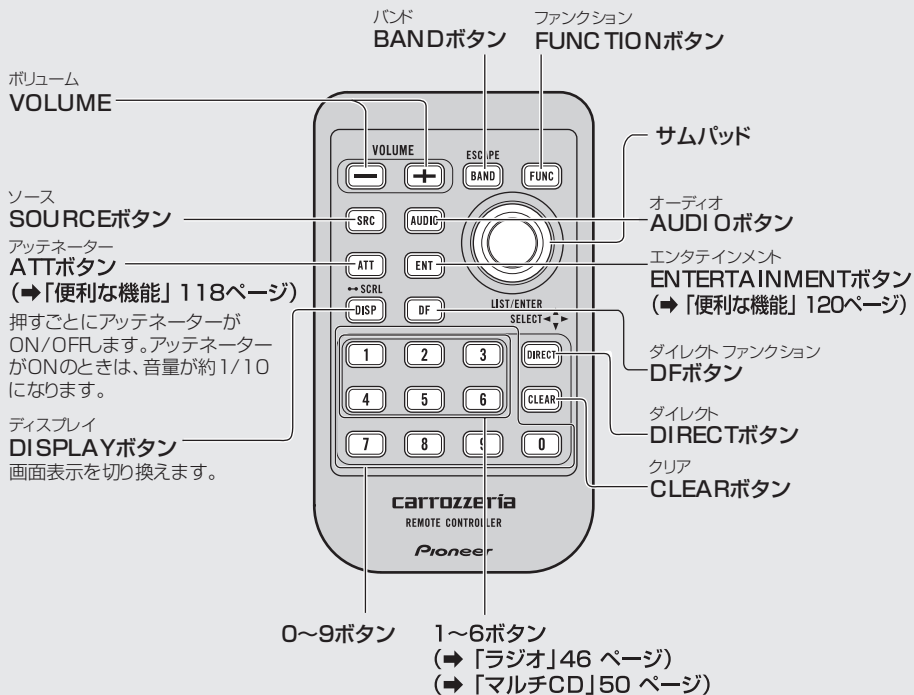


ロータリーコマンダーについて

- 「回す」・「中心を押す」・「上、下、左、右に操作する」の3つの動作を行うことで、本機の基本的な操作を行います。

リモコン

本体と同じなまへのボタンは、本体のボタンと同じ働きをします。



FUNCTION ボタンについて

- FUNCTION ボタンを押すと、ファンクションモードを切り換えることができます。
 - (⇒「内蔵 CD」31 ページ)
 - (⇒「WMA/MP3/AAC/WAV」39 ページ)
 - (⇒「ラジオ」47 ページ)
 - (⇒「マルチ CD」51 ページ)
 - (⇒「iPod」65 ページ)
 - (⇒「テレビ」69 ページ)
 - (⇒「DVD」72 ページ)

DF ボタンについて

- DF ボタンを押すと、ソースごとにあらかじめ登録されている機能を直接操作することができます。
 - 内蔵 CD・WMA/MP3/AAC/WAV・マルチ CD・iPod・DVD でポーズ、ラジオで BSM、テレビで BSSM を操作することができます。(⇒「便利な機能」119 ページ)

AUDIO ボタンについて

- AUDIO ボタンを押すと、オーディオ調節モードを切り換えることができます。
 - (⇒「内蔵 DSP」76 ページ)
 - (⇒「別売 DSP」99 ページ)

サムパッドについて

- 本体のロータリーコマンドーと同様の操作をすることができます。中心を押すと、本体のロータリーコマンドーを回す操作と同じ動作をします。

ご使用になる前に

本機の特長

本機は、音楽 CD、WMA / MP3 / AAC / WAV の再生に対応しています。

CD 再生

音楽用の CD / CD-R / CD-RW を再生することができます。

WMA / MP3 / AAC / WAV 再生

WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルが記録された CD-R / CD-RW / CD-ROM の再生に対応しています。ISO9660 のレベル 1、レベル 2、および拡張フォーマット (Joliet、Romeo) に準拠して記録されたディスクが再生可能です。(➡「その他」136 ページ)

iPod コントロール対応

当社の iPod アダプター (「CD-IB10」) と組み合わせると、Dock コネクタ付き iPod を本機から操作することができます。

iPod は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

WMA について



外装箱に印刷された、Windows Media™ のロゴは、本機が WMA データの再生に対応していることを示しています。

WMA とは、「Windows Media Audio」の略で、米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。WMA データは、Windows Media Player Ver. 7 以降を使用してエンコードすることができます。

Windows Media、Windows のロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

本製品は、米国 Microsoft Corporation が所有する技術を使用しています。また、米国 Microsoft Licensing Inc. の許可を得ずに使用または頒布できません。



メモ

- WMA ファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。
- WMA ファイルをエンコードした Windows Media Player のバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- 画像データを含む WMA ファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。

MP3 について

本機を提供する場合、非営利目的の個人向けライセンスのみが提供されます。下記放送で、本機を使うライセンスを提供したり、いかなる形式にせよ、使う権利を意味するものではありません。下記放送で本機を使用する場合は、それぞれ固有のライセンスが必要となります。詳細は、インターネット上のホームページ <http://www.mp3licensing.com> をご覧ください。

- 営業目的、すなわち利益の発生するリアルタイム放送 (地上波放送、衛星放送、ケーブルテレビを始めとするメディア)、インターネットを使った放送やデータ転送、イントラネットを始めとするネットワーク、あるいはペイオーディオやオンデマンド方式のオーディオといった電子的放送番組の配布システムなど。

AAC について

AAC とは、「Advanced Audio Coding」の略で、MPEG2、MPEG4 で使用される音声圧縮技術に関する基本フォーマットです。

AAC データは、作成に使用したアプリケーションによってファイル形式と拡張子が異なります。

本機では、iTunes を使用してエンコードされた AAC ファイルの再生に対応しています。

本機は、iTunes で作成された拡張子 (.m4a) が付いているファイルを、AAC ファイルとして再生します。故障の原因となりますので、(.m4a) 以外の拡張子の付いた AAC ファイルを再生しないでください。

iTunes は、米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

メモ

- AAC ファイルをエンコードした iTunes のバージョンによっては、正しく再生されないことがあります。
- AAC ファイルをライティングした iTunes のバージョンによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。
- 画像データを含む AAC ファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。
- iTunes Store で購入された楽曲 (.m4p) は、CD-R / RW に記録して再生することはできません。

「CD TEXT」について

「CD TEXT」は、CD のタイトル／歌手名／曲名などの文字情報が収録された CD です。ディスクタイトル面に下記マークの付いている CD は、「CD TEXT」です。(下記マークが付いていない「CD TEXT」もあります。)



50 枚型マルチ CD プレーヤーの使用について

本機では、50 枚型マルチ CD プレーヤーの取扱説明書に記載されている 50 枚型マルチ CD プレーヤー特有の機能进行操作することはできません。本機で操作できるのは、本書に記載されている機能のみです。また、ディスクリストモードには切り換わりません。

ドルビープロロジック II について

当社の 5.1ch 対応・DSP ユニット (「DEQ-P9」) と組み合わせると、5.1 チャンネルで収録された映画／音楽の DVD を臨場感豊かに再現することができます。



Dolby、ドルビー、Pro Logic 及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

BBE について

この製品は BBE Sound, Inc. からの実施権に基づき製造されています。この製品は米国 BBE Sound, Inc. の所有する特許 USP5510752 及び 5736897 を使用しています。BBE と BBE のシンボルは、BBE Sound, Inc. の登録商標です。

バッテリー上がりを防ぐために

本機をお使いになるときは、必ず車のエンジンをかけてください。

また、本機が電源 OFF のときでも、車のエンジンを止めた状態で、長時間、車のイグニッションスイッチを ON (または ACC) にしないでください。バッテリーが上がるおそれがあります。

📌 ご注意

- 車のバッテリー交換などで本機に電源が供給されなくなると、ラジオのプリセットメモリー、時計などの設定内容は消去されてしまいます。ラジオのプリセットメモリーは (➡「ラジオ」46 ページ)、時計調整は (➡「便利な機能」123 ページ) を参照して、再設定してください。
なお、オーディオ調整の設定内容は、本機が保持します。バッテリー交換などで一時的に電源が供給されなくなっても、設定内容は消えません。

デモモードについて

本機には、リバースモードとフィーチャーデモの2つのデモモードがあります。

リバースモードについて

リバースモードは、各ソースを聞いているときに約 30 秒間操作しないと画面が自動的に反転する機能です。反転は、10 秒間隔で行われます。

リバースモードを解除したいときは、車のイグニッションスイッチが ON（または ACC）のときに本機の電源を OFF にして BAND ボタンを押してください。もう一度押すと、ON になります。

メモ

- エンタテインメント表示の中には、リバースモードを ON にしても反転しないものもあります。

フィーチャーデモについて

フィーチャーデモは、本機が電源 OFF のときに、各ソースや本機の機能（エンタテインメント、SFC など）の画面を表示して紹介する機能です。

フィーチャーデモを解除したいときは、フィーチャーデモが表示されているときに DISPLAY ボタンを押してください。もう一度押すと、デモが始まります。

車のエンジンを止めた状態で、フィーチャーデモを長時間表示すると、バッテリー上がりの原因になります。

メモ

- 赤リード線（アクセサリ電源）は、常に車のバッテリーから電源を供給する電源回路には接続しないでください。車のイグニッションスイッチと本機の電源を OFF にしても、フィーチャーデモが表示され、バッテリー上がりの原因になります。

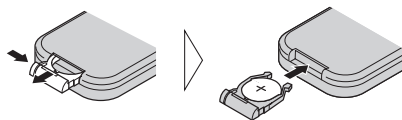
リモコンの準備

付属のリモコンを使うための準備です。

リモコンに電池を入れる

リモコンを裏返し、電池ホルダーを取り出して、リチウム電池（CR2025）を+側を上にしてセットします。

初めてお使いになるときは、電池ホルダー部から出ているフィルムを引き抜いてください。電池があらかじめセットされていますので、すぐにお使いいただくことができます。



リモコンの操作可能範囲が狭くなったときは、新しい電池と交換してください。



リモコンの取り扱い上のご注意

- リモコンを直射日光の当たるところに長時間放置すると、高温により変形・変色したり、故障するおそれがあります。使用しないときは、直射日光の当たらないところに保管してください。
- 本体に直射日光が当たっていると、リモコンを操作できないことがあります。このようなときは、本体にリモコンを近づけて操作してください。
- 付属の電池は充電できません。
- リモコンを長い間使わないときは、電池を取り出してください。取り出した電池は、幼児の手の届かないところに保管してください。
- 電池の液もれが起きたときは、内部に付いた液をよくふき取ってから、新しい電池と入れ換えてください。
- 不要となった電池を廃棄する場合は、各地方自治体の指示（条例）に従って処理してください。
- 本機に付属の電池は、日光や火気など過度の熱が当たる場所に置かないでください。

本機のリセットについて

リセット

本機を初期設定状態に戻すことができます。

リセットボタンについて

リセットボタンを押すと、本機のマイコンが初期設定状態（ご購入直後の状態）に戻ります。次のようなときに、リセットボタンを押してください。

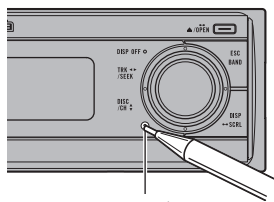
- 接続が終わったあと。
 - 本機が正しく動作しないとき。
 - ディスプレイが正しく表示されないとき。
- リセットボタンを押すと、オーディオ設定以外の調整内容（時計やラジオのプリセットなど）が消去されます。もう一度、セットしなおしてください。

ご注意

- 本機をリセットする前に、フロントパネルを開けておいてください。（CDを挿入口に差しただまにしないでください。）

1 本機をリセットする

ペン先などでリセットボタンを押す



リセットボタン

メモ

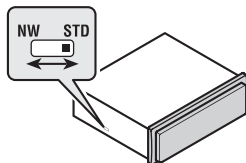
- フロントパネルを開けたままリセットすると、自動的にフロントパネルが閉じます。

DSP モードを切り換える

本機の内蔵 DSP には、3-way ネットワークモード（NW）とスタンダードモード（STD）の2つの動作モードがあります。お好みにあわせてモードを切り換えることができます。出荷時はスタンダードモードになっています。

1 DSP モードを切り換える

ペン先などで好みのモードに切り換える



2 本機をリセットする

メモ

- DSP モードを切り換えると、オーディオ設定の内容は初期状態に戻ります。設定に手筒のかかる内容は、メモしておくことをおすすめします。
- リセットボタンを押すことで、設定した DSP モードが有効になります。
- 本機と 5.1ch 対応・DSP ユニット「DEQ-P9」を組み合わせているときは、どちらのモードに設定しても効果はありません。「DEQ-P9」に内蔵の DSP が優先されます。

動作モードのマークについて

この説明書では、説明を分かりやすくするため、以下のマークを使用しています。

NW

このマークは、3-Way ネットワークモードにしかない機能および 3-Way ネットワークモードでの操作をあらわします。

STD

このマークは、スタンダードモードにしかない機能およびスタンダードモードでの操作をあらわします。

フロントパネルの取り外しかた／取り付けかた

盗難抑制のため、フロントパネルを取り外すことができます（デタッチャブル機構）。



フロントパネルの取り扱い上のご注意

- フロントパネルを無理に引いて取り外さないでください。
- 取り外し、取り付けの際に、ディスプレイやボタンを強く持たないでください。
- 落とす、ぶつけるなどの強い衝撃を与えないでください。故障することがあります。
- 分解しないでください。
- ベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。
- 汚れたときは、きれいな乾いた布でふいてください。その場合に、フロントパネルおよび本体の端子部を触らないようにしてください。接触不良の原因となることがあります。
- フロントパネルのデタッチや開閉を行うときは、フロントパネルから AUX ケーブル / マイクを取り外してください。取り外さなかった場合は、機器や車両の備品が破損するおそれがあります。

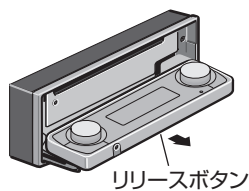
フロントパネルの取り外しかた

1 フロントパネルを開ける

- ▲ ボタンを長く押す
フロントパネルが開きます。

2 フロントパネルを取り外す

- リリースボタンを押しながら、フロントパネルを手前に引く
フロントパネルが外れます。



- 数秒後に中ボタンが自動的に閉まります。このとき、指などを挟み込まないように注意してください。

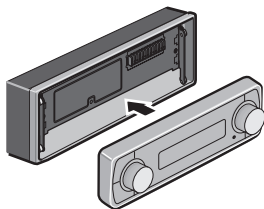
3 フロントパネルを保管する

- 付属のフロントパネル保護ケース（フェイスパネルケース）にフロントパネルを入れる

フロントパネルの取り付けかた

1 フロントパネルを取り付ける

フロントパネルを本体に“カチッ”と音がするまで押し込む

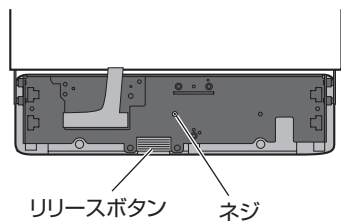


フロントパネルの固定ネジについて

フロントパネルを取り外す必要のない場合は、付属の固定ネジでフロントパネルを固定して、お使いください。

1 フロントパネルを固定する

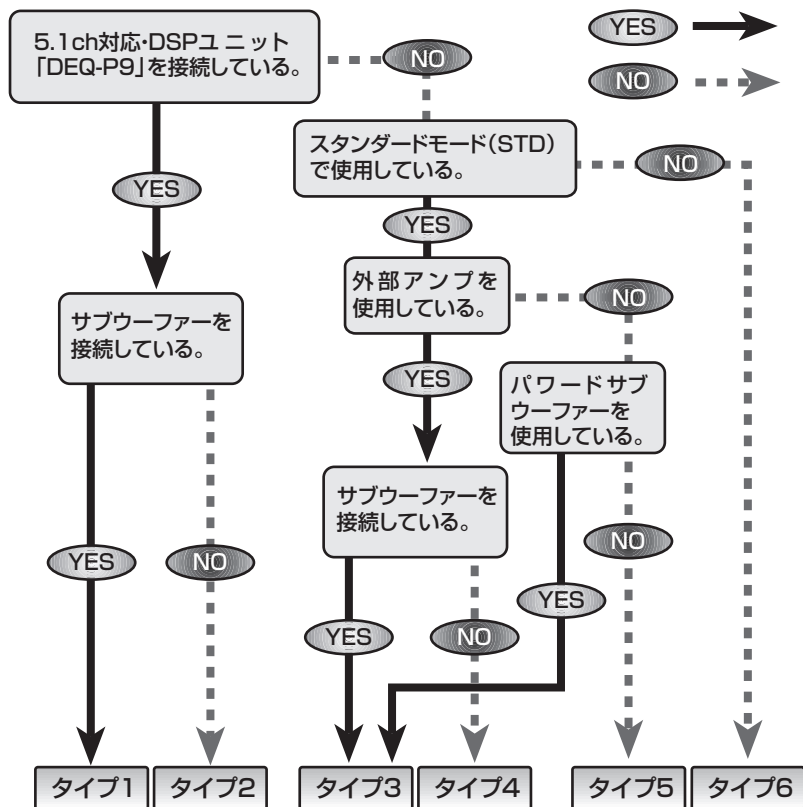
フロントパネルを開けた状態で、固定ネジを使って、フロントパネルを中ブタに取り付ける



サブウーファーの設定について

本機にサブウーファーを組み合わせている場合、本機を使ってサブウーファーの設定ができます。サブウーファーの接続方法やシステムによって、サブウーファーの設定方法は大きく異なります。次の表に従い、お手持ちのシステムに合わせて、サブウーファーを正しく設定してください。

はじめに



タイプ 1

※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。

※ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターを OFF に設定する。

※パワードサブウーファーの場合は、遮断周波数を最も高い値に設定する。

1. リスニングポジションを F/L または F/R に設定する (⇒「別売 DSP」100 ページ)
2. スピーカー設定モードで、スピーカーの有無を設定する (サブウーファーは ON に設定) (⇒「別売 DSP」110 ページ)
3. Auto TA & EQ を行う (⇒「別売 DSP」108 ページ)
4. 微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う

タイプ 2

1. リスニングポジションを F/L または F/R に設定する (⇒「別売 DSP」100 ページ)
2. スピーカー設定モードで、スピーカーの有無を設定する (サブウーファーは OFF に設定) (⇒「別売 DSP」110 ページ)
3. Auto TA & EQ を行う (⇒「別売 DSP」108 ページ)
4. 微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う

タイプ 3

※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。

※ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターを OFF に設定する。

※パワードサブウーファーの場合は、遮断周波数を最も高い値に設定する。

1. サブウーファーを ON にする (⇒「内蔵 DSP」84 ページ)
2. リスニングポジションを F/L または F/R に設定する (⇒「内蔵 DSP」78 ページ)
3. Auto TA & EQ を行う (⇒「内蔵 DSP」96 ページ)
4. 微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う

タイプ 4

※入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルコントロールを「推奨位置」に設定する。

※ローパスフィルター付きパワーアンプの場合は、ローパスフィルターを OFF に設定する。

1. サブウーファーを OFF にする (⇒「内蔵 DSP」84 ページ)
2. リスニングポジションを F/L または F/R に設定する (⇒「内蔵 DSP」78 ページ)
3. Auto TA & EQ を行う (⇒「内蔵 DSP」96 ページ)
4. 微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う

タイプ 5

1. サブウーファーを OFF にする (⇒「内蔵 DSP」84 ページ)
2. リスニングポジションを F/L または F/R に設定する (⇒「内蔵 DSP」78 ページ)
3. Auto TA & EQ を行う (⇒「内蔵 DSP」96 ページ)
4. 微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う

タイプ 6

1. リスニングポジションを F/L または F/R に設定する (⇒「内蔵 DSP」78 ページ)
2. Auto TA & EQ を行う (⇒「内蔵 DSP」96 ページ)
3. 微調整が必要な場合は、各メニューで微調整を行う

音の調節について

本機に 5.1ch 対応・DSP ユニット「DEQ-P9」を接続した場合、本機に内蔵のオーディオ・DSP 調整機能の代わりに、「DEQ-P9」に内蔵のオーディオ・DSP 調整機能が使用できます。本機に内蔵のオーディオ・DSP 調節機能（STD、NW モード）で使用できる機能と、「DEQ-P9」に接続したときに使用できる機能は次の対応表のとおりです。

	内蔵オーディオ・DSP		DEQ-P9
音量バランス調節	STD	NW	○
タイムアライメント選択	STD	NW	○
タイムアライメント調節	STD	NW	○
ラウドネス	STD	NW	×
イコライザー	STD	NW	○
イコライザーニュアンス調節	STD	NW	×
サブウーファー設定	STD	×	×
サブウーファー調節	STD	×	×
サブウーファースロープ調節	STD	×	×
フロントハイパスフィルター設定	STD	×	×
フロントハイパスフィルター調節	STD	×	×
リアハイパスフィルター設定	STD	×	×
リアハイパスフィルター調節	STD	×	×
SFC/BBE	STD	×	○
ASL	STD	NW	×
SLA	STD	NW	○
リスニングポジション	STD	NW	○
COMP/BMX	STD	NW	×
ネットワーク設定	×	NW	×
ネットワーク調節	×	NW	×
ネットワークスロープ調節	×	NW	×
BBE	×	NW	×
ドルビープロロジック II	×	×	○
ドルビープロロジック II ミュージックモード調節	×	×	○
ダウンミックス	×	×	○
DRC	×	×	○
ダイレクト	×	×	○
スピーカー設定	×	×	○
クロスオーバー周波数設定	×	×	○
スピーカーレベル設定	×	×	○
テストトーン	×	×	○
3 バンドパラメトリックイコライザー	×	×	○
オートタイムアライメント & イコライジング	STD	NW	○



メモ




- 効果的に音の調節を行うには（⇒「内蔵 DSP」75 ページ）または（⇒「別売 DSP」98 ページ）
- DSP とは、「Digital Signal Processor」の略です。DSP を使うことで、細かな音の調節が可能になります。

ガイド表示について

本機の操作を行っているとき、ディスプレイを見て操作ができるように、ディスプレイにガイド表示が出ます。



動作可能なロータリーコマンドの操作が表示されます。

表示の例	内容
	ロータリーコマンドの中心を押して操作できます。
	上下左右のうち点灯している方向にロータリーコマンドを押して操作できます。
	ロータリーコマンドを回して操作できます。

聞きたいソース（音源）を選ぶ


聞きたいソース（音源）に切り換えることができます。

この操作で使用するボタン



ソース/ボリューム
SOURCE/VOLUME

ここだけ読めばすぐ使えます

 **テレビ、1 枚型 DVD、マルチ DVD、AV
を接続したときは**

操作のしかたは、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

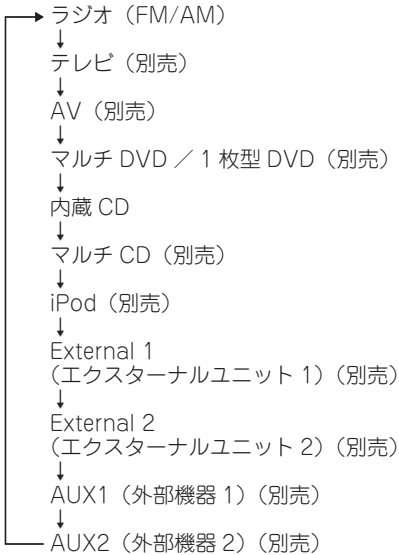
組み合わせ例

ソース	製品の型番
テレビ	「AVX-P7」
1 枚型 DVD	「SDV-P7」
マルチ DVD	「XDV-P70」
AV	「AVX-P90DV」

上記の製品の取扱説明書では、本機以外の製品を例にして、操作説明が行われている場合があります。その製品と対応しているボタンで操作を行ってください。

1 ソースを切り換える

SOURCE/VOLUME を押す
SOURCE/VOLUME を押すごとに次のように切り換わります。



2 電源を切る

SOURCE/VOLUME を長く押す
本機の電源が切れます。

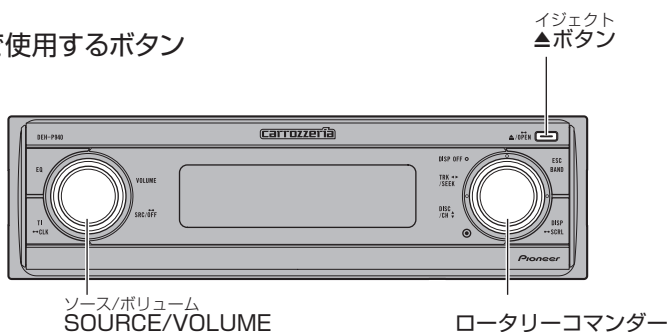
メモ

- 接続していないソースには切り換わりません。
- ディスクがセットされていないときは、そのソースには切り換わりません。
- AUX (外部機器) の設定 (→ 「便利な機能」124 ページ) を ON にしないと、AUX1/AUX2 には切り換わりません。
- 本機の青リード線 (アンテナコントロール) に車側のオートアンテナコントロール端子を接続している場合、ソースをラジオにすると車に装備されているオートアンテナがのびます。
- AV ソースを持つユニット (「AVX-P90DV」など) を本機に接続して AV ソースを設定している場合に、AV 入力ソースに切り換えることができます。
- External (エクスターナルユニット) とは、本機がソースとして対応していないパイオニア製品 (将来発売される製品など) の基本的な機能をコントロールできるように用意している特別なソースです。本機では、2 台の External (エクスターナルユニット) をコントロールすることができますが、External1、External2 のどちらに切り換えても “External” が表示されます。2 台の External (エクスターナルユニット) を接続した場合、本機によって、External1、External2 が自動的に設定されます。

内蔵 CD のふだんの操作

ここだけの操作で、CD を聞くことができます。

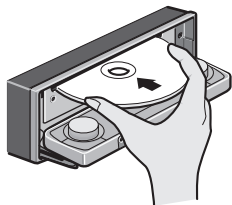
この操作で使用するボタン



ここだけ読めばすぐ使えます

1 CD を再生する

▲ ボタンを押して、フロントパネルを開き、CD を CD 挿入口に差し込む



タイトル面を上にして差し込みます。



ご注意

CD シングル(8cmCD)もアダプターなしでセットできます。アダプターは絶対に使用しないでください。



自動的にフロントパネルが閉まり、CD の再生が始まります。

2 聞きたい曲を選ぶ (または早送り／早戻し)

ロータリーコマンダーを左右に操作する
右：次の曲を選ぶとき(または早送り)
左：前の曲を選ぶとき(または早戻し)

選曲と早送り／早戻しの使い分け

聞きたい曲の選択	左右に操作
曲の早送り／早戻し ^{※1}	左右に操作し続けている間

^{※1} 選曲方法をラフサーチに設定した場合は、10 曲飛びに選曲します。(→「内蔵 CD」34 ページ)

CD を再生する 曲を選ぶ 早送り・早戻しをする
音量を調節する CD を取り出す

画面表示例



ここだけ読めばすぐ使えます

3 音量を調節する

SOURCE/VOLUME を回す

右回し：大きくするとき

左回し：小さくするとき

- 音量は、0～62 の範囲で調節できます。
- 約 4 秒間、音量が表示されます。
- 「DEQ-P9」を接続したときは、音量は、0～40 の範囲で調節できます。

- 出てきた CD はすぐに取り出して、保管してください。



▲ ボタンを押す

フロントパネルが閉まります。

- CD 挿入口にゴミやホコリが入るのを防ぐため、フロントパネルを閉めてください。

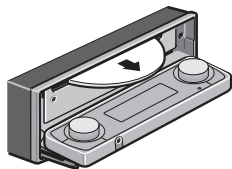
メモ

- CD をセットしたまま電源を OFF にしたり、他のソース（ラジオやマルチ CD など）に切り換えることもできます。（→「ここだけで」20 ページ）
- CD 挿入口には、CD 以外のものを絶対に入れないでください。故障の原因となります。
- ディスクを挿入すると、ファイル形式を読みとる間、「Format read」と表示されます。

4 CDを取り出してCD再生をやる

▲ ボタンを押す

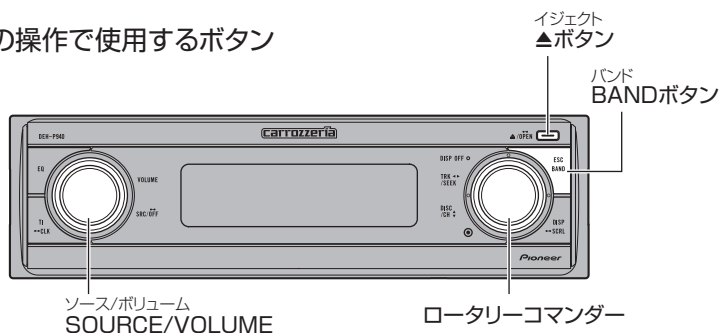
自動的にフロントパネルが開き、CD が出てきます。



WMA/MP3/AAC/WAV のふだんの操作

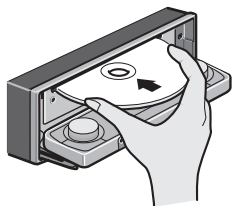
ここだけの操作で、WMA/MP3/AAC/WAV を聞くことができます。
再生できる WMA/MP3/AAC/WAV については (➡「その他」136 ページ)

この操作で使用するボタン



1 CD-ROM を再生する

▲ ボタンを押して、フロントパネルを開き、CD-ROM を CD 挿入口に差し込む



タイトル面を上にして差し込みます。

自動的にフロントパネルが閉まり、CD-ROM の再生が始まります。

2 聞きたいフォルダーを選ぶ

ロータリーコマンドーを上下に操作する
上：次のフォルダーを選ぶとき
下：前のフォルダーを選ぶとき

- BAND ボタンを長く押しと、フォルダー 01 (ROOT) に戻ります。ただし、フォルダー 01 (ROOT) にファイルがない場合は、次のフォルダーから再生が始まります。

3 聞きたい曲を選ぶ (または早送り／早戻し)

ロータリーコマンドーを左右に操作する
右：次の曲を選ぶとき (または早送り)
左：前の曲を選ぶとき (または早戻し)

選曲と早送り／早戻しの使い分け

聞きたい曲の選択	左右に操作
曲の早送り／早戻し ^{※1}	左右に操作し続けている間

^{※1} 選曲方法をラフサーチに設定した場合は、10 曲飛びに選曲します。(➡「WMA/MP3/AAC/WAV」43 ページ)

- WMA/MP3/AAC/WAV ファイルを早送り／早戻ししているときは、音声は出力されません。

CD-ROM を再生する フォルダーを選ぶ 曲を選ぶ
早送り・早戻しをする 音量を調節する CD-ROM を取り出す

画面表示例



ここだけ読めばすぐ使えます

4 音量を調節する

SOURCE/VOLUME を回す

右回し：大きくするとき

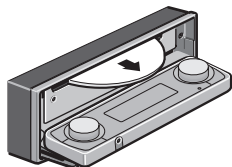
左回し：小さくするとき

- 音量は、0～62の範囲で調節できます。
- 約4秒間、音量が表示されます。
- 「DEQ-P9」を接続したときは、音量は、0～40の範囲で調節できます。

5 CD-ROMを取り出してCD-ROM再生をやめる

▲ ボタンを押す

自動的にフロントパネルが開き、CD-ROMが出てきます。



- 出てきたCD-ROMはすぐに取り出して、保管してください。



▲ ボタンを押す

フロントパネルが閉まります。

- CD挿入口にゴミやホコリが入るのを防ぐため、フロントパネルを閉めてください。

メモ

- CD-ROMをセットしたまま電源をOFFにしたり、他のソース（ラジオやマルチCDなど）に切り換えることもできます。（→「ここだけで」20ページ）
- CD挿入口には、CD以外のものを絶対に入れないでください。故障の原因となります。
- ディスクを挿入すると、ファイル形式を読みとる間、「Format read」と表示されます。
- ディスク内に再生できるファイルがない場合、「No Audio」と表示されます。
- VBR（可変ビットレート）で録音されたファイルを早送り／早戻しすると、再生経過時間が正しく表示されないことがあります。
- VBR（可変ビットレート）で録音されたMP3ファイルを再生しているときは、ビットレート表示部分に「VBR」と表示されます。
- VBR（可変ビットレート）で録音されたWMAファイルを再生しているときは、ビットレート表示部分に平均ビットレートが表示されます。



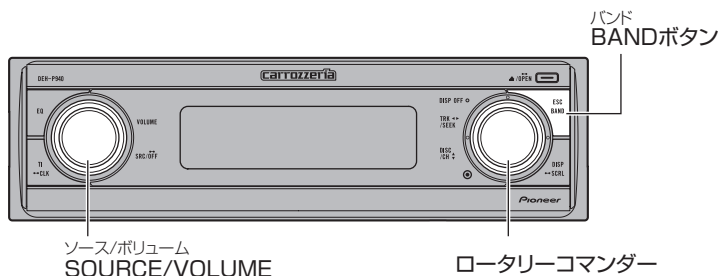
WMA/MP3/AAC/WAVと音楽データの切り換えについて

- WMA/MP3/AAC/WAVファイルと音楽データが混在しているディスクの場合、BANDボタンを押して、WMA/MP3/AAC/WAVファイルと音楽データを切り換えて再生することができます。WMA/MP3/AAC/WAVファイルと音楽データを切り換えた場合、再生は一番はじめの曲から始まります。

ラジオのふだんの操作

ここだけの操作で、ラジオを聞くことができます。

この操作で使用するボタン



1 ソースをラジオにする

SOURCE/VOLUME を押す
ラジオを受信します。

- ステレオ放送を受信すると、ステレオ表示が点灯します。

2 バンドを選ぶ

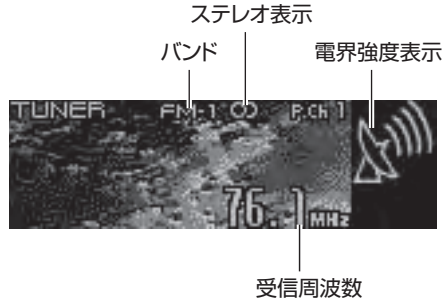
BAND ボタンを押す

ボタンを押すごとに、次のようにバンドが切り換わります。

FM-1 → FM-2 → AM-1 → AM-2
→ FM-1 に戻る

- バンドごとに放送局を6局ずつ登録できます。(→「ラジオ」46、48ページ)
- バンド1とバンド2を切り換えて使うことで、より多くの放送局を登録できます。たとえば、バンド1にはふだんよく聞く放送局を登録しておきます。旅行などで、どんな放送局があるのかわからない地域に行ったときに、バンド2に切り換えてBSM (→「ラジオ」48ページ) を使うと便利です。

画面表示例



3 放送局を選局する

ロータリーコマンドナーを左右に操作する
右：高い周波数の放送局を選局するとき
左：低い周波数の放送局を選局するとき

選局方法の使い分け

手動選局(1 ステップずつ) 左右に操作
自動選局 左右に長く操作

- 左右に操作し続けている間、途中の放送局をとばすことができます。ボタンを離れたところから自動選局を開始します。
- 電波の強い放送局を選局するには自動選局を、電波の弱い放送局を選局するには手動選局をおすすめします。

4 音量を調節する

SOURCE/VOLUME を回す

右回し：大きくするとき

左回し：小さくするとき

- 音量は、0～62の範囲で調節できます。
- 約4秒間、音量が表示されます。
- 「DEQ-P9」を接続したときは、音量は、0～40の範囲で調節できます。

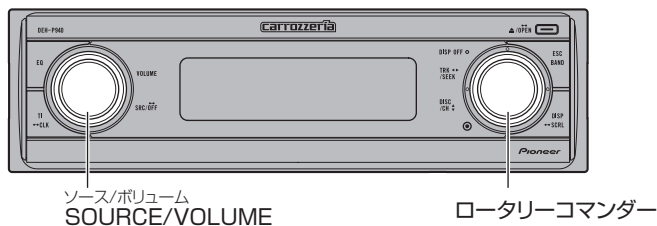
5 ラジオの受信をやめる

他のソースに切り換えるか、電源をOFFにする(⇒「ここだけで」21ページ)

マルチ CD のふだんの操作

ここだけの操作で、別売のマルチ CD プレーヤーで CD を聞くことができます。

この操作で使用するボタン



ここだけ読めばすぐ使えます

1 ソースをマルチ CD にする

SOURCE/VOLUME を押す
マルチ CD の再生が始まります。

2 聞きたい CD を選ぶ

ロータリーコマンダーを上下に操作する
上：次の CD を選ぶとき
下：前の CD を選ぶとき

メモ

- マルチ CD が準備動作 (CD の有無の確認や CD の情報の読み込みなど) をしている場合があります。このとき、ソースをマルチ CD に切り換えると "Ready" と表示されます。
- マルチ CD 再生中にマルチ CD からマガジンを取り出すと、"No Magazine" と表示されます。

画面表示例



3 聞きたい曲を選ぶ (または早送り／早戻し)

ロータリーコマンドを左右に操作する
右：次の曲を選ぶとき（または早送り）
左：前の曲を選ぶとき（または早戻し）

選曲と早送り／早戻しの使い分け

聞きたい曲の選択 左右に操作
曲の早送り／早戻し 左右に操作し続けている間

4 音量を調節する

SOURCE/VOLUME を回す

右回し：大きくするとき

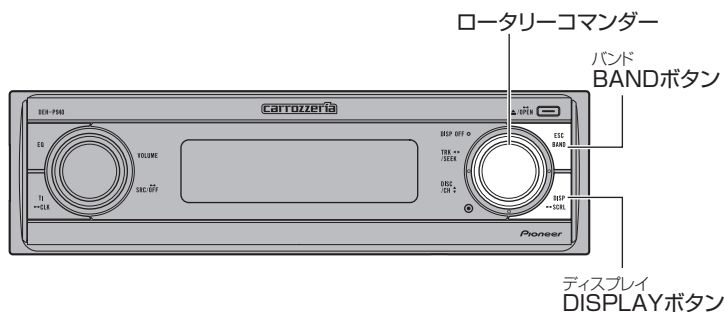
左回し：小さくするとき

- 音量は、0～62の範囲で調節できます。
- 約4秒間、音量が表示されます。
- 「DEQ-P9」を接続したときは、音量は、0～40の範囲で調節できます。

5 マルチ CD 再生をやめる

他のソースに切り換えるか、電源をOFFにする(⇒「ここだけで」21ページ)

この操作で使用するボタン



聞きたい曲を直接選ぶ

ダイレクトサーチ

リモコンを使って、聞きたい曲を直接選ぶことができます。

1 曲番号入力画面を表示する

リモコンの DIRECT ボタンを押す
(➡「はじめに」9 ページ)

2 聞きたい曲の番号を入力する

リモコンの 0 ~ 9 ボタンを押す



3 聞きたい曲を再生する

リモコンの DIRECT ボタンを押す
選んだ曲が再生されます。

メモ

- 曲番号入力画面は、約 8 秒間何も操作しないと自動的に解除されます。
- リモコンの CLEAR ボタンを押すと、入力した番号を消去することができます。

モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 メインメニューを表示させる

ロータリーコマンドーを押す
「FUNCTION」、「AUDIO」、
「ENTERTAINMENT」が表示されます。

2 ファンクションモードにする

ロータリーコマンドーを回して
「FUNCTION」を選び、ロータリー
コマンドーを押す

3 ファンクションモードを切り換える

ロータリーコマンドーを回す
ロータリーコマンドーを回すごとに次のように切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

再生範囲切換モード
(⇒「内蔵 CD」32 ページ)
↑
ランダムモード (⇒「内蔵 CD」32 ページ)
↑
スキャンモード (⇒「内蔵 CD」33 ページ)
↑
ポーズモード (⇒「内蔵 CD」33 ページ)
↑
選曲方法切り換えモード
(⇒「内蔵 CD」34 ページ)
↑
タイトル入力モード
(⇒「内蔵 CD」35 ページ)
↑
再生範囲切換モードに戻る

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

- FUNCTION ボタンを押すごとに、ファンクションモードが切り換わります。

メモ

- ファンクションモードは、約 30 秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、タイトル入力モードを選んでいる場合、自動では解除されません。
- 「CD TEXT」には、タイトルを入力することはできません。「CD TEXT」を再生しているときは、タイトル入力モードには切り換わりません。

同じ曲を繰り返し聞く

リピート再生

今聞いている曲を繰り返し聞くことができます。

1 再生範囲切替モードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「内蔵 CD」31 ページ)

2 リピート再生する範囲を選ぶ

ロータリーコマンドーを押す
ロータリーコマンドーを押すごとにリピート範囲が次のように切り換わります。



Track repeat (トラックリピート)
→ Disc repeat (ディスクリピート)
→ Track repeat に戻る

いつもと違う曲順で聞く

ランダム再生

選曲を CD プレーヤーにまかせて、いつもと違う曲順 (ランダム) で再生することができます。

1 ランダムモードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「内蔵 CD」31 ページ)

2 ランダム再生を ON にする

ロータリーコマンドーを押す
ロータリーコマンドーを押すごとに ON / OFF します。



次の曲から、ランダムに選曲します。

聞きたい曲をさがす

スキャン再生

曲の出だし部分だけを、約 10 秒ずつ次々に聞くことができます。

1 スキャンモードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「内蔵 CD」31 ページ)

2 スキャン再生を始める

ロータリーコマンドーを押す



曲の出だしの約 10 秒間が次々に再生されます。

3 聞きたい曲が再生されたらスキャン再生をOFFにする

スキャンモードのときにロータリーコマンドーを押す

確認

- ファンクションモードが解除されていたら、まずもう一度スキャンモードにしてください。次に、スキャン再生を OFF にします。

メモ

- スキャン再生を始めた曲まで戻ると、スキャン再生は解除されます。

CD 再生を一時停止する

ポーズ

CD 再生を一時停止することができます。

1 ポーズモードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「内蔵 CD」31 ページ)

2 CD 再生を一時停止する

ロータリーコマンドーを押す
ロータリーコマンドーを押すごとに ON / OFF します。



選曲方法を切り換える

ロータリーコマンドを左右に操作し続けたときに、早送り／早戻しにするか、10曲飛びに選曲するラフサーチにするかを選ぶことができます。

1 選曲方法切り換えモードにする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ
(⇒「内蔵 CD」31 ページ)

2 選曲方法を選ぶ

ロータリーコマンドを押す
ロータリーコマンドを押すごとに次のように切り換わります。
FF/REV (早送り／早戻し)
→ Rough search (ラフサーチ)
→ FF/REV に戻る



10 曲飛びに選曲する

ラフサーチ

収録されている曲が 10 曲を超えるディスクの場合、10 曲飛びに選曲することができます。

1 選曲方法切り換えモードにしてラフサーチを選ぶ

(⇒「内蔵 CD」このページ)

2 聞きたい曲を選ぶ

ロータリーコマンドを左右に長く操作する

右：10 曲先の曲を選ぶとき

左：10 曲前の曲を選ぶとき

メモ

- 10 曲以下のディスクでラフサーチを行うと、最初の曲または最後の曲が選曲されます。ラフサーチ後に、残りの曲が 10 曲以下になった場合も同様です。

CDのタイトルを入力する

ディスクタイトル入力

CDのタイトルを入力することができます。また、入力したタイトルをディスプレイに表示できます。



タイトル入力について

タイトル表示は、CDのタイトルを入力して登録させておき、ディスプレイに表示させる機能です。タイトルを入力しておくと、CD再生時に入力したタイトルを表示できます。

タイトルの入力のしかたは、マルチCDと同じです。(⇒「マルチCD」57ページ)

- タイトルは、10文字まで入力できます。
- 内蔵CDのタイトルは、48枚分の登録ができます。
- 48枚を超えたときは、いちばん古いCDの登録内容が消されて、新しいCDが登録されます。
- タイトルを登録させたCDをマルチCDにセットしたときは、ディスプレイにタイトルを表示させることができます。
- マルチCDを組み合わせると、最大100枚分のタイトルを登録することができます。
- 「CD TEXT」(⇒「はじめに」11ページ)には、タイトル入力することはできません。「CD TEXT」を再生しているときは、タイトル入力モードには切り換わりません。



メモ

- DISPLAYボタンを押すと、入力したタイトルを表示することができます。もう一度ボタンを押すと、タイトル表示は消えます。
- タイトルを入力していないCDで表示を切り換えると、タイトル表示は空白になります。

タイトル表示を切り換える

タイトル表示／タイトルスクロール

「CD TEXT」(➡「はじめに」11 ページ)再生中に、トラックタイトルのほかにディスクタイトルやディスクアーティスト名を表示させることができます。全角で7文字、半角で14文字まで一度に表示することができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見することもできます。

タイトル表示について

- 本機はカナやアルファベットなどの表示だけではなく、ひらがなや漢字などの表示にも対応しています。「CD TEXT」に漢字などの文字情報が収録されている場合でも、本機ではそのまま表示することができます。

隠れている文字を表示させるには

DISPLAY ボタンを長く押し

隠れている文字が順番に表示されます。

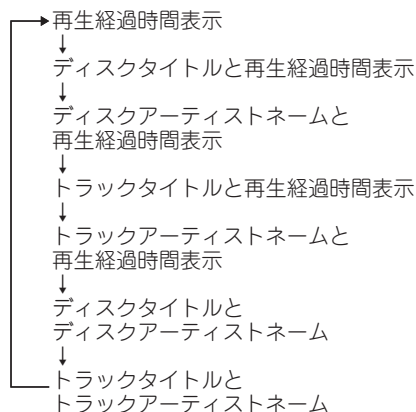
メモ

- 初期設定で連続スクロール機能を ON にした場合、タイトルが繰り返しスクロールして表示されます。タイトルの最初の文字を表示させて、再びスクロールさせたいときは、DISPLAY ボタンを長く押ししてください。連続スクロールについては(➡「便利な機能」131 ページ)

1 表示を切り換える

DISPLAY ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



メモ

- トラックアーティスト名(歌手名)などが収録されていないCDで表示を切り換えると、タイトル表示は空白になります。

曲名を見て聞きたい曲をさがす

トラックリスト

「CD TEXT」再生中に、曲名の一覧（トラックリスト）を見ながら聞きたい曲を選べます。



メモ

- 再生中の曲は反転表示されます。
- 「CD TEXT」に、曲名が収録されていないときは、「No T. Title」が表示されます。
- ロータリーコマンドを上下に操作して、聞きたい曲を選ぶこともできます。
- トラックリストモードは、30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

1 トラックリストモードにする

ロータリーコマンドを回す
トラックリストモードに切り換わります。

2 聞きたい曲を選ぶ

ロータリーコマンドを回す
右回し：次の曲を選ぶとき
左回し：前の曲を選ぶとき



ロータリーコマンドを回すごとに曲名が切り換わります。

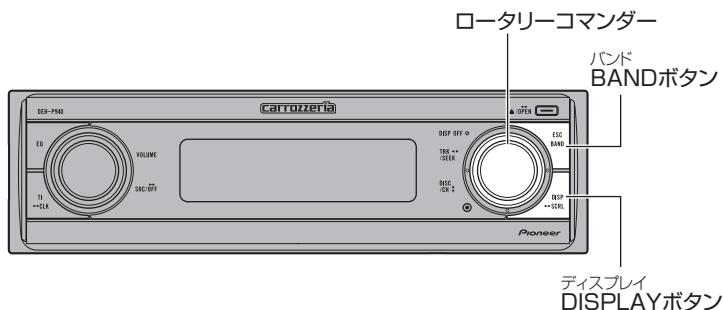
3 聞きたい曲を再生する

聞きたい曲が中央に表示されているときに、ロータリーコマンドを押す
選んだ曲が再生されます。

4 トラックリストモードを解除する

BAND ボタンを押す

この操作で使用するボタン



聞きたい曲を直接選ぶ

ダイレクトサーチ

リモコンを使って、今聞いているフォルダー内で聞きたい曲を直接選ぶことができます。

1 曲番号入力画面を表示する

リモコンの DIRECT ボタンを押す
(➡ 「はじめに」 9 ページ)

2 聞きたい曲の番号を入力する

リモコンの 0 ~ 9 ボタンを押す



3 聞きたい曲を再生する

リモコンの DIRECT ボタンを押す
選んだ曲が再生されます。

メモ

- 曲番号入力画面は、約 8 秒間何も操作しないと自動的に解除されます。
- リモコンの CLEAR ボタンを押すと、入力した番号を消去することができます。

モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 メインメニューにする

ロータリーコマンドーを押す
「FUNCTION」、「AUDIO」、
「ENTERTAINMENT」が表示されます。

2 ファンクションモードにする

ロータリーコマンドーを回して
「FUNCTION」を選び、ロータリー
コマンドーを押す

3 ファンクションモードを切り換える

ロータリーコマンドーを回す
ロータリーコマンドーを回すごとに次のように切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

再生範囲切換モード
(⇒「WMA/MP3/AAC/WAV」40 ページ)
↓
ランダムモード
(⇒「WMA/MP3/AAC/WAV」40 ページ)
↓
スキャンモード
(⇒「WMA/MP3/AAC/WAV」41 ページ)
↓
ポーズモード
(⇒「WMA/MP3/AAC/WAV」42 ページ)
↓
選曲方法切り換えモード
(⇒「WMA/MP3/AAC/WAV」42 ページ)
↓
再生範囲切換モードに戻る

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す



リモコンの場合

- FUNCTION ボタンを押すごとに、ファンクションモードが切り換わります。



メモ

- ファンクションモードは、約 30 秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

同じ曲やフォルダーを繰り返し聞く

リピート再生

今聞いている曲を繰り返し聞いたり、1つのフォルダーを繰り返し聞くなど、繰り返し再生する範囲を選ぶことができます。



再生範囲について

再生範囲（繰り返し聞く範囲）は、次の中から選ぶことができます。

表示	再生範囲
Track repeat	再生中の曲を繰り返し再生します。
Folder repeat	再生中のフォルダーを繰り返し再生します。
Disc repeat	本機にセットされているディスクを通して再生します。(通常は、このモードにしておきます)

1 再生範囲切換モードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ (→ 「WMA/MP3/AAC/WAV」 39 ページ)

2 リピート再生する範囲を選ぶ

ロータリーコマンドーを押す
ロータリーコマンドーを押すごとにリピート範囲が次のように切り換わります。



Track repeat (トラックリピート)
→ Folder repeat (フォルダーリピート)
→ Disc repeat (ディスクリピート)
→ Track repeat に戻る



メモ

- フォルダーリピートは、再生中のフォルダー内の曲 (WMA/MP3/AAC/WAV ファイル) だけを再生します。サブフォルダー内の曲は再生されません。

いつもと違う曲順で聞く

ランダム再生

選曲を CD プレーヤーにまかせて、いつもと違う曲順 (ランダム) で再生することができます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ

(→ 「WMA/MP3/AAC/WAV」 このページ)

選んだ再生範囲内でランダム再生が行われます。

2 ランダムモードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ (→ 「WMA/MP3/AAC/WAV」 39 ページ)

3 ランダム再生を ON にする

ロータリーコマンドーを押す
ロータリーコマンドーを押すごとに ON / OFF します。



次の曲から、ランダムに選曲します。



メモ

- トラックリピートのときにランダム再生を ON にすると、再生範囲がフォルダーリピートに切り換わり、ランダム再生します。

聞きたい曲やフォルダーをさがす

スキャン再生

今聞いているフォルダー内の曲の出だし部分だけを約10秒ずつ次々に聞くことができます。また、全フォルダーの1曲目の出だし部分だけを次々に聞くこともできます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ

(→ 「WMA/MP3/AAC/WAV」40ページ)

■ 聞きたい曲をさがすとき (トラックスキャン再生)

再生範囲をフォルダーリピートに切り換えます。再生中のフォルダーの全曲を、約10秒ずつ再生することができます。

■ 聞きたいフォルダーをさがすとき (フォルダースキャン再生)

再生範囲をディスクリピートに切り換えます。ディスク内の全フォルダーの1曲目だけを、約10秒ずつ再生することができます。

2 スキャンモードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→ 「WMA/MP3/AAC/WAV」39ページ)

3 スキャン再生を始める

ロータリーコマンドーを押す



曲の出だしの約10秒間が次々に再生されます。

4 聞きたい曲(フォルダー)が再生されたらスキャン再生をOFFにする

スキャンモードのときにロータリーコマンドーを押す



確認

- ファンクションモードが解除されていたら、まずもう一度スキャンモードにしてください。次に、スキャン再生をOFFにします。



メモ

- スキャン再生を始めた曲(またはフォルダー)まで戻ると、スキャン再生は解除されます。
- トラックリピートのときにスキャン再生をONにすると、再生範囲がフォルダーリピートに切り換わり、スキャン再生します。

再生を一時停止する

ポーズ

WMA/MP3/AAC/WAV 再生を一時停止することができます。

1 ポーズモードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→ 「WMA/MP3/AAC/WAV」 39 ページ)

2 WMA/MP3/AAC/WAV再生を一時停止する

ロータリーコマンドーを押す
ロータリーコマンドーを押すごとに ON / OFF します。



選曲方法を切り換える

ロータリーコマンドーを左右に操作し続けたときに、早送り／早戻しにするか、10曲飛びに選曲するラフサーチにするかを選ぶことができます。

1 選曲方法切り換えモードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→ 「WMA/MP3/AAC/WAV」 39 ページ)

2 選曲方法を選ぶ

ロータリーコマンドーを押す
ロータリーコマンドーを押すごとに次のように切り換わります。
FF/REV (早送り／早戻し)
→ Rough search (ラフサーチ)
→ FF/REV に戻る



フォルダー内の曲を 10 曲飛びに選曲する

ラフサーチ

収録されている曲が 10 曲を超えるフォルダーの場合、10 曲飛びに選曲することができます。

1 選曲方法切り換えモードにしてラフサーチを選ぶ

(→ 「WMA/MP3/AAC/WAV」 42 ページ)

2 聞きたい曲を選ぶ

ロータリーコマンドを左右に長く操作する

右：10 曲先の曲を選ぶとき

左：10 曲前の曲を選ぶとき

メモ

- 10 曲以下のフォルダーでラフサーチを行うと、最初の曲または最後の曲が選曲されます。ラフサーチ後に、残りの曲が 10 曲以下になった場合も同様です。

聞きたいフォルダーや曲を一覧からさがす

フォルダー／ファイルリスト

ファイルネームやフォルダーネームの一覧（フォルダー／ファイルリスト）を見ながら、聞きたいファイルやフォルダーを選べます。

1 フォルダー／ファイルリストモードにする

ロータリーコマンドを回す
フォルダー／ファイルリストモードに切り換わります。

2 聞きたいフォルダーや曲（ファイル）を選ぶ

ロータリーコマンドを回す
右回し：次のフォルダー（ファイル）を選ぶとき
左回し：前のフォルダー（ファイル）を選ぶとき

ロータリーコマンドを回すごとにフォルダーやファイルの表示が切り換わります。



選んでいるフォルダーの中に、フォルダーや曲（ファイル）が収録されているときに表示されます。

3 聞きたい曲が入っているフォルダーを選ぶ

フォルダーが中央に表示されているときに、ロータリーコマンドを右に操作する

ロータリーコマンドを回すごとにファイル（フォルダー）が切り換わります。

4 聞きたい曲を再生する

聞きたいファイル（フォルダー）が中央に表示されているときに、ロータリーコマンドを押す

選んだ曲（ファイル）が再生されます。

5 フォルダー／ファイルリストモードを解除する

BAND ボタンを押す



メモ

- 再生中のファイル／フォルダーは反転表示されます。
- ロータリーコマンドを上下に操作して、聞きたいファイルネームやフォルダーネームを表示することもできます。
- ロータリーコマンドを左に操作すると、1つ前のリスト（1階層上のフォルダー）に戻ります。
- フォルダーが中央に表示されているときにロータリーコマンドを押すと、そのフォルダー内のはじめの曲から再生されます。
- ファイルリストは、必ず「ROOT」から表示されます。
- フォルダー内に再生できるファイルがない場合、ロータリーコマンドを押しても再生しません。
- リスト表示中のフォルダー番号は、実際の番号とは異なります。
- フォルダー／ファイルリストモードは、30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。
- 収録ファイル数が多く、リスト番号が3桁になる場合は、下2桁だけが表示されます。

タイトル表示を切り換える

タイトル表示 / タイトルスクロール

フォルダー名のほかにトラックタイトルやアルバムタイトルを表示させることができます。全角で7文字、半角で14文字まで一度に表示することができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見ることができます。

1 表示を切り換える

DISPLAY ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

WMA/MP3/AAC の場合

→ 再生経過時間表示



フォルダー名と再生経過時間表示



ファイル名と再生経過時間表示



フォルダー名とファイル名



アーティスト名とアルバムタイトル



アーティスト名とトラックタイトル

WAV の場合

→ 再生経過時間表示



フォルダー名と再生経過時間表示



ファイル名と再生経過時間表示



フォルダー名とファイル名



メモ

- アーティスト名（歌手名）などが収録されていないCD-ROMで表示を切り換えると、タイトル表示は空白になります。
- WMA ファイルをエンコードした Windows Media™ Player のバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- MP3 ファイルや AAC ファイルをライティングした iTunes のバージョンによっては、ファイル名などが正しく表示されないことがあります。



隠れている文字を表示させるには

DISPLAY ボタンを長く押す

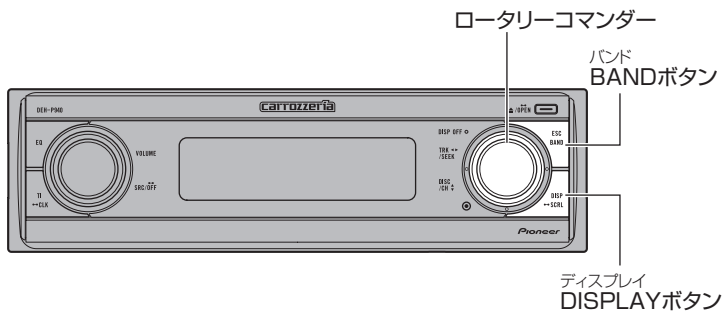
隠れている文字が順番に表示されます。



メモ

- 初期設定で連続スクロール機能を ON にした場合、タイトルが繰り返しスクロールして表示されます。タイトルの最初の文字を表示させて、再びスクロールさせたいときは、DISPLAY ボタンを長く押ししてください。連続スクロールについては（➡「便利な機能」131 ページ）

この操作で使用するボタン



放送局を1局ずつ登録する

プリセットメモリー

リモコンを使って、お好みの放送局を、1~6 ボタンに1局ずつ手動で登録することができます。

1 登録させるバンドを選ぶ

BAND ボタンを押す(「▶ここだけで」26 ページ)

2 登録したい放送局を選局する

ロータリーコマンダーを左右に操作する(「▶ここだけで」27 ページ)

3 記憶させる

リモコンの1~6 ボタンの1つを長く押す



押したボタンの番号(登録番号)が点滅します。



押したボタンに受信中の放送局を登録すると、点滅が終わります。

メモ

- 登録した放送局を呼び出すには(「▶ラジオ」47 ページ)
- ステーションリストモードでも放送局を登録することができます。(「▶ラジオ」48 ページ)

登録した放送局を呼び出す

プリセットチューニング

登録した放送局は、簡単に呼び出すことができます。

1 登録したバンドを選ぶ

BAND ボタンを押す(「→ここだけで」
26 ページ)

2 登録した放送局を呼び出す

■ 登録した放送局を順番に呼び出す

ロータリーコマンドを上下に操作する
上：次の登録番号の放送局を呼び出すとき
下：前の登録番号の放送局を呼び出すとき

■ 登録した放送局を直接呼び出す

リモコンの 1~6 ボタンの 1 つを押す



受信中の登録番号

モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 メインメニューにする

ロータリーコマンドを押す
「FUNCTION」、「AUDIO」、
「ENTERTAINMENT」が表示されます。

2 ファンクションモードにする

ロータリーコマンドを回して
「FUNCTION」を選び、ロータリー
コマンドを押す

3 ファンクションモードを切り換える

ロータリーコマンドを回す
ロータリーコマンドを回すごとに次のように切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

BSM モード(「→ラジオ」48 ページ)



放送局名選択モード(「→ラジオ」49 ページ)



BSM モードに戻る

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す



リモコンの場合

- FUNCTION ボタンを押すごとに、ファンクションモードが切り換わります。



メモ

- ファンクションモードは、約 30 秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

複数の放送局を自動的に登録する

BSM

受信状態の良い放送局をさがして、リストの1～6に自動で登録できます。

1 登録するバンドを選ぶ

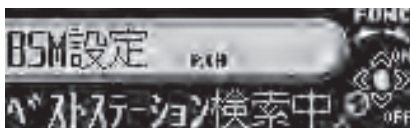
BAND ボタンを押す(「▶ここだけで」26 ページ)

2 BSM モードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ(「▶ラジオ」47 ページ)

3 BSM を始める

ロータリーコマンドーを押す
ロータリーコマンドーを押すごとに ON / OFF します。



登録が終わるとステーションリストモードに切り換わり、リストの1番目に登録した放送局を受信します。

4 聞きたい放送局を選ぶ

ロータリーコマンドーを回す
ロータリーコマンドーを回すごとに放送局(周波数)が切り換わります。

右回し：次の放送局を選ぶとき
左回し：前の放送局を選ぶとき

5 聞きたい放送局を受信する

聞きたい放送局が中央に表示されているときに、ロータリーコマンドーを押す
選んだ放送局を受信します。

メモ

- 受信状態の良い放送局が6局より少ないときは、前の登録内容が残ることがあります。
- BSM とは、「Best Stations Memory (ベストステーションズメモリー)」の略です。

放送局名を見て聞きたい放送局を呼び出す

ステーションリスト

登録した放送局を、放送局名の一覧(ステーションリスト)の中からさがすことができます。

1 ステーションリストモードにする

ロータリーコマンドーを回す
ステーションリストモードに切り換わります。



2 聞きたい放送局を選ぶ

ロータリーコマンドーを回す
ロータリーコマンドーを回すごとに、放送局名が切り換わります。
右回し：次の放送局を選ぶとき
左回し：前の放送局を選ぶとき

3 聞きたい放送局を受信する

聞きたい放送局が中央に表示されているときに、ロータリーコマンドーを押す
選んだ放送局を受信します。

4 ステーションリストモードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

- 受信中の放送局は反転表示されます。
- 表示されている放送局名が受信している放送局と異なる場合、放送局名を変更することができます。(「▶ラジオ」49 ページ)
- 放送局名が登録されていない放送局の場合、周波数が表示されます。
- ロータリーコマンドーを長く押すと、中央に表示されている登録番号に現在受信している放送局を記憶させることができます。
- ステーションリストモードは、30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

放送局名を選ぶ

放送局名選択

受信している放送局に合わせて、表示する放送局名を選ぶことができます。

放送局名について

- 同じ周波数でも、受信する放送局は地域によって違います。表示される放送局名は、受信している放送局のものと異なる場合に変更することができます。

ご注意

- 本機に登録されていない放送局名は選べません。

1 実際の放送局名と表示が異なる場合、放送局名選択モードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(「▶ラジオ」47ページ)

ご注意

- 現在受信している周波数以外の放送局名を変更することはできません。別の周波数の放送局名を変更したい場合、その周波数を受信して(「▶ここだけ」27ページ)から放送局名選択モードにしてください。

2 放送局名を選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作する
右：次の放送局名を選ぶとき
左：前の放送局名を選ぶとき



3 選んだ放送局名に変更する

ロータリーコマンドーを押す
選んだ放送局名に変更されます。

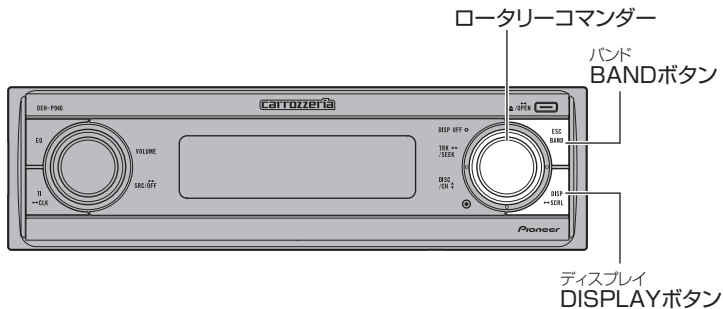
メモ

- 選んだ周波数に該当する放送局名が登録されていない場合、“No data”と表示されます。
- 放送局名を表示させたくないときは、すべて空白の表示を選んでください。
- パイオニア製のFMモジュレータータイプのマルチCDをお使いの方は、モジュレーター周波数に合わせて、放送局名を“FM M-CD”に変更して表示することができます。
- パイオニア製のTVをFMモジュレーターでお使いの方は、モジュレーター周波数に合わせて、放送局名を“FM TVsound”に変更して表示することができます。

選んだ放送局名を表示させるには

DISPLAY ボタンを押す
ボタンを押すごとに放送局名表示を ON / OFF します。

この操作で使用するボタン



聞きたい CD を直接選ぶ

ダイレクトサーチ (ディスク)

リモコンを使って、聞きたい CD を直接選ぶことができます。

1 聞きたい CD を選ぶ

リモコンの 1 ~ 6 ボタンを押す
押す：1 ~ 6 枚目の CD を選ぶとき
長く押す：7 ~ 12 枚目の CD を選ぶとき

聞きたい曲を直接選ぶ

ダイレクトサーチ (トラック)

リモコンを使って、今聞いている CD 内の聞きたい曲を直接選ぶことができます。

1 曲番号入力画面を表示する

リモコンの DIRECT ボタンを押す
(→ 「はじめに」 9 ページ)

2 聞きたい曲の番号を入力する

リモコンの 0 ~ 9 ボタンを押す



3 聞きたい曲を再生する

リモコンの DIRECT ボタンを押す
選んだ曲が再生されます。



メモ

- 曲番号入力画面は、約 8 秒間何も操作しないと自動的に解除されます。
- リモコンの CLEAR ボタンを押すと、入力した番号を消去することができます。

モードの切り換えかた

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 メインメニューにする

ロータリーコマンドーを押す
「FUNCTION」、「AUDIO」、
「ENTERTAINMENT」が表示されます。

2 ファンクションモードにする

ロータリーコマンドーを回して
「FUNCTION」を選び、ロータリー
コマンドーを押す

3 ファンクションモードを切り換える

ロータリーコマンドーを回す
ロータリーコマンドーを回すごとに、次のように切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

再生範囲切換モード
(⇒「マルチCD」52 ページ)
↓
ランダムモード(⇒「マルチCD」52 ページ)
↓
スキャンモード(⇒「マルチCD」53 ページ)
↓
ポーズモード(⇒「マルチCD」54 ページ)
↓
ITS 再生モード(⇒「マルチCD」55 ページ)
↓
ITS 入力モード(⇒「マルチCD」54 ページ)
↓
タイトル入力モード
(⇒「マルチCD」57 ページ)
↓
再生範囲切換モードに戻る

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す



リモコンの場合

- FUNCTION ボタンを押すごとに、ファンクションモードが切り換わります。



メモ

- ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、タイトル入力モードやITS入力モードを選んでいる場合、自動では解除されません。
- 「CD TEXT」に対応しているマルチCD(「CDX-P670」など)で「CD TEXT」を再生しているときは、タイトル入力モードには切り換わりません。(「CD TEXT」にあらかじめ収録されているタイトルは変更できません。)

同じ曲や CD を 繰り返し聞く

リピート再生

今聞いている曲を繰り返し聞いたり、1 枚の CD を繰り返し聞くなど、繰り返し再生する範囲を選ぶことができます。



再生範囲について

再生範囲（繰り返し聞く範囲）は、次の中から選ぶことができます。

表示	再生範囲
Track repeat	再生中の曲を繰り返し再生します。
Disc repeat	再生中の CD を繰り返し再生します。
M-CD repeat	マルチ CD にセットされているすべての CD を通して再生します。(通常はこのモードにしておきます。)

1 再生範囲切換モードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(⇒「マルチ CD」51 ページ)

2 リピート再生する範囲を選ぶ

ロータリーコマンドーを押す
ロータリーコマンドーを押すごとにリピート範囲が次のように切り換わります。



いつもと違う曲順で聞く

ランダム再生

選曲をマルチ CD にまかせて、いつもと違う曲順（ランダム）で再生することができます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ (⇒「マルチ CD」このページ)

選んだ再生範囲内でランダム再生が行われます。

2 ランダムモードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(⇒「マルチ CD」51 ページ)

3 ランダム再生を ON にする

ロータリーコマンドーを押す
ロータリーコマンドーを押すごとに ON / OFF します。



次の曲から、ランダムに選曲します。



メモ

- トラックリピートのときにランダム再生を ON にすると、再生範囲がディスクリピートに切り換わりランダム再生します。

聞きたい曲や CD をさがす

トラックスキャン再生 / ディスクスキャン再生

今聞いている曲の出だしの部分だけを約 10 秒ずつ次々に聞くことができます。また、全 CD の 1 曲目の出だしの部分だけを次々に聞くこともできます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ (→「マルチCD」52ページ)

■ 聞きたい曲をさがすとき (トラックスキャン再生)

再生範囲をディスクリピートに切り換えます。再生中の CD の全曲を、約 10 秒ずつ再生することができます。

■ 聞きたい CD をさがすとき (ディスクスキャン再生)

再生範囲をマルチ CD リピートに切り換えます。マルチ CD 内の全 CD の 1 曲目だけを、約 10 秒ずつ再生することができます。

2 スキャンモードにする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ
(→「マルチCD」51 ページ)

3 スキャン再生を始める

ロータリーコマンドを押す



曲の出だしの約 10 秒間が次々に再生されます。

4 聞きたい曲 (CD) が再生されたらスキャン再生をOFFにする

スキャンモードのときにロータリーコマンドを押す



確認

- ファンクションモードが解除されていたら、まずもう一度スキャンモードにしてください。次に、スキャン再生を OFF にします。



メモ

- スキャン再生を始めた曲 (または CD) まで戻ると、スキャン再生は解除されます。
- トラックリピートのときにスキャン再生を ON にすると、再生範囲がディスクリピートに切り換わりトラックスキャン再生します。

マルチCDでCDを聞く

CD 再生を一時停止する

ポーズ

CD 再生を一時停止することができます。

1 ポーズモードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(⇒「マルチ CD」51 ページ)

2 CD 再生を一時停止する

ロータリーコマンドーを押す
ロータリーコマンドーを押すごとに ON / OFF します。



マルチCDでCDを聞く

聞きたい曲だけ 指定しておく

指定した曲だけ再生する (⇒「マルチ CD」55 ページ) ために、あらかじめ聞きたい曲をマルチ CD に指定しておきます。

1 ITS について

ITS とは、「Instant Track Selection (インスタントトラック セレクション)」の略です。ITS は、聞きたい曲だけを指定しておき、それを再生する機能です。

- 曲の指定は CD ごとに行われます。CD を入れ換えても、その CD の曲の指定は解除されません
- CD1 枚につき 99 曲まで指定できます。(「CDX-P1250」「CDX-P650」以前に発売されたマルチ CD では、指定できる曲が 24 曲目までになります。)
- ITS は、タイトル (⇒「マルチ CD」57 ページ) と合わせて CD100 枚分の指定ができます。
- 100 枚を超えたときは、いちばん古い CD の指定が解除されて、新しい CD の曲が指定されます。

1 曲の指定をしたいCDを再生する

ロータリーコマンドーを上下に操作する (⇒「ここだけで」28 ページ)

2 ITS 入力モードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ (⇒「マルチ CD」51 ページ)

3 指定したい曲を選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作する (⇒「ここだけで」29 ページ)

指定した曲だけ再生する

ITS 再生

ITS 入力

ITS 入力 (→「マルチ CD」54 ページ) で指定した曲だけを再生することができます。

4 指定する

ロータリーコマンドーを上に表示する



約 2 秒間表示され、曲が指定されたことを知らせます。

1 再生範囲切換モードにして再生範囲を選ぶ (→「マルチ CD」52 ページ)

選んだ再生範囲内で ITS 再生が行われます。

2 ITS 再生モードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ (→「マルチ CD」51 ページ)

3 ITS 再生を ON にする

ロータリーコマンドーを押す
ロータリーコマンドーを押すごとに ON / OFF します。



ITS 再生が始まり、指定した曲だけが再生されます。

メモ

- 手順 1 で選んだ再生範囲内に、指定した曲がない場合は、「ITS empty」が約 2 秒間表示されて、ITS 再生は行われません。

曲の指定を 1 曲ずつ解除する

ITS 解除 (1 曲ずつ)

曲の指定を 1 曲ずつ解除できます。

1 ITS再生をONにする
(→「マルチCD」55ページ)

2 指定を解除したい曲を再生する

ロータリーコマンドを左右に操作する
(→「ここだけで」29ページ)

3 ITS入力モードにする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ
(→「マルチCD」51ページ)

4 指定を解除する

ロータリーコマンドを下に操作する



再生していた曲の指定が解除され、次に指定されている曲が再生されます。

5 ITS入力モードを解除する

BAND ボタンを押す



メモ

- 現在の再生範囲内に指定した曲がなくなった場合は、“Memory deleted”が約2秒間表示されて、ITS再生がOFFになります。

曲の指定を CD ごと に解除する

ITS 解除 (CD ごと)

曲の指定を CD ごとに解除できます。

1 指定を解除したいCDを再生する

ロータリーコマンドを上下に操作する
(→「ここだけで」28ページ)
ITS再生がONになっているときは、ITS再生をOFFにしてください。
(→「マルチCD」55ページ)

2 ITS入力モードにする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ
(→「マルチCD」51ページ)

3 指定を解除する

ロータリーコマンドを下に操作する



約2秒間表示され、解除したことを知らせます。

4 ITS入力モードを解除する

BAND ボタンを押す

CD のタイトルを入力する

ディスクタイトル入力

CD のタイトルを入力することができます。また、入力したタイトルをディスプレイに表示できます。



タイトル入力について

タイトル表示は、CD のタイトルを入力しておき、ディスプレイに表示させる機能です。タイトルを入力しておくこと、CD 再生時に入力したタイトルを表示できます。

CD にタイトルを付けるとディスクリスト (→「マルチ CD」59 ページ) で聞きたい CD をさがすこともできます。

「CD TEXT」に対応しているマルチ CD (「CDX-P670」など) では、「CD TEXT」にあらかじめ収録されている CD タイトルのディスクリスト (→「マルチ CD」59 ページ) を表示することができます。

- タイトルは 10 文字まで入力できます。
- 登録は CD ごとに行われます。CD を入れ換えても、その CD の記憶は消えません。
- タイトルは、ITS (→「マルチ CD」54 ページ) と合わせて CD100 枚分の登録ができます。
- 100 枚を超えたときは、いちばん古い CD の登録内容が消されて、新しい CD が登録されます。

1

タイトルを入力したい CD を再生する

ロータリーコマンドナーを上下に操作する (→「ここだけ」28 ページ)

2

タイトル入力モードにする

ロータリーコマンドナーを操作して選ぶ (→「マルチ CD」51 ページ)



ご注意

- 「CD TEXT」に対応しているマルチ CD (「CDX-P670」など) で「CD TEXT」を再生しているときは、タイトル入力モードには切り換わりません。「CD TEXT」に収録されている CD タイトルは変更できません。

3

入力する文字の種類を選ぶ

DISPLAY ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

→ アルファベットの 大文字 (A ~ Z) ・
数字 (0 ~ 9) ・記号 (!, #, & など) ・
空白 ()

↓

アルファベットの 小文字 (a ~ z) ・
空白 ()

↓

数字 ・記号 (!, #, & など) ・空白 ()

↓

カタカナ (ア〜ン) ・音引き (ー) ・空白 ()

↓

拗促音 (ア、ヨ、ツなど) ・濁点 ・半濁点 ・
空白 ()

4 タイトルを入力する

■入力する文字を選ぶ

ロータリーコマンドを上下に操作する
 上：次の文字を選ぶとき
 下：前の文字を選ぶとき



選んだ文字が点滅します。

■入力する位置を選ぶ

ロータリーコマンドを左右に操作する
 右：右に移動させるとき
 左：左に移動させるとき



入力する位置でカーソルが点滅します。
 10文字まで入力できます。

5 入力が終わったら、10文字目を点滅させる

カーソルが10文字目の位置にくるまで、ロータリーコマンドを右に操作する



余ったところを空白にして、10文字目を点滅させます。

6 入力したタイトルを登録する

ロータリーコマンドを右に操作する



入力位置の点滅が終わり、入力したタイトルを登録します。

7 タイトル入力モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

- タイトル入力中（文字が点滅しているとき）に BAND ボタンを押すと、タイトル入力モードが途中で解除されます。（この場合、入力中のタイトルは登録されません。）
- DISPLAY ボタンを押すと、入力したタイトルを表示することができます。もう一度ボタンを押すと、タイトル表示は消えます。
- タイトルを入力していない CD で表示を切り換えると、タイトル表示は空白になります。

タイトルを見て聞きたい CD をさがす

ディスクリスト

CDのタイトル一覧(ディスクリスト)を見ながら、聞きたいCDをさがすことができます。

1 ディスクリストモードにする

ロータリーコマンドを回す
ディスクリストモードに切り換わります。



2 聞きたい CD を選ぶ

ロータリーコマンドを回す
ロータリーコマンドを回すごとに、CDのタイトルが切り換わります。
右回し: 次のCDを選ぶとき
左回し: 前のCDを選ぶとき

3 聞きたい CD を再生する

聞きたいCDが中央に表示されているときに、ロータリーコマンドを押す
選んだCDが再生されます。

4 ディスクリストモードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

- 再生中のCDは反転表示されます。
- ロータリーコマンドを上下に操作して聞きたいCDタイトルを表示することもできます。
- マガジンにCDがセットされていないときは、「No Disc」と表示されます。また、タイトルが記憶されていないCDを入れたときは、「No D. Title」が表示されます。
- ディスクリストモードは、30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

曲名を見て聞きたい曲をさがす

トラックリスト

ディスクリスト(→「マルチCD」このページ)で「CD TEXT」(→「はじめに」11ページ)を選んだ場合、曲名の一覧(トラックリスト)を見ながら聞きたい曲をさがすことができます。

1 ディスクリストモードにする

ロータリーコマンドを回す
ディスクリストモードに切り換わります。



2 トラックリストを表示する

聞きたい「CD TEXT」が中央に表示されているときに、ロータリーコマンドを右に操作する

注意

- 「CD TEXT」に対応しているマルチCD(CDX-P670)などで「CD TEXT」を選んだときだけ、トラックリストが表示されます。

3 聞きたい曲を選ぶ

ロータリーコマンドを回す
ロータリーコマンドを回すごとに曲名が切り換わります。
右回し: 次の曲を選ぶとき
左回し: 前の曲を選ぶとき

4 聞きたい曲を再生する

聞きたい曲が中央に表示されているときに、ロータリーコマンドを押す
選んだ曲が再生されます。

メモ

- 再生中の曲は反転表示されます。
- 「CD TEXT」に曲名が収録されていないときは、「No T. Title」と表示されます。
- ロータリーコマンドを上下に操作して聞きたい曲名を表示することもできます。

タイトル表示を切り換える

タイトル表示／タイトルスクロール

「CD TEXT」(➡「はじめに」11 ページ)に対応しているマルチ CD (「CDX-P670」など)で「CD TEXT」再生中に、トラックタイトルのほかにディスクタイトルやディスクアーティスト名を表示させることができます。全角で7文字、半角で14文字まで一度に表示することができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見ることができます。



メモ

この機能は、「CD TEXT」に対応しているマルチ CD (「CDX-P670」など)で操作できます。



タイトル表示について

本機はカナやアルファベットなどの表示だけでなく、ひらがなや漢字などの表示にも対応しています。「CD TEXT」に漢字などの文字情報が収録されている場合でも、本機ではそのまま表示することができます。



メモ

- トラックアーティスト名(歌手名)などが収録されていないCDで表示を切り換えると、タイトル表示は空白になります。



隠れている文字を表示させるには

DISPLAY ボタンを長く押す

隠れている文字が順番に表示されます。



メモ

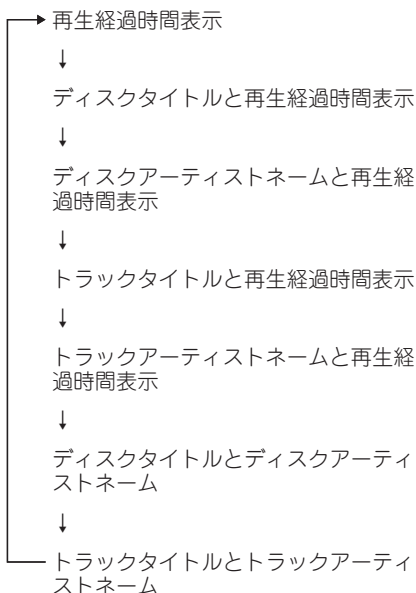
- 初期設定で連続スクロール機能を ON にした場合、タイトルが繰り返しスクロールして表示されます。タイトルの最初の文字を表示させて、再びスクロールさせたいときは、DISPLAY ボタンを長く押ししてください。連続スクロールについては(➡「便利な機能」131 ページ)

1

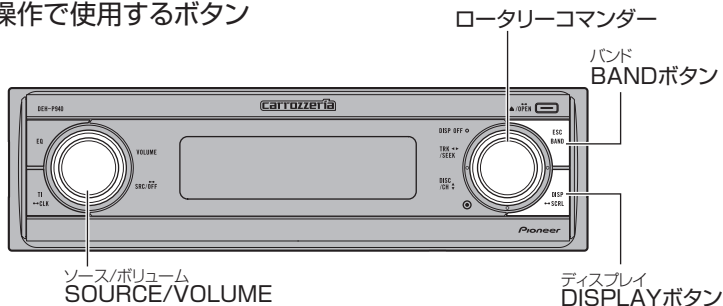
表示を切り換える

DISPLAY ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。



この操作で使用するボタン



iPod について

本機での iPod アダプター（例：「CD-IB10II」）の基本的な操作方法を説明しています。iPod アダプターの機能について、詳しくは組み合わせた iPod アダプターの取扱説明書をご覧ください。

(画面例)



iPod を聞く

iPod のふだんの操作

ここだけの操作で、iPod の音楽を聞くことができます。

1 ソースを iPod にする

SOURCE/VOLUME を押す

2 聞きたい曲を選ぶ

ロータリーコマンダーを左右に操作する

選曲と早送り	早戻しの使い分け
聞きたい曲の選択	左右に操作
曲の早送り／早戻し	左右に操作し続けている間

3 iPod の再生をやめる

他のソースに切り換えるか、電源を OFF にする

メモ

- 再生範囲切り換えモードで、1曲リピートを選んでいる場合、ロータリーコマンダーを左右に操作して曲を選ぶことはできません。

プレイリストを選んで再生する

プレイリスト

iPod の「プレイリスト」から聞きたいプレイリストや曲を選んで再生することができます。

1 リストモードのトップメニューにする

ロータリーコマンドーを回す
リストモードに切り換わります。

2 「プレイリスト」を選ぶ

ロータリーコマンドーを回して「プレイリスト」を中央に表示し、ロータリーコマンドーを押す

ロータリーコマンドーを回すごとに次のように切り換わります。

プレイリスト



アーティスト



アルバム



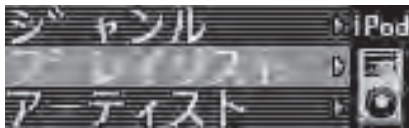
曲



ジャンル



プレイリストに戻る



iPod に登録されているプレイリストが表示されます。

3 お好みのプレイリスト (例：「PLAYLIST 1」) を選ぶ

ロータリーコマンドーを回して「PLAYLIST 1」を中央に表示し、ロータリーコマンドーを押す



「PLAYLIST 1」に登録されている曲のリストが表示されます。

4 お好みの曲 (例：「SONG c」) を選ぶ

ロータリーコマンドーを回して「SONG c」を中央に表示し、ロータリーコマンドーを押す



「SONG c」の再生が始まります。

メモ

- 1つ前のリストに戻るには、ロータリーコマンドーを左に操作します。
- 手順3で、再生したいプレイリストを中央に表示しているときに、ロータリーコマンドーを長く押しすと、選んだプレイリストをすぐに再生することができます。
- ロータリーコマンドーを上下に操作して、聞きたいプレイリスト名を表示することもできます。
- ロータリーコマンドーを右に操作して、中央に表示しているプレイリストを選ぶこともできます。
- ロータリーコマンドーを左に長く操作すると、トップメニューに戻ることができます。
- プレイリストは、30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

聞きたい曲をさがす

ジャンル、アーティスト、アルバムの中から、お好みのアーティストやアルバムなどを選んで再生できます。

1 リストモードのトップメニューにする

ロータリーコマンドを回してリストモードに切り換わります。

2 「ジャンル」を選ぶ

ロータリーコマンドを回して「ジャンル」を中央に表示し、ロータリーコマンドを押す

ロータリーコマンドを回すごとに次のように切り換わります。

プレイリスト



アーティスト



アルバム



曲



ジャンル



プレイリストに戻る



ジャンルのリストが表示されます。

3 お好みのジャンル (例:「Jazz」) を選ぶ

ロータリーコマンドを回して「Jazz」を中央に表示し、ロータリーコマンドを押す



「Jazz」に登録されているアーティストのリストが表示されます。

4 お好みのアーティスト (例:「Artist 2」) を選ぶ

ロータリーコマンドを回して「Artist 2」を中央に表示し、ロータリーコマンドを押す



「Artist 2」に登録されているアルバムのリストが表示されます。

5 お好みのアルバム (例:「Album B」) を選ぶ

ロータリーコマンドを回して「Album B」を中央に表示し、ロータリーコマンドを押す



「Album B」に登録されている曲のリストが表示されます。

モードの切り換えかた

ミュージック (ブラウズ)

6 お好みの曲 (例: 「SONG c」) を選ぶ

ロータリーコマンドを回して「SONG c」を中央に表示し、ロータリーコマンドを押す



「SONG c」の再生が始まります。

メモ

- 1つ前のリストに戻るには、ロータリーコマンドを左に操作します。
- 手順3で、再生したいリストを中央に表示しているときに、ロータリーコマンドを長く押すと、選んだリストをすぐに再生することができます。
- ロータリーコマンドを上下に操作して、聞きたいリスト名を表示することもできます。
- ロータリーコマンドを右に操作して、中央に表示しているリストを選ぶこともできます。
- ロータリーコマンドを左に長く操作すると、トップメニューに戻ることができます。

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 メインメニューを表示させる

ロータリーコマンドを押す
「FUNCTION」、「AUDIO」、
「ENTERTAINMENT」が表示されます。

2 ファンクションモードにする

ロータリーコマンドを回して
「FUNCTION」を選び、ロータリー
コマンドを押す

3 ファンクションモードを切り換える

ロータリーコマンドを回す
ロータリーコマンドを回すごとに次のように切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)
再生範囲切替モード (➡「iPod」66 ページ)
↓
シャッフルモード (➡「iPod」66 ページ)
↓
ポーズモード (➡「iPod」67 ページ)
↓
再生範囲切替モードに戻る

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

リモコンの場合

- FUNCTION ボタンを押すごとに、ファンクションモードが切り換わります。

メモ

- ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

同じ曲や聞いている リストを繰り返し聞く

リピート再生

今聞いている曲を繰り返し聞いたり、今聞いているリストを繰り返し聞くなど、繰り返し再生する範囲を選ぶことができます。



再生範囲について

- 再生範囲（繰り返し聞く範囲）は、次の中から選ぶことができます。

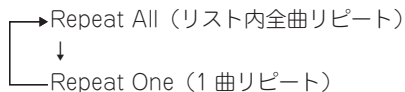
表示	再生範囲
Repeat One	再生中の曲を繰り返し再生します。
Repeat All	再生中のリストを繰り返し再生します。

1 再生範囲切り替えモードにする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ
(⇒「iPod」65 ページ)

2 リピート再生する範囲を選ぶ

ロータリーコマンドを押す
ロータリーコマンドを押すごとにリピート範囲が次のように切り換わります。



メモ

- 1 曲リピートを選んだ場合、ロータリーコマンドを左右に操作しても、曲を切り換えることはできません。

いつもと違う曲順で聞く

シャッフル再生

いつもと違う曲順（ランダム）で再生することができます。



シャッフル再生について

- シャッフル再生（シャッフル再生する方法）は、次の中から選ぶことができます。

表示	再生範囲
Shuffle OFF	曲を順番通りに再生します。
Shuffle Songs	再生中のリスト内の曲をランダムに再生します。
Shuffle Albums	アルバムをランダムに選び、選んだアルバム内の曲を順番通りに再生します。

1 シャッフルモードにする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ
(⇒「iPod」65 ページ)

2 シャッフル設定を選ぶ

ロータリーコマンドを押す
ロータリーコマンドを押すごとにシャッフル設定が次のように切り換わります。



再生を一時停止する

ポーズ

再生を一時停止することができます。

1 ポーズモードにする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(⇒「iPod」65 ページ)

2 再生を一時停止する

ロータリーコマンドーを押す
ロータリーコマンドーを押すごとに ON / OFF します。



タイトル表示を切り換える

タイトル表示 / タイトルスクロール

iPod に記録されている曲名やアーティストネーム、アルバムタイトルなどを表示させることができます。全角で 7 文字、半角で 14 文字まで一度に表示することができます。また、隠れている文字をスクロール表示で見ることができます。

1 表示を切り換える

DISPLAY ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

→ 再生経過時間表示



アルバムタイトルと再生経過時間表示



曲名と再生経過時間表示



アーティストネームと再生経過時間表示



アーティストネームとアルバムタイトル



曲名とアルバムタイトル



メモ

- 本機が表示できない文字が iPod に記録されている場合、その文字は表示されません。



隠れている文字を表示させるには

DISPLAY ボタンを長く押す

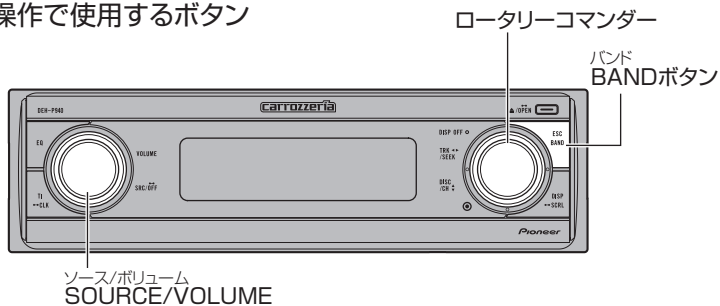
隠れている文字が順番に表示されます。



メモ

- 初期設定で連続スクロール機能を ON にした場合、タイトルが繰り返しスクロールして表示されます。タイトルの最初の文字を表示させて、再びスクロールさせたいときは、DISPLAY ボタンを長く押してください。連続スクロールについては (⇒「便利な機能」131 ページ)

この操作で使用するボタン



テレビについて

本機でのテレビの基本的な操作方法を説明しています。テレビの機能について、詳しくは組み合わせたテレビの取扱説明書をご覧ください。

(画面例)



- 本機では、登録させたチャンネルを一覧表示して見たいチャンネルを選ぶこともできます。(➡「テレビ」69ページ)

テレビのふだんの操作

ここだけの操作で、テレビを見ることができます。

1 ソースをテレビにする

SOURCE/VOLUME を押す

2 バンドを選ぶ

BAND ボタンを押す

3 チャンネルを選局する

ロータリーコマンダーを左右に操作する

選局方法の使い分け

手動選局 (1チャンネルずつ)	左右に操作
自動選局	左右に長く操作

4 テレビの受信をやめる

他のソースに切り換えるか、電源をOFFにする



メモ

- リモコンの1～6ボタンでお好みのチャンネルの登録や呼び出しを行うことができます。(➡「ラジオ」46、47ページ)
- チャンネルリストモードでもチャンネルを登録することができます。(➡「テレビ」69ページ)

ファンクションモードの操作

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 メインメニューにする

ロータリーコマンドを押す
「FUNCTION」、「AUDIO」、
「ENTERTAINMENT」が表示されます。

2 ファンクションモードにする

ロータリーコマンドを回して「FUNCTION」
を選び、ロータリーコマンドを押す

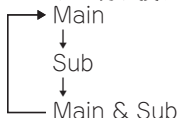
3 操作したいモードを選ぶ

ロータリーコマンドを回す
ロータリーコマンドを回すごとに次のよ
うに切り換わります。
BSSM モード
↓
マルチプレックスモード
↓
BSSM モードに戻る

4 選んだモードを操作する

BSSM モード
ロータリーコマンドを押すごとに ON /
OFF します。BSSM が終了すると、自動的
にチャンネルリストモードに切り換わります。

マルチプレックスモード
ロータリーコマンドを押すごとに次のよ
うに切り換わります。



5 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

- ファンクションモードは、約 30 秒間何も操
作しないと自動的に解除されます。
- BSSM とは、「Best Stations Sequential
Memory (ベストステーションズシーケン
シャルメモリー)」の略です。

チャンネル一覧から見た いチャンネルを呼び出す

チャンネルリスト

登録番号 1 ~ 12 に登録させたチャンネルの一
覧 (チャンネルリスト) から、見たいチャン
ネルを選ぶことができます。

メモ

- この機能は、チャンネルリスト機能に対応し
ているテレビ (「AVX-P9DV」や「AVX-P7」
など) で操作できます。

1 チャンネルリストモードにする

ロータリーコマンドを回す
チャンネルリストモードに切り換わります。



2 見たいチャンネルを表示する

ロータリーコマンドを回す
ロータリーコマンドを回すごとにチャン
ネルが切り換わります。

3 見たいチャンネルを選ぶ

見たいチャンネルが中央に表示されてい
るときに、ロータリーコマンドを押す
選んだチャンネルを受信します。

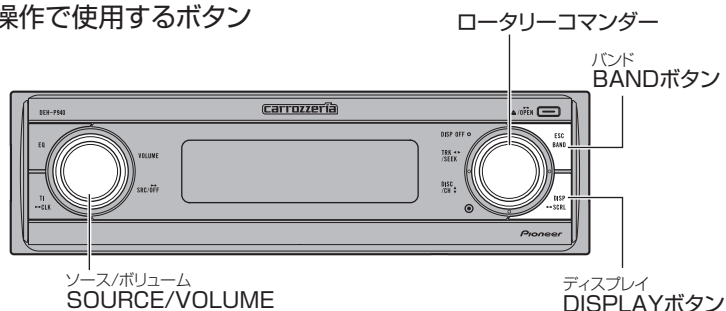
4 チャンネルリストモードを解 除する

BAND ボタンを押す

メモ

- 受信中のチャンネルは反転表示されます。
- ロータリーコマンドを長く押しと、中央に
表示されている登録番号に現在受信している
チャンネルを登録させることができます。
- チャンネルリストモードは、30 秒間何も操
作しないと自動的に解除されます。

この操作で使用するボタン



DVD プレーヤーについて

本機での DVD プレーヤー（例：マルチ DVD「XDV-P70」、1 枚型 DVD「SDV-P7」）の基本的な操作方法を説明しています。DVD プレーヤーの機能について、詳しくは組み合わせた DVD プレーヤーの取扱説明書をご覧ください。

(画面例)



D
V
D
を
再
生
す
る

DVD のふだんの操作

ここだけの操作で、DVD プレーヤーでディスクを再生することができます。

1 ソースを DVD にする

SOURCE/VOLUME を押す

2 マルチDVDの場合、聞きたいディスクを選ぶ

ロータリーコマンダーを上下に操作する

3 再生したいチャプター／トラックを選ぶ（または早送り／早戻し）

ロータリーコマンダーを左右に操作する

4 DVDプレーヤーの再生をやるめる

他のソースに切り換えるか、電源を OFF にする

メモ

- マルチ DVD の場合、リモコンの 1～6 ボタンで直接ディスクを選ぶこともできます。
(➡「マルチ CD」50 ページ)

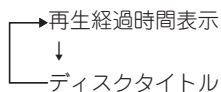
表示を切り換える

マルチ DVD プレーヤーで再生している CD のタイトルを表示することができます。

1 表示を切り換える

DISPLAY ボタンを押す

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。



メモ

- CD にタイトルが入力されている場合だけ、ディスクタイトル表示に切り換えることができます。

ファンクションモードの操作

ふだんの操作以外の便利な機能を使うときは、モードを切り換えて操作します。

1 メインメニューにする

ロータリーコマンドーを押す
「FUNCTION」、「AUDIO」、
「ENTERTAINMENT」が表示されます。

2 ファンクションモードにする

ロータリーコマンドーを回して
「FUNCTION」を選び、ロータリー
コマンドーを押す

3 操作したいモードを選ぶ

ロータリーコマンドーを回す
ロータリーコマンドーを回すごとに次のよ
うに切り換わります。

DVD、ビデオ CD 再生時

再生範囲切替モード



ポーズモード



再生範囲切替モードに戻る

CD 再生時

再生範囲切替モード



ランダムモード



スキャンモード



ポーズモード



ITS 再生モード



ITS 入力モード



タイトル入力モード



再生範囲切替モードに戻る

CD-ROM 再生時

再生範囲切替モード



ランダムモード



スキャンモード



ポーズモード

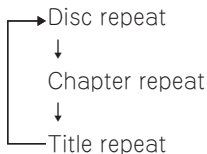


再生範囲切替モードに戻る

4 選んだモードを操作する

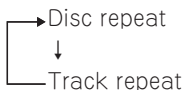
再生範囲切換モード (DVD 再生時)

ロータリーコマンドを押すごとに再生範囲が次のように切り換わります。



再生範囲切換モード (ビデオ CD、CD 再生時)

ロータリーコマンドを押すごとに再生範囲が次のように切り換わります。



再生範囲切換モード (CD-ROM 再生時)

ロータリーコマンドを押すごとに再生範囲が次のように切り換わります。



ランダムモード

ロータリーコマンドを押すごとに ON / OFF します。

スキャンモード

ロータリーコマンドを押すごとに ON / OFF します。

ポーズモード

ロータリーコマンドを押すごとに ON / OFF します。

タイトル入力モード

タイトル入力モードの操作方法はマルチ CD と同じです。(➡「マルチ CD」57 ページ)

ITS 再生モード

ITS 再生モードの操作方法はマルチ CD と同じです。(➡「マルチ CD」55 ページ)

ITS 入力モード

ITS 入力モードの操作方法はマルチ CD と同じです。(➡「マルチ CD」54 ページ)

5 ファンクションモードを解除する

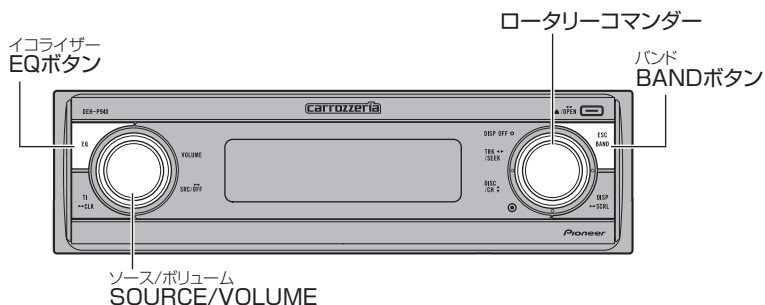
BAND ボタンを押す



メモ

- ファンクションモードは、約 30 秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、タイトル入力モードや ITS 入力モードを選んでいる場合は、自動では解除されません。
- 「CD TEXT」に対応している DVD プレーヤーで「CD TEXT」を再生しているときは、タイトル入力モードには切り換わりません。(「CD TEXT」にあらかじめ収録されているタイトルは変更できません。)
- マルチ DVD プレーヤー (「XDV-P9II」など) を組み合わせた場合だけ、ITS 再生モード、ITS 入力モードに切り換わります。

この操作で使用するボタン



本機に「DEQ-P9」を接続している場合

ここでは、本機の内蔵 DSP の機能について説明しています。本機に、別売の 5.1 ch 対応・DSP ユニット「DEQ-P9」を接続している場合は、「内蔵 DSP」の機能は使用できません。(➡「別売 DSP」98 ページ)

DSP について

本機には、3-way ネットワークモード (NW) とスタンダードモード (STD) の 2 つの動作モードがあります。お好みに合わせて、モードを切り換えることができます。

初期設定はスタンダードモード (STD) になっています。(➡「はじめに」13 ページ)

動作モードについて

- 3-way ネットワークモード (NW) は、高・中・低音域のそれぞれの音域 (バンド) を専用のアンプとスピーカーで再生する 3-way マルチアンプ・マルチスピーカーシステムを構築することができます。3-way ネットワークモードには、マルチアンプ・マルチスピーカーシステムに不可欠なネットワーク機能やタイムアライメント機能があり、各音域の設定条件を厳密にコントロールすることができます。
- スタンダードモード (STD) は、フロント・リアの 4 スピーカーシステム、またはフロント・リア・サブウーファーの 6 スピーカーシステムを構築することができます。また、スタンダードモードには、簡単にリアルな音場を再現することができる SFC 機能があります。

メモ

- 車のバッテリー交換などで、本機に電源が供給されなくなった場合でも、オーディオ調節の内容は消去されません。オーディオ調節の内容を消去したいときは、オーディオ設定をリセット (➡「便利な機能」128 ページ) してください。

動作モードのマークについて

この説明書では、説明を分かりやすくするため、以下のマークを使用しています。

NW

このマークは、3-Way ネットワークモードにしかない機能および 3-Way ネットワークモードでの操作をあらわします。

STD

このマークは、スタンダードモードにしかない機能およびスタンダードモードでの操作をあらわします。

- 何もマークが付いていない機能や操作は、2 つのモードに共通して使用できます。

メモ

- DSP とは、「Digital Signal Processor」の略です。DSP を使うことで、細かな音の調節が可能になります。

オーディオ調節のポイント

心地よい音の空間を手軽に演出したり、お好みに合わせてきめ細かく調節することができます。

3-way ネットワークモード **NW**

次の順に設定や調節することで、きめ細かくお好みの音場を創り出すことができます。

手軽に心地よい音場を演出する

次の機能は、車種によって異なる音響特性に合わせた音場の演出を手軽に調節することができます。

- 音場の中心で聞く (POSI)
- オートタイムアライメント & イコライジングを行う
- イコライザーカーブを選ぶ
- イコライザーカーブを大まかに補正する (GEQ1)

きめ細かくお好みに合わせて調節する

次の順に設定や調整をすることで、きめ細かくお好みの音場を創り出すことができます。

- 左右の音場バランスを調節する (BAL)
- タイムアライメントを調節する (TA2)
- ネットワークを調節する (NW1, NW2, NW3, NW4)
- イコライザーカーブを選ぶ
- イコライザーカーブを細かく補正する (GEQ2)

スタンダードモード **STD**

次の順に設定や調節することで、きめ細かくお好みの音場を創り出すことができます。

手軽に心地よい音場を演出する

次の機能は、車種によって異なる音響特性に合わせた音場の演出を手軽に調節することができます。

- 音場の中心で聞く (POSI)
- オートタイムアライメント & イコライジングを行う
- イコライザーカーブを選ぶ
- イコライザーカーブを大まかに補正する (GEQ1)

きめ細かくお好みに合わせて調節する

次の順に設定や調整をすることで、きめ細かくお好みの音場を創り出すことができます。

- 左右の音場バランスを調節する (BAL)
- サブウーファーを使う (SW1, SW2, SW3)
- 低い音をスピーカーから出力させないようにする (F-HPF1, F-HPF2, R-HPF1, R-HPF2)
- イコライザーカーブを選ぶ
- イコライザーカーブを細かく補正する (GEQ2)

次の機能は、お好みに合わせてお使いください。

便利な機能

- 音響効果をかける (BBE) **NW**
- 小音量時の音にメリハリをつける (LOUD)
- CD、iPodなどの音質を調整する (COMP/BMX)
- イメージにあった演奏会場を再現する (SFC) **STD**
- 騒音に合わせて音量を変える (ASL)
- 各ソースの音量の違いをそろえる (SLA)

オーディオ調節モードの切り換えかた

音を調節するときは、オーディオ調節モードを切り換えて操作します。

1 メインメニューにする

ロータリーコマンドを押す
「FUNCTION」、「AUDIO」、
「ENTERTAINMENT」が表示されます。

2 オーディオ調節モードにする

ロータリーコマンドを回して
「AUDIO」を選び、ロータリーコマ
ンドを押す

3 オーディオ調節モードを切り換える

ロータリーコマンドを回す
ロータリーコマンドを回すごとにオー
ディオ調節モードが次のように切り換わり
ます。(切り換わり順は、選んだ動作モ
ードによって異なります。詳しくは、右の各
モード別の切り換わり順をご覧ください。)

4 オーディオ調節モードを解除する

BAND ボタンを押す



メモ

- オーディオ調節モードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、イコライザー16バンド調節モード(GEQ2)やタイムアライメントモード2(TA2)、ネットワークモード(NW1~NW4)を選んでいる場合、自動では解除されません。
- サブウーファーモード2(SW2)とサブウーファーモード3(SW3)はサブウーファーモード1(SW1)でサブウーファーをONにしているときだけ切り換わります。
- ラジオ、TVを聞いているときは、COMP/BMXモード(COMP)には切り換わりません。
- ラジオのFMを聞いているときは、SLAモード(SLA)には切り換わりません。

3-way ネットワークモードの場合

NW

音量バランス調節モード (BAL)
(⇒「内蔵 DSP」78 ページ)
↓
ネットワークモード 1 (NW1)
(⇒「内蔵 DSP」82 ページ)
↓
ネットワークモード 2 (NW2)
(⇒「内蔵 DSP」82 ページ)
↓
ネットワークモード 3 (NW3)
(⇒「内蔵 DSP」83 ページ)
↓
ネットワークモード 4 (NW4)
(⇒「内蔵 DSP」83 ページ)
↓
リスニングポジションセレクターモード
(POS1) (⇒「内蔵 DSP」78 ページ)
↓
タイムアライメントモード 1 (TA1)
(⇒「内蔵 DSP」79 ページ)
↓
タイムアライメントモード 2 (TA2)
(⇒「内蔵 DSP」80 ページ)
↓
ラウドネスモード (LOUD)
(⇒「内蔵 DSP」92 ページ)
↓
イコライザー調節モード (EQ1)
(⇒「内蔵 DSP」89 ページ)
↓
イコライザー 16 バンド調節モード (EQ2)
(⇒「内蔵 DSP」89 ページ)
↓
BBE モード (BBE)
(⇒「内蔵 DSP」90 ページ)
↓
COMP/BMX モード (BMX)
(⇒「内蔵 DSP」92 ページ)
↓
オートイコライザーモード (A.EQ)
(⇒「内蔵 DSP」88 ページ)
↓
ASL モード (ASL)
(⇒「内蔵 DSP」93 ページ)
↓
SLA モード (SLA)
(⇒「内蔵 DSP」93 ページ)
↓
音量バランス調節モードに戻る

左右チャンネルの調整モードを切り換える

スタンダードモードの場合

STO

音量バランス調節モード (F/B)
(⇒「内蔵 DSP」79 ページ)
↓
リスニングポジションセレクターモード (POSI) (⇒「内蔵 DSP」78 ページ)
↓
タイムアライメントモード 1 (TA1)
(⇒「内蔵 DSP」79 ページ)
↓
タイムアライメントモード 2 (TA2)
(⇒「内蔵 DSP」80 ページ)
↓
ラウドネスモード (LOUD)
(⇒「内蔵 DSP」92 ページ)
↓
イコライザー調節モード (EQ1)
(⇒「内蔵 DSP」89 ページ)
↓
イコライザー 16 バンド調節モード (EQ2)
(⇒「内蔵 DSP」89 ページ)
↓
サブウーファーモード 1 (SW1)
(⇒「内蔵 DSP」84 ページ)
↓
サブウーファーモード 2 (SW2)
(⇒「内蔵 DSP」84 ページ)
↓
サブウーファーモード 3 (SW3)
(⇒「内蔵 DSP」85 ページ)
↓
フロントハイパスフィルターモード 1 (F-HPF1) (⇒「内蔵 DSP」86 ページ)
↓
フロントハイパスフィルターモード 2 (F-HPF2) (⇒「内蔵 DSP」87 ページ)
↓
リアハイパスフィルターモード 1 (R-HPF1)
(⇒「内蔵 DSP」86 ページ)
↓
リアハイパスフィルターモード 2 (R-HPF2)
(⇒「内蔵 DSP」87 ページ)
↓
SFC モード (SFC) (⇒「内蔵 DSP」91 ページ)
↓
COMP/BMX モード (COMP)
(⇒「内蔵 DSP」92 ページ)
↓
オートイコライザーモード (A.EQ)
(⇒「内蔵 DSP」88 ページ)
↓
ASL モード (ASL) (⇒「内蔵 DSP」93 ページ)
↓
SLA モード (SLA) (⇒「内蔵 DSP」93 ページ)
↓
音量バランス調節モードに戻る

本機は、左右チャンネル共通、または左右チャンネル独立にオーディオ調整を行うことができます。



左右共通 / 独立切り換えについて

左右チャンネル共通調整モード、または左右チャンネル独立調整モードを切り換えられるオーディオ調整機能は以下の通りです。

3-way ネットワークモードの場合 **NW**

- ネットワークモード 1 (NW1)
- ネットワークモード 2 (NW2)
- ネットワークモード 3 (NW3)
- イコライザー 16 バンド調節モード (GEQ2)

スタンダードモードの場合 **STO**

- イコライザー 16 バンド調節モード (GEQ2)
- サブウーファーモード 2 (SW2)
- サブウーファーモード 3 (SW3)
- フロントハイパスフィルターモード 1 (F-HPF1)
- フロントハイパスフィルターモード 2 (F-HPF2)
- リアハイパスフィルターモード 1 (R-HPF1)
- リアハイパスフィルターモード 2 (R-HPF2)

内蔵 DSP で音を調節する

1 オーディオ調整機能を切り換える

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
左右チャンネル共通調整、または左右チャンネル独立調整を切り換えたい機能を選びます。

2 左右チャンネル共通または左右チャンネル独立を切り換える

ロータリーコマンドーを長く押す
押すごとに、左右チャンネル共通調整と左右チャンネル独立調整が切り換わります。

L/R : 左右チャンネル共通調整を選ぶとき

L ch (R ch) : 左右チャンネル独立調整を選ぶとき

3 左右のチャンネルを切り換える (左右チャンネル独立の場合)

ロータリーコマンドーを押す
押すごとに、左チャンネルと右チャンネルが切り換わります。

L ch : 左チャンネルを調整するとき

R ch : 右チャンネルを調整するとき

リスニングポジション を選ぶ

リスニングポジション

乗車位置や人数に合わせて、リスニングポジション（聞く位置）を選ぶことで、音像の定位を適切に補正することができます。

3-way ネットワークモードを選んでいる場合、「ALL」は選べません。

1 リスニングポジションモード (POSI) にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ
(→ 「内蔵 DSP」 76 ページ)

2 乗車位置を選ぶ

ロータリーコマンダーを上下左右に操作する

ロータリーコマンダーを同じ方向に操作するごとに ON / OFF します。

右：F/R

左：F/L

上：Front

下：ALL

表示	乗車位置
F/R (Front Right)	右ハンドル車に運転者のみがいるとき
F/L (Front Left)	左ハンドル車に運転者のみがいるとき
Front (Front Seat)	同乗者が助手席にいるとき
ALL (All Seat)	同乗者が後部座席にいるとき

STD



選んだ乗車位置が表示されます。

前後左右の音量バランス を調節する

前後左右のスピーカーの音量バランスを調節することができます。

3-way ネットワークモードを選んでいる場合は、前後のバランスは調節できません。

NW

1 音量バランス調節モード (BAL) にする

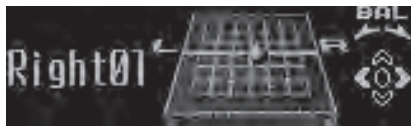
ロータリーコマンダーを操作して選ぶ
(→ 「内蔵 DSP」 76 ページ)

2 左右の音量バランスを調節する

ロータリーコマンダーを左右に操作する

右：右を強めるとき

左：左を強めるとき



左右のバランスは L25 ~ R25 の範囲で調節できます。

STO

1 音量バランス調節モード (F/B) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(⇒「内蔵 DSP」76 ページ)

2 音量バランスを調節する

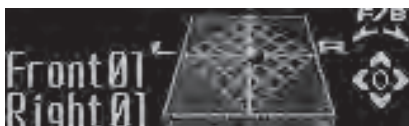
ロータリーコマンドーを上下左右に操作する

上：前を強めるとき

下：後ろを強めるとき

右：右を強めるとき

左：左を強めるとき



前後のバランスは F25 ～ R25 の範囲で調節できます。

左右のバランスは L25 ～ R25 の範囲で調節できます。

タイムアライメント
を選ぶ

お好みのタイムアライメントを選ぶことができます。



タイムアライメントについて

タイムアライメントは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節する機能です。

1 タイムアライメントモード1 (TA1) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(⇒「内蔵 DSP」76 ページ)

2 タイムアライメントを選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作する
ロータリーコマンドーを左右に操作することに次のように切り換わります。

Init ↔ Custom ↔ Auto ↔ OFF



タイムアライメントの種類 内容

Init (Initial)	初期設定状態 (ご購入直後の状態)
Custom	お好みに合わせて調節したタイムアライメント
Auto (Auto TA)	Auto TA & EQ で調節したタイムアライメント (⇒「内蔵 DSP」96 ページ)
OFF	タイムアライメントを OFF にします。



メモ

- Auto TA & EQ (⇒「内蔵 DSP」96 ページ) を行っていないときは、「Auto」を選ぶことはできません。(「Auto TA を設定してください」と表示されます。)

タイムアライメントを調節する

タイムアライメント調節

各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節することができます。リスニングポジション(→「内蔵 DSP」78 ページ)を設定することで自動的に設定されますが、タイムアライメントではさらに厳密な調節をすることができます。

1 タイムアライメントモード1 (TA1) にする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ(→「内蔵 DSP」76 ページ)

2 調節の元にするタイムアライメントを選ぶ

ロータリーコマンドを左右に操作して選ぶ(→「内蔵 DSP」79 ページ)

3 タイムアライメントモード2 (TA2) にする

ロータリーコマンドを右に回して選ぶ

確認

リスニングポジションモードで“F/R”か“F/L”を選んでいないと、タイムアライメントの調節をすることはできません。(“ポジションを FL か FR にしてください”と表示されます。)

4 各スピーカーの距離を調節する

調節するスピーカーを選ぶ

ロータリーコマンドを左右に操作することにより次のように切り換わります。

NW

High L
↓
High R
↓
Mid L
↓
Mid R
↓
Low L
↓
Low R

STO

Front L
↓
Front R
↓
Rear L
↓
Rear R
↓
SW-L (サブウーファーが ON のとき)
↓
SW-R (サブウーファーが ON のとき)

距離を調節する

ロータリーコマンドを上下に操作する

上: 距離を遠くするとき

下: 距離を近くするとき



0.00 cm ~ 400.00 cm の範囲で調節できます。

5 タイムアライメントモード2 を解除する

BAND ボタンを押す

メモ

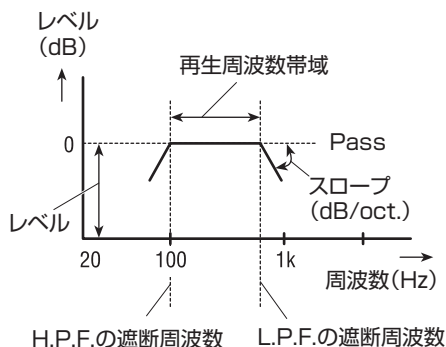
- タイムアライメントモード1 (TA1) で OFF を選んでいるときは、タイムアライメントモード2 (TA2) には切り換わりません。
- サブウーファーモード1 (SW1) でサブウーファーを OFF にしているときは、サブウーファーの調節はできません。
- タイムアライメントを調節すると、“Custom” に記憶されます。

ネットワークについて

ネットワーク機能は、オーディオ信号を各音域ごとに分割し、それぞれの音域を各音域専用のスピーカーユニットで再生します。各スピーカーユニットの特性に合わせ、再生周波数帯域（ハイパスフィルターやローパスフィルター）やレベル、位相などを厳密に調節できます。

調節項目

ネットワーク機能は、以下の項目の調節が可能です。接続した各スピーカーユニットの再生周波数帯域や特性に合うよう調節してください。



再生周波数帯域

ハイパスフィルター（H.P.F.）やローパスフィルター（L.P.F.）の遮断周波数調節は、各スピーカーユニットの再生周波数帯域を設定することができます。

- H.P.F. は、設定した周波数以下の周波数（低音域）をカットし、高い周波数だけを通すフィルターです。
- L.P.F. は、設定した周波数以上の周波数（高音域）をカットし、低い周波数だけを通すフィルターです。

レベル

スピーカーユニット間の再生レベルを補正することができます。

スロープ

H.P.F. / L.P.F. のスロープ（フィルター特性の減衰量の傾き）調節は、スピーカーユニット間の音のつながりを調節することができます。

- スロープは、周波数が1オクターブ高く（または低く）なったときに、信号が何dB減衰するかを表す値です（単位：dB/oct.）。傾きを急にすると、信号が減衰する割合が大きくなります。

位相

各スピーカーユニットの入力信号に対する位相（正相/逆相）を切り換えることができます。スピーカー間の音のつながりが悪いときは、位相を切り換えてみてください。音のつながりが良くなる場合があります。



ネットワーク調節のポイント

遮断周波数調節のポイント

低音域スピーカーをリアトレイに設置した場合、“Low LPF”の遮断周波数を高く設定すると、低音が分離して後ろから聞こえてくるようになります。“Low LPF”の遮断周波数は100 Hz以下に設定することをおすすめします。一般的に、中音域や高音域のスピーカーは、低音域のスピーカーより耐入力が高く設定されています。

“Mid HPF”や“High HPF”の遮断周波数を必要以上に低く設定すると、強い低音信号の入力によってスピーカーが破損するおそれがありますので、ご注意ください。

レベル調節のポイント

中音域には、多くの楽器の基本周波数が含まれています。最初に中音域のレベル調節を行い、高音域、低音域の順でレベルを調節することをおすすめします。

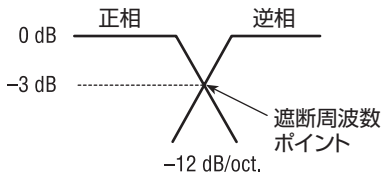
スロープ調節のポイント

スロープの絶対値を小さく（傾きを緩やかに）すると、隣り合うスピーカーユニット間の干渉によって周波数特性が影響を受けやすくなります。スロープの絶対値を大きく（傾きを急に）すると、スピーカーユニット間の音のつながりが悪くなり、音が分離して聞こえるようになります。

スロープを0dB/oct.（Pass）に設定すると、オーディオ信号はフィルター回路を回避するため、フィルター回路は効果がなくなります。

位相調節のポイント

両側のフィルター共に遮断周波数ポイントのスロープ設定値を-12dB/oct.に設定した場合、フィルターの遮断周波数において位相が180度反転します。この場合、位相を反転すると、音のつながりが良くなります。



次のページへつづく

ネットワークを調節する 前に **NW** <つづき>

スピーカーユニットにミュートを かける

各スピーカーユニット（フィルター）をミュートすることができます。ミュートしたスピーカーユニット（フィルター）からは、音が出なくなりません。

- ミュートしているときにレベルを調節すると、ミュートが解除されます。

1 ネットワークモード1 (NW1) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(⇒「内蔵 DSP」76 ページ)

2 ミュートするスピーカーユニット (フィルター) を選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作する
ロータリーコマンドーを左右に操作すること
に次のように切り換わります。

Low LPF (低音域スピーカーの LPF)



Mid HPF (中音域スピーカーの HPF)



Mid LPF (中音域スピーカーの LPF)



High HPF (高音域スピーカーの HPF)

3 選んだスピーカーユニット (フィルター) をミュートする

ロータリーコマンドーを下に長く押す
ロータリーコマンドーを上を押すと OFF
になります。



ネットワークを調節する **NW**

各スピーカーユニットの再生周波数帯域やレベル、位相などを調節することで、各スピーカーユニットの特性に合わせた厳密な設定をすることができます。

1 ネットワークモード1 (NW1) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(⇒「内蔵 DSP」76 ページ)

2 調整するスピーカーユニット (フィルター) を選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作する
ロータリーコマンドーを左右に操作すること
に次のように切り換わります。

Low LPF (低音域スピーカーの LPF)



Mid HPF (中音域スピーカーの HPF)



Mid LPF (中音域スピーカーの LPF)



High HPF (高音域スピーカーの HPF)

3 ネットワークモード2 (NW2) にする

ロータリーコマンドーを右に回して選ぶ

4 遮断周波数を調節する

ロータリーコマンドーを左右に操作する
ロータリーコマンドーを左右に操作すること
に次のように切り換わります。

Low LPF、Mid HPF を選んだとき

25 ↔ 31.5 ↔ 40 ↔ 50 ↔ 63 ↔ 80 ↔
100 ↔ 125 ↔ 160 ↔ 200 ↔ 250 (Hz)

Mid LPF、High HPF を選んだとき

1.25k ↔ 1.6k ↔ 2k ↔ 2.5k ↔ 3.15k ↔
4k ↔ 5k ↔ 6.3k ↔ 8k ↔ 10k ↔ 12.5k
(Hz)



5 レベルを調節する

ロータリーコマンドを上下に操作する



± 0 dB ~ - 24 dB の範囲で調節できます。Low LPF を選んでいる場合は、+ 6 dB ~ - 24 dB の範囲で調節できます。

6 ネットワークモード3(NW3)にする

ロータリーコマンドを右に回して選ぶ

7 スロープを調節する

ロータリーコマンドを左右に操作する
ロータリーコマンドを左右に操作することに次のように切り換わります。

Low LPF を選んだとき

- 36 ↔ - 30 ↔ - 24 ↔ - 18
↔ - 12 (dB/oct.)

Mid HPF、Mid LPF を選んだとき

- 24 ↔ - 18 ↔ - 12 ↔ - 6
↔ Pass (0) (dB/oct.)

High HPF を選んだとき

- 24 ↔ - 18 ↔ - 12
↔ - 6 (dB/oct.)



8 位相を切り換える

ロータリーコマンドを上下に操作する

上：NOR (正相)

下：REV (逆相)



9 ネットワークモード4(NW4)にする

ロータリーコマンドを右に回して選ぶ

10 STEREO/MONOを切り換える

ロータリーコマンドを左右に操作する (Low LPF を選んでいるときだけ操作できます)

右：STEREO を選ぶとき

左：MONO を選ぶとき



11 ネットワーク調節モードを解除する

BAND ボタンを押す

サブウーファーを使う **STD**

本機では、RCA 出力端子に接続したサブウーファーを調節することができます。(この機能は、初期設定で OFF になっています。)



位相切り換えについて

サブウーファーから出力される音の中には、フロント/リアスピーカーから出力される音と同じ周波数帯域のものが含まれています。車内条件により、これらの音の位相どうしが反転(干渉)すると、その周波数帯域が打ち消し合ってしまうことがあります。この現象を防ぐものが、サブウーファーの位相切り換えです。車内条件によって、位相の正相(フロント/リアスピーカーと同時に出力される)が良いか、逆相(フロント/リアスピーカーとタイミングをずらして出力される)が良いかを選んで設定してください。



カットオフ周波数について

選んだ周波数より低い周波数の音域がサブウーファーから出力されます。

1 サブウーファーモード1 (SW1) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「内蔵 DSP」76 ページ)

2 サブウーファーを ON にする

ロータリーコマンドーを押す
ロータリーコマンドーを押すごとに ON / OFF します。



3 STEREO/MONOを切り換える

ロータリーコマンドーを左右に操作する
右: STEREO を選ぶとき
左: MONO を選ぶとき

4 サブウーファーモード2 (SW2) にする

ロータリーコマンドーを右に回して選ぶ

5 カットオフ周波数とレベルを調節する

■ 周波数を選ぶ
ロータリーコマンドーを左右に操作する
右: 高い周波数を選ぶとき
左: 低い周波数を選ぶとき



50、63、80、100、125、160、200 (Hz) の中から選ぶことができます。

■ レベルを調節する
ロータリーコマンドーを上下に操作する
上: レベルを大きくするとき
下: レベルを小さくするとき



レベルは -24 ~ +6 の範囲で調節できます。

6 サブウーファーモード3 (SW3) にする

ロータリーコマンドを右に回して選ぶ

7 スロープを調節する

ロータリーコマンドを左右に操作する
ロータリーコマンドを左右に操作することによって次のように切り換わります。

18↔12↔6 (dB/oct.)



8 位相を切り換える

ロータリーコマンドを上下に操作する

上：NOR（正相）

下：REV（逆相）



メモ

- サブウーファーモード1 (SW1) でサブウーファーを OFF にしているときは、サブウーファーモード2 (SW2) とサブウーファーモード3 (SW3) には切り換わりません。

低い音を出力しないようにする **STD**

選んだ周波数より低い周波数の音が各スピーカーから出力されなくなります。フロントスピーカー、リアスピーカーのそれぞれでお好みの周波数を設定することができます。(スロープを Pass (0dB/oct.) に設定するとオーディオ信号はフィルター回路を回避するため、ハイパスフィルターは効果がなくなります。)

ハイパスフィルター (HPF) について

ハイパスフィルターは、設定した周波数から下の音域(低域)をカットして、高域を通すフィルターです。ハイパスフィルターを ON にすることにより、サブウーファーとの音のつながりを調節することができます。

カットオフ周波数について

選んだ周波数より高い音域がフロントまたはリアスピーカーから出力されます。

スロープについて

スロープは、周波数が1オクターブ高く(または低く)なったときに、信号が何dB減衰するかをあらわす値です(単位: dB/oct.)。傾きを急にすると、信号が減衰する割合が大きくなります。

スピーカーにミュートをかける

各スピーカーをミュートすることができます。ミュートしたスピーカーからは、音が出なくなります。

- 選んだスピーカーをミュートした場合、“MUTE”が表示され、そのスピーカーは、何も調節できなくなります。
- ミュートしたスピーカー以外のスピーカーは、調節することができます。

1 ハイパスフィルターモード1 (F-HPF1、R-HPF1) にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ(→「内蔵 DSP」76 ページ)

F-HPF1: フロントスピーカーをミュートするとき

R-HPF1: リアスピーカーをミュートするとき

2 選んだスピーカーをミュートする

ロータリーコマンダーを下に長く押す
ロータリーコマンダーを上を押すとミュートが解除されます。



MUTE が表示されます。

ハイパスフィルターを設定する

1 ハイパスフィルターモード1 (F-HPF1、R-HPF1) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(⇒「内蔵 DSP」76 ページ)

F-HPF1：フロントスピーカーを調節するとき

R-HPF1：リアスピーカーを調節するとき

2 スロープを調節する

ロータリーコマンドーを左右に操作する
ロータリーコマンドーを左右に操作することに次のように切り換わります。

12↔6↔Pass (0) (dB/oct.)

**3** ハイパスフィルターモード2 (F-HPF2、R-HPF2) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(⇒「内蔵 DSP」76 ページ)

F-HPF2：フロントスピーカーを調節するとき

R-HPF2：リアスピーカーを調節するとき

4 カットオフ周波数とレベルを調節する

■ 周波数を選ぶ
ロータリーコマンドーを左右に操作する

右：高い周波数を選ぶとき

左：低い周波数を選ぶとき



50、63、80、100、125、160、200 (Hz)の中から選ぶことができます。

■ レベルを調節する
ロータリーコマンドーを上下に操作する

上：レベルを大きくするとき

下：レベルを小さくするとき



レベルは-24～0の範囲で調節できます。

オートイコライザーを ON / OFF する

オートイコライザー

Auto TA & EQ (➡「内蔵 DSP」96 ページ) で作成したオートイコライザーカーブを ON / OFF することができます。

1 オートイコライザーモード (A.EQ) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ (➡「内蔵 DSP」76 ページ)

2 オートイコライザーを ON / OFF する

ロータリーコマンドーを押す
ロータリーコマンドーを押すごとに ON / OFF します。



メモ

- Auto TA & EQ (➡「内蔵 DSP」96 ページ) を行っていないときは、オートイコライザーモードの操作はできません。(“Auto EQ を設定してください”と表示されます。)

イコライザーカーブを選ぶ

あらかじめ用意されたイコライザーカーブの中から、お好みのイコライザーカーブを選ぶことができます。



それぞれのイコライザーカーブの効果

- Clarity : 高域、中域が抜けるような、明瞭で透明度の高い音を再生します。
- Rhythm : リズム楽器を、元気よく際立たせるような音色を再生します。
- Sensitive : ヴォーカルの表情を豊かに、かつ楽曲の繊細さを引き立てる音色を再生します。
- Narrow : 長時間のリスニングに適した、刺激を抑えた音色を再生します。
- Flat : 音の補正をしません。設定したイコライザーカーブと交互に切り換えて、イコライザーの効果を確認するときに使用してください。
- Custom : Custom1 と Custom2 は、お好みに合わせて調節できます (➡「内蔵 DSP」89 ページ)。

1 イコライザーカーブを選ぶ

EQ ボタンを押す

ボタンを押すごとに次のように切り換わります。

Flat → Custom1 → Custom2 → Clarity
→ Rhythm → Sensitive → Narrow → Flat に戻る



選んだイコライザーカーブが表示されます。



メモ

- 交通情報 (➡「便利な機能」119 ページ) を受信しているときは、イコライザーカーブを選ぶことはできません。

イコライザーカーブを大まかに補正する

ニュアンスコントロール

あらかじめ用意されたイコライザーカーブを調節することで、お好みの音質をつくることができます。

1 イコライザー調節モード (EQ1) を選ぶ

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「内蔵 DSP」76 ページ)

2 調節したいイコライザーカーブを選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作して選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作すると次のように切り換わります。

Flat ↔ Custom1 ↔ Custom2 ↔ Clarity
↔ Rhythm ↔ SENSITIVE ↔ Narrow

3 イコライザーカーブを調節する

ロータリーコマンドーを上下に操作する
上：強めるとき

下：弱めるとき



-6 ~ +6 の範囲で調節できます。

メモ

- “Flat” や “Custom1”、“Custom2” では、ニュアンスコントロールはできません。

イコライザーカーブを細かく調節する

イコライザー 16 バンド調節

お好みに合わせて、イコライザーカーブの周波数レベルを細かく調節することができます。

Custom1 について

“Custom1”には、お好みに合わせて調節したイコライザーカーブがソースごとに記憶されます。(内蔵 CD とマルチ CD、External1 と External2 は、同じ設定になります。)

“Custom2”以外のカーブを選んでいるときに調節すると、“Custom1”に記憶されます。

Custom2 について

“Custom2”は、すべてのソースに共通したイコライザーカーブで、お好みに合わせて調節することができます。

“Custom2”を選んでいるときに調節すると、調節したカーブが新しい“Custom2”として記憶されます。

1 調節したいイコライザーカーブを選ぶ

EQ ボタンを押して選ぶ
(→「内蔵 DSP」88 ページ)

2 イコライザー 16 バンド調節モード (EQ2) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「内蔵 DSP」76 ページ)

イコライザーカーブ を細かく調節する <つづき>

イコライザー 16バンド調節

3 各周波数ごとのレベルを調節する

- 周波数を選ぶ
ロータリーコマンドを左右に操作する

右：高い周波数を選ぶとき

左：低い周波数を選ぶとき



20、31.5、50、80、125、200、315、500、800、1.25k、2k、3.15k、5k、8k、12.5k、20k (Hz) の中から選ぶことができます。

- レベルを調節する
ロータリーコマンドを上下に操作する

上：強めるとき

下：弱めるとき



レベルは-6~+6の範囲で調節できます。調節したイコライザーカーブは、そのまま保存されます。

4 イコライザー 16バンド調節 モードを解除する

BAND ボタンを押す

音響効果をかける **NW**

BBE

お好みに合わせて BBE の音響効果を加えることができます。

📌 BBE について

BBE は、音楽再生時に発生する高調波成分の遅延や振幅の狂いを、位相補正と高域ブーストを組み合わせて修復することで、極めて原音に近い再生音にすることができます。このため、鮮明度が高く、ライブ演奏に近い自然な臨場感を再現することができます。

1 BBE モード (BBE) にする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ
(→「内蔵 DSP」76 ページ)

2 BBE を ON にする

ロータリーコマンドを押す
ロータリーコマンドを押すごとに ON / OFF します。

3 BBE のレベルを調節する

ロータリーコマンドを上下に操作する
上：レベルを大きくするとき
下：レベルを小さくするとき



レベルは-4~+4の範囲で調節できます。

📝 メモ

●BBE については、(→「はじめに」11 ページ)

イメージに合った演奏会場を再現する **STD**

SFC/BBE

SFCでは、実際にその演奏会場にいるかのようなリアルな音場を再現することができます。また、BBEではレベルを調節することができます。

SFC について

SFCとは、「Sound Field Control（サウンドフィールドコントロール）」の略です。SFCでは、車室内にリアルな音場を再現することができます。Studio、Clubなどの3つの音場空間を再現するプログラムが用意されています。

BBE について

BBEは、音楽再生時に発生する高調波成分の遅延や振幅の狂いを、位相補正と高域ブーストを組み合わせて修復することで、極めて原音に近い再生音にすることができます。このため、鮮明度が高く、ライブ演奏に近い自然な臨場感を再現することができます。

1 SFC モード (SFC) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(⇒「内蔵 DSP」76 ページ)

2 音場プログラムを選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作する
ロータリーコマンドーを左右に操作することに次のように切り換わります。
Studio ↔ Jazz.C (Jazz Club) ↔ Club
↔ BBE ↔ OFF



選んだ音場プログラムが表示されます。

BBE を選ぶ場合

1 SFC モード (SFC) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(⇒「内蔵 DSP」76 ページ)

2 BBE を選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作して選ぶ

3 BBE のレベルを調節する

ロータリーコマンドーを上下に操作する
上：レベルを大きくするとき
下：レベルを小さくするとき



レベルは-4～+4の範囲で調節できます。

メモ

●BBEについては、(⇒「はじめに」11 ページ)

小音量時の音にメリハリをつける

ラウドネス

小さな音量で聞いているときの、低・高音の不足感を補正して、メリハリのある音にすることができます。

1 ラウドネスモード (LOUD) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「内蔵 DSP」76 ページ)

2 ラウドネスを ON にする

ロータリーコマンドーを押す
ロータリーコマンドーを押すごとに ON / OFF します。



CD や iPod などの音質を調節する

COMP/BMX

大きな音と小さな音の音量差を小さくしたり、残響音を補正することができます。

COMP について

COMP とは、「COMPression (コンプレッション)」の略です。大きな音を抑え、小さな音を押し上げて、大きな音と小さな音の音量差を小さくする機能です。この機能は、小さな音が聞き取りにくいようなときにお使いになると便利です。

BMX について

BMX とは、「BITMetrix (ビットメトリックス)」の略です。音楽の残響音を補正し、自然な広がりを持った音質に改善する機能です。WMA/MP3/AAC/WAV などの残響音の成分を補正し、本来の音質を再現することができます。

1 COMP切り換えモード (COMP) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「内蔵 DSP」76 ページ)

2 COMP/BMX を ON にする

ロータリーコマンドーを押す
ロータリーコマンドーを押すごとに ON / OFF します。

3 機能を選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作する
ロータリーコマンドーを左右に操作するごとに次のように切り換わります。

COMP1 ↔ COMP2 ↔ BMX1 ↔ BMX2



メモ

●COMP、BMX ともに 1 より 2 の方が効果が大きくなります。

騒音に合わせて 音量を変える

ASL

騒音に合わせて、自動的に音量が変わるようにすることができます。

📌 ASL について

ASL とは、「Automatic Sound Levelizer (オートマッチックサウンドレベライザー)」の略です。ASL は、走行速度や道路状況によって変化する車内の騒音を検出して、騒音が大きくなると自動的に音量を大きくする機能です。

1 ASL モード (ASL) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「内蔵 DSP」76 ページ)

2 ASL を ON にする

ロータリーコマンドーを押す
ロータリーコマンドーを押すごとに ON / OFF します。

3 ASL の感度を選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作する
ロータリーコマンドーを左右に操作することによって次にように切り換わります。
Low ↔ Mid-L (Mid-Low) ↔ Mid
↔ Mid-H (Mid-High) ↔ High



📌 メモ

- 音量が十分にあるときは、騒音が大きくても音量の上げ幅は小さくなります。
- この機能が働いて音量が上がりすぎたとき、音が歪むことがあります。そのときは音量を下げてください。

各ソースの音量の 違いをそろえる

SLA

ソースを切り換えたとき音量に違いが出ないように、FM の音量を基準にして各ソースの音量をそろえることができます。

1 FM を受信し、FM の音量を確かめる

SOURCE/VOLUME を押す
(→「ここだけで」26 ページ)

2 調節したいソースに切り換える

SOURCE/VOLUME を押す
(→「ここだけで」21 ページ)

3 SLA モード (SLA) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「内蔵 DSP」76 ページ)

4 レベルを調節する

ロータリーコマンドーを上下に操作する
上：レベルを大きくするとき
下：レベルを小さくするとき



- 4 ~ + 4 の範囲で調節できます。

📌 メモ

- SLA とは「Source Level Adjuster (ソースレベルアジャスター)」の略です。
- FM の音量を基準に他のソースとの音量差を調節するため、FM を聞いているときは、SLA モード (SLA) に切り換えることはできません。
- AM、テレビ、DVD、CD、iPod、External (エクスターナルユニット)、AUX (外部機器)、AV のそれぞれの音量差を調節することができます。なお、内蔵 CD とマルチ CD、External1 と External2、および AM と交通情報 (→「便利な機能」119 ページ) は同じ設定になります。

オートタイムアライメント & イコライジングを行う前に



警告

運転中に Auto TA & EQ を行わない



自動車が行進中に Auto TA & EQ を行わないでください。Auto TA & EQ 機能は車室内の音響特性を測定するために、スピーカーから大音量の計測音を出すことがあります。この場合、運転の妨げになり事故の原因となることがあります。

スピーカーの破損を防止するために

次の状態で Auto TA & EQ を行うと、スピーカーを破損するおそれがあります。Auto TA & EQ を行う前に、よく確認してください。

- スピーカーの接続を誤っている場合（例：サブウーファー出力にリアスピーカーを接続している場合）
- スピーカーの耐入力を超えるパワーアンプを接続している場合
- ツーイーターを組み合わせて使用する場合は、組み合わせたツーイーターの再生可能周波数帯域を確認してください。カットオフ周波数を設定するときは、ツーイーターの再生可能周波数帯域の下限よりも高い値に設定してください。
- Auto TA では、10kHz 以上の信号を用いて計測を行います。このため、10kHz の音域が再生できないツーイーターでは、計測音が出力されないだけでなく、スピーカーを破損するおそれがあります。Auto TA & EQ を行う場合は、カットオフ周波数の設定に加えて、再生周波数帯の下限が 10kHz 以下のツーイーターを使用してください。

オートタイムアライメント & イコライジング (Auto TA & EQ) 機能とは

車内空間には、形状、材質、スピーカーの取付位置やリスニングポジションなど、さまざまな制約があります。このため、ホームオーディオに比べて、音響特性が大きく乱れています。乱れた音響特性を補正するために、一般的にはイコライザーなどを使用します。しかし、車内の音響特性を最適にするためには、音響測定器などの道具や、音響調整の熟練した技術が必要です。

この、複雑で困難な音響調整を、専用のマイクだけで自動的に行う機能が、本機の「オートタイムアライメント & イコライジング (Auto TA & EQ)」機能です。

本機の Auto TA & EQ 機能は、車室内を最良の音響空間にするために必要な調整を、全て自動で行います。そして、車室内の音響特性を、乱れが少なく、滑らかな状態に最適化します (Auto EQ)。また、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を測定し、音声の到達時間を補正します (Auto TA)。

こうして、それぞれの車にとって最良の音響空間を手軽に実現します。

Auto TA & EQ を行う前に必ずしておくこと

Auto TA & EQ を効果的に行うために、準備していただくことがあります。下記を参照して、正しく準備してください。

- ① なるべく静かな場所に車を停車させる。
- ② 車のエンジン、エアコン、ヒーターをオフにする。(エアコンやヒーターのファンの騒音によって、Auto TA & EQ が実行できないことがあります。)
- ③ 携帯電話や車載電話の電源をオフにする。または車外に持ち出す。
- ④ 付属の音響特性測定用マイクを用意する。(それ以外のマイクでは、音響特性が正しく測定されません。)
- ⑤ フロントスピーカーを接続する。(接続していないと、Auto TA & EQ が実行できません。)
- ⑥ フロントスピーカーのミュートを解除する。(ミュートしていると、Auto TA & EQ が実行できません。)
- ⑦ リスニングポジションを設定する。(リスニングポジションを F/R または F/L 以外に設定したときは、Auto TA & EQ をはじめると、強制的に F/R に再設定されます。)
- ⑧ 入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルを推奨位置に合わせる。
- ⑨ ローパスフィルター付きのパワーアンプを接続している場合は、ローパスフィルターをオフにする。
- ⑩ ローパスフィルター付きのパワードサブウーファーを接続している場合は、ローパスフィルターの遮断周波数を最も高い値に設定する。
- ⑪ AUX1/マイク入力端子から、2.5mm ステレオ超ミニプラグや音響特性測定用マイクを抜く。(AUX1/マイク入力端子に何か接続されている状態では、Auto TA & EQ 設定モードに切り換わりません。)

Auto TA & EQ による調節で変更される設定

Auto TA & EQ を行うと、設定が次のように変更されます。

- 前後左右の音量バランス設定 (フェーダー/バランス) : 初期設定に戻る
- イコライザーカーブ : フラットに設定される
- リスニングポジション : F/R に設定される (F/L に設定していた場合は、F/L のまま)
- サブウーファー出力 : オフにしていた場合、オンに設定される
- リアハイパスフィルター : 車内の音響特性に合わせて調節される

Auto TA & EQ の調節内容について

- 再度 Auto TA & EQ を行うと、前回の調整内容は消去されます。
- Auto TA & EQ 測定時に算出されたタイムアライメントの値は、コンピューターが算出した正確な遅延時間を基に測定されたものです。次のような場合に、実際の距離と異なることがあります。そのままご使用ください。
- 車室内の反射音が直接音より強く、かつ遅延を生じている。
- パワードサブウーファーや外部アンプのローパスフィルターの影響により、低音に遅延が生じている。

オートタイムアライメント&イコライジングを行う

オートタイムアライメント&イコライジングを行う前に、「オートタイムアライメント&イコライジングを行う前に(→「内蔵 DSP」94 ページ)」をよく読んで、オートタイムアライメント & イコライジングの準備を行ってください。

1 音響特性測定用マイクをセットする

ベルトなどを使用して、運転席のヘッドレストの中央に付属の音響特性測定用マイクを前向きに固定する



メモ

- マイクの取付位置が悪いと、測定音が大きくなったり測定時間がかかったりして、車のバッテリーが上がるおそれがあります。マイクは必ず指定の位置に取り付けてください。
- 音響特性測定用マイクを取り付ける位置により、Auto TA & EQの調整内容が変化します。お好みにより、助手席にセットすることもできます。

2 本機の電源を切る

SOURCE/VOLUME を長く押す

3 Auto TA & EQ設定モードにする

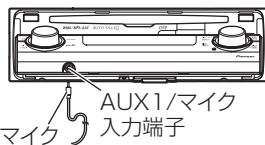
EQ ボタンを長く押す



フロントパネルが自動的に開きます。

4 マイクを本機に接続する

付属の音響特性測定用マイクを AUX1/ マイク入力端子に接続する



メモ

- Auto TA & EQ をはじめてから測定が終了するまでに数分かかります。測定時間は周囲の騒音状態、車両形状、スピーカーの数などにより変わります。
- AUX1/ マイク入力端子にマイクがしっかりと挿入されていない状態で Auto TA & EQ を行うと、エラーが生じます。マイクを確実に挿入してから、Auto TA & EQ を行ってください。

5 Auto TA & EQ を開始する

ロータリーコマンドーを押す



メモ

- Auto TA & EQ を途中でやめなくなったときは、BAND ボタンを押すと、強制的に解除することができます。
- マイクはグローブボックスなどに入れて、大切に保管してください。直射日光の当たる場所に長時間放置すると、高温による変形、変色、故障の原因になるおそれがあります。

メモ

- もう一度ロータリーコマンドーを押すと、途中解除します。

6 車の外に出る

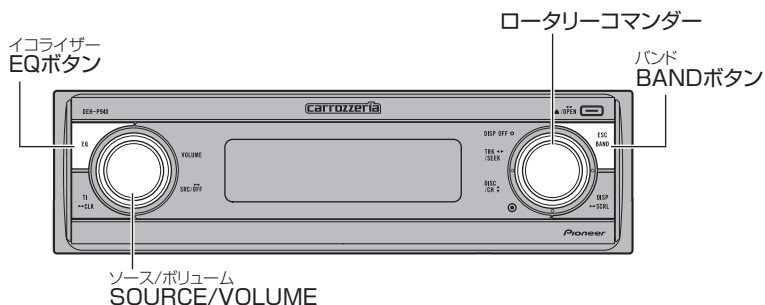
10 秒のカウントダウンが始まるので、10 秒以内に車外に出て、ドアを閉める

計測音（ノイズ）が各スピーカーから出力され、Auto TA & EQ が始まります。

7 Auto TA & EQ が自動的に終了する

Auto TA & EQ が終わったら、セットした音響特性測定用マイクを取り外し、BAND ボタンを押して電源を切り、▲ ボタンを長く押ししてフロントパネルを閉めてください。

この操作で使用するボタン



本機に「DEQ-P9」を接続している場合

ここでは、本機に別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を接続している場合の「別売DSP」の機能について説明しています。本機に別売の5.1ch対応・DSPユニット「DEQ-P9」を接続しているときだけ操作できます。

オーディオ調節のポイント

心地よい音の空間を手軽に演出したり、お好みに合わせてきめ細かく調節することができます。

📌 手軽に心地よい音場を演出する

次の機能は、車種によって異なる音響特性に合わせた音場を手軽に演出できます。

- イコライザーカーブを選ぶ
- リスニングポジションを選ぶ (Position)
- ダイナミックレンジコントロールを使う (DRC)
- オートタイムアライメント & イコライジングを行う (Auto TA & EQ)

📌 きめ細かくお好みに合わせて調節する

次の順に設定や調節することで、きめ細かくお好みの音場を作り出すことができます。

- 接続したスピーカーの設定をする (SP Set)
- リスニングポジションを選ぶ (Position)
- オートタイムアライメント & イコライジングを行う (Auto TA & EQ)
- タイムアライメントを調節する (Time A)
- テストトーンでスピーカーレベルを調節する (T Tone)
- クロスオーバー周波数を設定する (X. Over)
- スピーカーレベルを調節する (SP Lev)
- 3バンドパラメトリックイコライザーを調節する (PEQ)

📌 便利な機能

次の機能は、お好みや設定に合わせてお使いください。

- ドルビープロロジックIIを使う (Dolby PL II)
- SFCで音場を再現する (SFC)
- ダウンミックス機能を使う (DownMIX)
- オリジナルの音質で聞く (DIRECT)

オーディオ調節モードの切り換え

音を調節するときは、オーディオ調節モードを切り換えて操作します。

1 メインメニューにする

ロータリーコマンドーを押す
「FUNCTION」、「AUDIO」、「ENTERTAINMENT」が表示されます。

2 オーディオ調節モードにする

ロータリーコマンドーを回して
「AUDIO」を選び、ロータリーコマンドーを押す

3 オーディオ調節モードを切り換える

ロータリーコマンドーを回す
ロータリーコマンドーを回すごとにオーディオ調節モードが次のように切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

音量バランス調節モード (Fader/Balance)
(⇒「別売 DSP」100 ページ)

リスニングポジションモード (Position)
(⇒「別売 DSP」100 ページ)

ドルビープロロジック II モード
(Dolby PL II) (⇒「別売 DSP」101 ページ)

ドルビープロロジック II ミュージックモード
(MUSIC) (⇒「別売 DSP」102 ページ)

SFC モード (SFC) (⇒「別売 DSP」103 ページ)

ダウンミックスモード (DownMIX)
(⇒「別売 DSP」104 ページ)

ダイナミックレンジコントロールモード
(DRC) (⇒「別売 DSP」104 ページ)

ダイレクトモード (DIRECT)
(⇒「別売 DSP」105 ページ)

SLA モード (SLA) (⇒「別売 DSP」105 ページ)

オートイコライザーモード (AUTO EQ)
(⇒「別売 DSP」106 ページ)

スピーカー設定モード (SP Set)
(⇒「別売 DSP」110 ページ)

クロスオーバー周波数モード (X. Over)
(⇒「別売 DSP」112 ページ)

スピーカーレベル調節モード (SP Lev)
(⇒「別売 DSP」113 ページ)

テストトーンモード (T Tone)
(⇒「別売 DSP」113 ページ)

タイムアライメント選択モード
(TA Mode) (⇒「別売 DSP」114 ページ)

タイムアライメント調節モード
(Time A) (⇒「別売 DSP」114 ページ)

イコライザー選択モード
(⇒「別売 DSP」115 ページ)

3 バンドパラメトリックイコライザーモード
(PEQ) (⇒「別売 DSP」116 ページ)

音量バランス調節モードに戻る

4 オーディオ調節モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

- オーディオ調節モードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。ただし、テストトーンモード (T Tone) やタイムアライメント調節モード (Time A)、3 バンドパラメトリックイコライザーモード (PEQ) を選んでいる場合、自動では解除されません。
- ラジオの FM を聞いているときは、SLA モードには切り換わりません。
- DVD ディスクを再生しているとき以外は、ダイナミックレンジコントロールモード (DRC) には切り換わりません。
- リスニングポジションモードで F/L が F/R を選んでいないと、タイムアライメント調節モード (Time A) には切り換わりません。
- オートタイムアライメント & イコライジングを行っていない場合は、オートイコライザーモード (AUTO EQ) は操作できません。
- ダイレクトが ON の間は、音量調節 (VOLUME と ATT) とドルビープロロジック II のみ有効です。その他のオーディオ調節はできません。

前後左右の音量バランスを調節する

フェーダー／バランス

前後左右のスピーカーの音量バランスを調節することができます。

1 音量バランス調節モード (Fader/Balance) にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ
(→「別売 DSP」99 ページ)

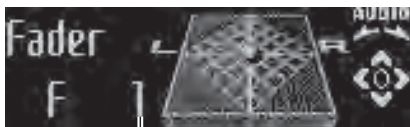
2 音量バランスを調節する

■ 前後を調節する

ロータリーコマンダーを上下に操作する

上：前を強めるとき

下：後ろを強めるとき



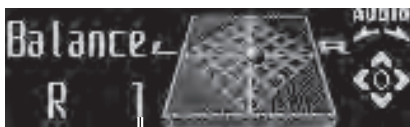
前後のバランスは F25 ~ R25 の範囲で調節できます。

■ 左右を調節する

ロータリーコマンダーを左右に操作する

右：右を強めるとき

左：左を強めるとき



左右のバランスは L25 ~ R25 の範囲で調節できます。

リスニングポジションを選ぶ

リスニングポジション

乗車位置や人数に合わせて、リスニングポジション (聞く位置) を選ぶことで、音像の定位を適切に補正することができます。

1 リスニングポジションモード (Position) にする

ロータリーコマンダーを操作して選ぶ
(→「別売 DSP」99 ページ)

2 乗車位置を選ぶ

ロータリーコマンダーを上下左右に操作する

ロータリーコマンダーを同じ方向に操作するごとに ON / OFF します。

右：F/R

左：F/L

上：Front

下：ALL

表示	乗車位置
F/R	右ハンドル車に運転者のみがいるとき
(Front Right)	
F/L	左ハンドル車に運転者のみがいるとき
(Front Left)	
Front	同乗者が助手席にいるとき
(Front Seat)	
ALL (All Seat)	同乗者が後部座席にいるとき



選んだ乗車位置が表示されます。

ドルビープロロジック II を使う

ドルビープロロジック II

2チャンネルの音声を5チャンネルに拡張して再生することができます。オリジナル録音の空間情報から、より立体的なサラウンド空間を作り出す機能です。音の移動も自然に再生されるので、より立体的な音場を楽しむことができます。

ドルビープロロジック II の ON / OFF について

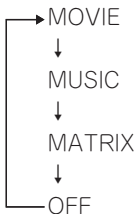
2チャンネルの音声で5.1チャンネルに適したSFC (Musical, Drama, Action) を選んだ場合、ドルビープロロジック II を ON にすることをおすすめします。また、2チャンネルに適したSFC (Jazz, Hall, Club) を選んだ場合、ドルビープロロジック II を OFF にすることをおすすめします。

1 ドルビープロロジック II モード (Dolby PLII) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ (⇒「別売 DSP」99 ページ)

2 好みのモードを選ぶ

ロータリーコマンドーを押す
ロータリーコマンドーを押すごとに次のように切り換わります。



ドルビープロロジック II のモードについて

ムービー (MOVIE)

映画や TV ドラマなどのステレオ音声を、5.1チャンネル録音に迫る立体的な音で楽しめます。

ミュージック (MUSIC)

広く深い音場を表現し、音楽などを臨場感豊かに楽しめます。

ミュージックモードのパラメーターを調整することで、好みに合わせた空間表現を得ることができます。(⇒「別売 DSP」102 ページ)

マトリックス (MATRIX)

方向性強調回路がオフになるため、シンプルなサラウンド再生になります。FM や TV などのステレオ放送で受信状態が不安定な場合に向いています。

OFF

ドルビープロロジック II を OFF にします。

メモ

- スピーカー設定モード (⇒「別売 DSP」110 ページ) で、センタースピーカーとリアスピーカーが OFF に設定されているときは、ドルビープロロジック II モードには切り換わりません。
- 2チャンネルのモノラルソースを再生しているときにドルビープロロジック II を ON にすると、次のような現象が起こることがあります。
 - * センタースピーカーの設定を「Small」や「Large」にしている場合、センタースピーカーだけから音が出力されることがあります。また、センタースピーカーを接続しないと、音が出力されないことがあります。
- ドルビープロロジック II は、48kHz までのサンプリング周波数で動作します。

ミュージックモードを調節する

ドルビープロロジックIIミュージック

ドルビープロロジックIIのミュージックモードでは、パラメーター（パノラマ、ディメンション、センター幅）を調節することができます。



ミュージックモードについて

パノラマ (Panorama)

フロントのステレオイメージをサラウンドスピーカーまで拡張して、包み込みの効果を大きくします。

ディメンション (Dimension)

広音場の位置をフロント側、リア側に細かく調節します。-3~+3の間で調節します。+はフロント側に、-はリア（サラウンド）側に音を移動します。

センター幅 (Center W Control)

センターの音を、フロントのLRチャンネルとセンターチャンネルの3つのスピーカーにどのように振り分けるかを「0」~「7」の間で設定します。推奨は3で、ほとんどの録音に適しています。0は、センタースピーカーだけでセンターの音を再生します。7は通常のステレオと同様にセンターの音をフロントのLRに振り分けます。

1

ドルビープロロジックII ミュージックモード (MUSIC) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「別売 DSP」99 ページ)



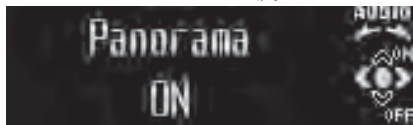
ご注意

ドルビープロロジックIIモードでMUSICを選んだときだけ、ドルビープロロジックIIミュージックモードに切り換わります。

2

調節したいパラメーターを選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作する
ロータリーコマンドーを左右に操作することに次のように切り換わります。
Panorama ↔ Dimension ↔ Center W Control ↔ Panorama に戻る



3

選んだパラメーターを調節する

- パノラマを ON / OFF する
ロータリーコマンドーを押す
ロータリーコマンドーを押すごとに ON / OFF します。
- ディメンションやセンター幅を調節する
ロータリーコマンドーを上下に操作する

項目	設定 / 調節範囲
Dimension	-3 ~ +3
Center W Control	0 ~ 7

SFC では、実際にその演奏会場にいるかのようなリアルな音場を再現することができます。

SFC (Sound Field Control) について

演奏会場は、会場ごとに独特の雰囲気があります。これは、会場の広さや形状、残響特性が異なるため、直接音・初期反射音・残響音の長さや質が変化するためです。SFCには、このようなことを考慮した音場空間プログラムが設定されています。

1 SFC モード (SFC) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「別売 DSP」99 ページ)

2 音場プログラムを選ぶ

ロータリーコマンドーを押す
ロータリーコマンドーを押すごとに次のように切り換わります。

- Musical
- ↓
- Drama
- ↓
- Action
- ↓
- Jazz
- ↓
- Hall
- ↓
- Club
- ↓
- OFF



Musical

音楽ソフトやミュージカル系の映画の再生を楽しむのに適しています。

Drama

リアスピーカーの音と一体となって、1つの大きなスピーカーのように響くイメージで幅広いサラウンド感を再現します。また、直接音もしっかりと響き、ストーリー重視の映画を楽しむのに適しています。

Action

躍動感、スピード感に加え、爆発シーンの迫力を包み込むように再現します。アクションシーンの多い映画を楽しむのに適しています。

Jazz

ジャズクラブでの音場を再現します。ライブ録音の音声などを楽しむのに適しています。

Hall

コンサートホールの音場を再現します。残響音豊かな響きでクラシック音楽などを楽しむのに適しています。

Club

クラブの音場を再現します。残響音が吸収されやすい音場を再現し、ビートの効いた音楽を楽しむのに適しています。

メモ

- 2チャンネルのリニアPCMまたは2チャンネルのドルビーデジタルの音声で5.1チャンネルに適したSFC (Musical、Drama、Action) を選んだ場合、ドルビープロロジックIIをONにすることをおすすめします。また、2チャンネルに適したSFC (Jazz、Hall、Club) を選んだ場合、ドルビープロロジックIIをOFFにすることをおすすめします。

センターなしで5.1chのサラウンド感を再現する

ダウンミックス

センタースピーカーがないシステムでも、ダウンミックス機能を使うことで5.1chのサラウンド成分を損なうことなく再生できます。



ダウンミックスとは

5.1chの音声は、左/右/センター/左サラウンド/右サラウンド/サブウーファーの成分で構成されています。ダウンミックスは、左サラウンド/右サラウンド/センターの成分を左と右の成分に加えた音を作ります。設定はLt/RtとLo/Roの2種類です。それぞれ、左サラウンドと右サラウンドの加えかたが異なります。

Lt/Rt

左サラウンドと右サラウンドの成分をモノラルにして、左と右のチャンネルを均等に振り分けます。

Lo/Ro

左サラウンドと右サラウンドの成分をステレオのまま、左と右のチャンネルを均等に振り分けます。

なお、サブウーファーの成分はダウンミックスに影響しません。

1 ダウンミックスモード (DownMIX) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「別売 DSP」99 ページ)

2 ダウンミックスの設定を選ぶ

ロータリーコマンドーを押す
ロータリーコマンドーを押すごとに次のように切り換わります。



メモ

- DVD オーディオには、ダウンミックスを禁止しているものがあります。その場合は、ダウンミックスを設定しても実行されません。

ダイナミックレンジコントロールを使う

DRC

ダイナミックレンジとは、一番大きな音と一番小さな音との幅のことです。ダイナミックレンジコントロールを ON にすると、この幅が圧縮され、音量を下げても楽しむ場合にも小さな音を聞き取りやすくすることができます。

1 ダイナミックレンジコントロールモード (DRC) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「別売 DSP」99 ページ)

2 ダイナミックレンジコントロールをONにする

ロータリーコマンドーを押す
ロータリーコマンドーを押すごとに ON / OFF します。



メモ

- DVD ディスクを再生しているとき以外はダイナミックレンジコントロールモードには切り換わりません。

オリジナルの音質で聞く

ダイレクト

各種オーディオの設定を無効にすることができます。調整したオーディオ設定の効果を確かめるのに便利です。

1 ダイレクトモード (DIRECT) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「別売 DSP」99 ページ)

2 ダイレクトを ON にする

ロータリーコマンドーを押す
ロータリーコマンドーを押すごとに ON / OFF します。



メモ

- ダイレクトモードが ON の間は、音量調節 (VOLUME と ATT) とドルビープロロジック II のみ有効です。その他のオーディオ調節はできません。
- 2 チャンネルのリニア PCM または 2 チャンネルのドルビーデジタル音声では、フロントスピーカー (左右) 以外からは、音声が出力されません。

各ソースの音量の 違いをそろえる

SLA

ソースを切り換えたとき音量に違いが出ないように、FM の音量を基準にして各ソースの音量をそろえることができます。

1 FMを受信し、FMの音量を確かめる

SOURCE/VOLUME を押す
(→「ここだけで」26 ページ)

2 調節したいソースに切り換える

SOURCE/VOLUME を押す
(→「ここだけで」21 ページ)

3 SLA モード (SLA) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「別売 DSP」99 ページ)

4 レベルを調節する

ロータリーコマンドーを上下に操作する
上: レベルを大きくするとき
下: レベルを小さくするとき



レベルは -4 ~ +4 の範囲で調節できます。

メモ

- SLA とは「Source Level Adjuster (ソースレベルアジャスター)」の略です。
- FM の音量を基準に他のソースとの音量差を調節するため、FM を聞いているときは、SLA モード (SLA) に切り換えることはできません。
- AM、テレビ、DVD、CD、External (エクスターナルユニット)、AUX (外部機器) のそれぞれの音量差を調節することができます。なお、内蔵 CD とマルチ CD、External 1 と External 2、および AM と交通情報 (→「便利な機能」119 ページ) は同じ設定になります。

オートイコライザー を ON/OFF する

オートイコライザー

Auto TA & EQ (→「別売 DSP」108 ページ) で作成したオートイコライザーカーブを ON / OFF することができます。

1 オートイコライザーモード (AUTO EQ) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「別売 DSP」99 ページ)

2 オートイコライザーをONに する

ロータリーコマンドーを押す
ロータリーコマンドーを押すごとに ON / OFF が切り換わります。



メモ

- Auto TA & EQ (→「別売 DSP」108 ページ) を行っていないときは、オートイコライザーモードの操作はできません。

オートタイムアライメント & イコライジングを行う前に

車室内の音響特性を自動的に計測して、最適になるように自動補正することができます。



警告

運転中に Auto TA & EQ を行わない



自動車が行進中に Auto TA & EQ を行わないでください。Auto TA & EQ 機能は車室内の音響特性を測定するために、スピーカーから大音量の計測音を出すことがあります。この場合、運転の妨げになり事故の原因となることがあります。

オートタイムアライメント & イ コライジング (Auto TA & EQ) 機能とは

車内空間には、形状、材質、スピーカーの取付位置やリスニングポジションなど、さまざまな制約があります。このため、ホームオーディオに比べて、音響特性が大きく乱れています。乱れた音響特性を補正するために、一般的にはイコライザーなどを使用します。しかし、車内の音響特性を最適にするためには、音響測定器などの道具や、音響調整の熟練した技術が必要です。

この、複雑で困難な音響調整を、専用のマイクだけで自動的に行う機能が、本機の「オートタイムアライメント & イコライジング (Auto TA & EQ)」機能です。

「DEQ-P9」の Auto TA & EQ 機能は、車室内を最良の音響空間にするために必要な調整を、全て自動で行います。そして、車室内の音響特性を、乱れが少なく、滑らかな状態に最適化します (Auto EQ)。また、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を測定し、音声の到達時間を補正します (Auto TA)。こうして、それぞれの車にとって最良の音響空間を手軽に実現します。

スピーカーの破損を防止するために

次の状態で Auto TA & EQ を行うと、スピーカーを破損するおそれがあります。Auto TA & EQ を行う前に、よく確認してください。

- スピーカーの接続を誤っている場合
(例：サブウーファー出力にリアスピーカーを接続している場合)
- スピーカーの耐入力を超えるパワーアンプを接続している場合

Auto TA & EQ を行う前に必ずしておくこと

Auto TA & EQ を効果的に行うために、準備していただくことがあります。下記を参照して、正しく準備してください。

- ① なるべく静かな場所に車を停車させる。
- ② 車のエンジン、エアコン、ヒーターをオフにする。(エアコンやヒーターのファンの騒音によって、Auto TA & EQ が実行できないことがあります。)
- ③ 携帯電話や車載電話の電源をオフにする。または車外に持ち出す。
- ④ 「DEQ-P9」 付属の音響特性測定用マイクを用意する。(それ以外のマイクでは、音響特性が正しく測定されません。)
- ⑤ フロントスピーカーを接続する。(接続していないと、Auto TA & EQ が実行できません。)
- ⑥ フロントスピーカーのミュートを解除する。(ミュートしていると、Auto TA & EQ が実行できません。)
- ⑦ リスニングポジションを設定する。(リスニングポジションを F/R または F/L 以外に設定したときは、Auto TA & EQ をはじめると、強制的に F/R に再設定されます。)
- ⑧ 入力レベルコントロール付きパワーアンプを接続している場合は、入力レベルを推奨位置に合わせる。
- ⑨ ローパスフィルター付きのパワーアンプを接続している場合は、ローパスフィルターをオフにする。
- ⑩ ローパスフィルター付きのパワードサブウーファーを接続している場合は、ローパスフィルターの遮断周波数を最も高い値に設定する。

Auto TA & EQ による調節で変更される設定

Auto TA & EQ を行うと、設定が次のように変更されます。

- 前後左右の音量バランス設定 (フェーダー/バランス)
: 初期設定に戻る
- イコライザーカーブ
: フラットに設定される
- リスニングポジション
: F/R に設定される
(F/L に設定していた場合は、F/L のまま)

Auto TA & EQ の調節内容について

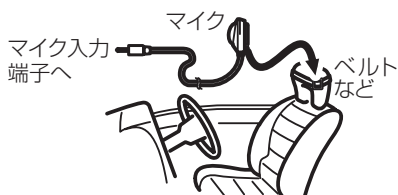
- 再度 Auto TA & EQ を行うと、前回の調整内容は消去されます。
- Auto TA & EQ 測定時に算出されたタイムアライメントの値は、コンピューターが算出した正確な遅延時間を基に測定されたものです。次のような場合に、実際の距離と異なることがあります。そのままご使用ください。
- 車室内の反射音が直接音より強く、かつ遅延を生じている。
- パワードサブウーファーや外部アンプのローパスフィルターの影響により、低音に遅延が生じている。

オートタイムアライメント&イコライジングを行う

オートタイムアライメント&イコライジングを行う前に、「オートタイムアライメント&イコライジングを行う前に(→「別売 DSP」106 ページ)」をよく読んで、オートタイムアライメント&イコライジングの準備を行ってください。

1 「DEQ-P9」に付属の音響特性測定用マイクをセットする

ベルトなどを使用して、運転席のヘッドレストの中央に「DEQ-P9」に付属の音響特性測定用マイクを前向きに固定する



メモ

- マイクの取付位置が悪いと、測定音が大きくなったり測定時間がかかったりして、車のバッテリーが上がることがあります。マイクは必ず指定の位置に取り付けてください。
- 音響特性測定用マイクを取り付ける位置により、Auto TA & EQ の調整内容が変化します。お好みにより、助手席にセットすることもできます。
- 音響特性測定用マイクは、必ず「DEQ-P9」に付属のものを使用してください。本機「DEH-P940」に付属の音響特性測定用マイクは使用できません。

2 本機の電源を切る

SOURCE/VOLUME を長く押す

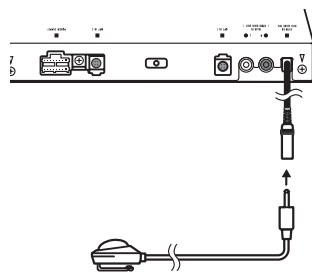
3 Auto TA & EQ設定モードにする

EQ ボタンを長く押す



4 マイクを「DEQ-P9」に接続する

「DEQ-P9」に付属の音響特性測定用マイクを音響特性測定用マイク入力端子に接続する



メモ

- 音響特性測定用マイク入力端子にマイクがしっかりと挿入されていない状態で Auto TA & EQ を行うと、エラーが生じます。マイクを確実に挿入してから、Auto TA & EQ を行ってください。

5 Auto TA & EQ を開始する

ロータリーコマンドを押す



メモ

- Auto TA & EQ をはじめてから測定が終了するまでに、約8分かかります。測定時間は周囲の騒音状態、車両形状、スピーカーの数などにより変わります。

6 車の外に出る

10秒のカウントダウンが始まるので、10秒以内に車外に出て、ドアを閉める

計測音（ノイズ）が各スピーカーから出力され、Auto TA & EQ が始まります。

7 Auto TA & EQが自動的に終了する

Auto TA & EQ が終わったら、セットした音響特性測定用マイクを取り外してください。

メモ

- Auto TA & EQ を途中でやめなくなったときは、BAND ボタンを押すと、強制的に解除することができます。
- マイクはグローブボックスなどに入れて、大切に保管してください。直射日光の当たる場所に長時間放置すると、高温による変形、変色、故障の原因になるおそれがあります。

接続したスピーカーの設定をする

スピーカー設定

スピーカーの接続の有無や接続したスピーカーのサイズ（低音域再生能力）を設定できます。この設定により、スピーカーを接続していないために再生できないチャンネルの音を他のスピーカーから出力させたり、より再生に適したスピーカーから低音を出力させることができます。



スピーカーサイズについて

スピーカーサイズ設定は、100Hz以下の周波数帯域を再生可能かどうかが目安になります。再生可能な場合は「Large」に、再生不可能な場合は「Small」に設定してください。Auto TA & EQを行うときは、スピーカーの設定はON / OFFだけ行ってください。

1 スピーカー設定モード (SP Set) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ (➡「別売DSP」99ページ)

2 設定したいスピーカーを選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作する
ロータリーコマンドーを左右に操作すること、次のように切り換わります。

フロントスピーカー



センタースピーカー



リアスピーカー



サブウーファー



サブウーファー位相切り換え



3 スピーカーの有無やサイズを設定する

ロータリーコマンドーを上下に操作する
各スピーカーの設定は、次の中から選ぶことができます。

スピーカーの種類	設定 / 調節範囲
フロント	Small/Large
リア	OFF/Small/Large
センター	OFF/Small/Large
サブウーファー	ON/OFF
サブウーファー	Normal/Rev. 位相切り換え



メモ

- 接続していないスピーカーの設定は、必ず「OFF」にしてください。
- サブウーファーを接続していない場合は、フロントまたはリアスピーカーに低音再生能力のある限り、スピーカー設定は「Large」を選んでください。フロントとリアの両方のスピーカー設定を「Small」にすると、低音が著しく不足した感じになることがあります。
- 2チャンネルのモノラルソースを再生しているときにドルビープロロジックIIをONにすると、次のような現象が起こることがあります。
 - * センタースピーカーの設定を「Small」や「Large」にしている場合、センタースピーカーだけから音出力されることがあります。また、センタースピーカーを接続しないと、音出力されないことがあります。
 - * サブウーファーをOFFにすると、サブウーファー位相切り換えモードは選択できません。

サブウーファアの位相を切り換える

サブウーファア

サブウーファアからの低音域の出力を調節しても低音域がよく聞こえてこなかったり、逆に小さくなったように感じた場合、他のスピーカアの低音域と打ち消し合っていることがあります。位相を切り換えることで、この現象を防ぎ低音域を聞きやすくすることができます。

1 スピーカー設定モード (SP Set) にしてサブウーファア位相切り換えを選ぶ

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(→「別売 DSP」110 ページ)

2 サブウーファアの位相を選ぶ

ロータリーコマンドーを上下に操作する
上：Normal (正相)
下：Rev. (逆相)



メモ

- サブウーファアを OFF にすると、サブウーファア位相切り換えモードは選択できません。

クロスオーバー周波数を設定する

クロスオーバー周波数

クロスオーバー周波数は、サブウーファーやスピーカーサイズを「Small」に設定したスピーカーの再生音域を設定します。サブウーファーからは、選んだ周波数より低い音域が出力されます。また、「Small」に設定したスピーカーからは、選んだ周波数より高い音域が出力され、音量が抑えられた低い音域はサブウーファーから出力されるようになります。サブウーファーを接続していない場合、音量が抑えられた低い音域は「Large」に設定したスピーカー（フロントまたはリア）から出力されるようになります。

1 クロスオーバー周波数モード (X.Over) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ (→「別売 DSP」99 ページ)

2 スピーカーを選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作する
ロータリーコマンドーを左右に操作すると、次のように切り換わります。

フロントスピーカー ↔ センタースピーカー
リアスピーカー ↔ サブウーファー



3 クロスオーバー周波数を選ぶ

ロータリーコマンドーを上下に操作する



63、80、100、125、160、200 (Hz)
の中から選ぶことができます。

メモ

- スピーカー設定モード (→「別売 DSP」110 ページ) で「OFF」に設定したスピーカーを選ぶことはできません。

スピーカーレベルを調節する

スピーカーレベル調節

テストトーンで行った各スピーカーからの出力レベルを、実際の音声を聞きながらもう一度調節することができます。

1 スピーカーレベル調節モード (SP Lev) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ (→「別売 DSP」99 ページ)

2 スピーカーを選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作する
ロータリーコマンドーを左右に操作することにより、次のように切り換わります。

フロント左スピーカー ↔ センタースピーカー
フロント右スピーカー ↔ リア右スピーカー
リア左スピーカー ↔ サブウーファー



3 レベルを調節する

ロータリーコマンドーを上下に操作する
上：レベルを大きくするとき
下：レベルを小さくするとき



レベルは-10～+10の範囲で調節できます。

メモ

- このモードで調節した出力レベルは、テストトーンモード (→「別売 DSP」このページ) で調節したレベルと同じ値になります。
- スピーカー設定モード (→「別売 DSP」110 ページ) で「OFF」に設定したスピーカーを選ぶことはできません。

テストトーンでスピーカーレベルを調節する

テストトーン

テストトーンを聞きながら、各スピーカーからの出力レベルを調節し、スピーカーシステム全体のバランスを整えます。

1 テストトーンモード (T Tone) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ (→「別売 DSP」99 ページ)

2 テストトーン出力を開始する

ロータリーコマンドーを右に操作する
約2秒ずつ、次の順で切り換わります。

フロント左スピーカー→センタースピーカー
フロント右スピーカー→リア右スピーカー
リア左スピーカー→サブウーファー
フロント左スピーカーに戻る

3 レベル調節をする

ロータリーコマンドーを上下に操作する
上：レベルを大きくするとき
下：レベルを小さくするとき



レベルは-10～+10の範囲で調節できます。

4 テストトーン出力を停止する

ロータリーコマンドーを左に操作する

メモ

- このモードで調節した出力レベルは、スピーカーレベル調節モード (→「別売 DSP」このページ) で調節したレベルと同じ値になります。
- スピーカー設定モード (→「別売 DSP」110 ページ) で「OFF」に設定したスピーカーには切り換わりません。
- レベルを調節している間、テストトーンは次のスピーカーには切り換わりません。

タイムアライメント を選ぶ

タイムアライメント

お好みのタイムアライメントを選ぶことができます。



タイムアライメントについて

タイムアライメントは、各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節する機能です。

1 タイムアライメント選択モード (TA Mode) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(⇒「別売 DSP」99 ページ)

2 タイムアライメントを選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作する
ロータリーコマンドーを左右に操作すると、次のように切り換わります。

Init ↔ Custom ↔ Auto ↔ OFF

タイムアライメントの種類 内容

Init (Initial)	初期設定状態 (ご購入直後の状態)
Custom	お好みに合わせて調節したタイムアライメント
Auto (Auto TA)	Auto TA & EQ で調節したタイムアライメント (⇒「別売 DSP」108 ページ)
OFF	タイムアライメントを OFF にします。



メモ

- Auto TA & EQ (⇒「別売 DSP」108 ページ) を行っていない場合は、“Auto” を選ぶことはできません。

タイムアライメント を調節する

各スピーカーからリスニングポジションまでの距離を調節することで、音声の到達時間を補正し、音像の定位や全体的なバランスを調節することができます。リスニングポジション (⇒「別売 DSP」100 ページ) を設定することで自動的に設定されますが、タイムアライメントではさらに厳密な調節をすることができます。

1 タイムアライメント選択モード (TA Mode) にする

ロータリーコマンドーを操作して選ぶ
(⇒「別売 DSP」99 ページ)

2 調節の元にするタイムアライメントを選ぶ

ロータリーコマンドーを左右に操作して選ぶ (⇒「別売 DSP」このページ)

3 タイムアライメント調節モード (Time A) にする

ロータリーコマンドーを右に回して選ぶ (⇒「別売 DSP」99 ページ)



確認

リスニングポジションモードで“F/R”が“F/L”を選んでいないと、タイムアライメントの調節をすることはできません。

イコライザーカーブ を選ぶ

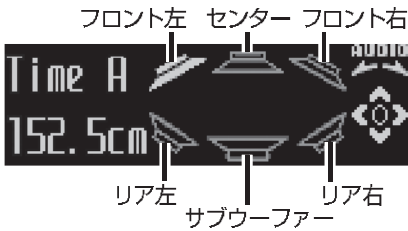
タイムアライメント調節

4 各スピーカーの距離を調節する

- 調節するスピーカーを選ぶ
ロータリーコマンドを左右に操作する

ロータリーコマンドを左右に操作することで、次のように切り換わります。

フロント左スピーカー ↔ センタースピーカー
フロント右スピーカー ↔ リア右スピーカー ↔ リア左スピーカー ↔ サブウーファー



- 距離を調節する
ロータリーコマンドを上下に操作する

上：距離を遠くするとき
下：距離を近くするとき



0.0 cm ~ 500.0 cm の範囲で調節できます。

メモ

- タイムアライメント選択モード (TA Mode) で OFF を選んでいるときは、タイムアライメント調節モード (Time A) には切り換わりません。
- スピーカー設定モード (→ 「別売 DSP」110 ページ) で「OFF」に設定したスピーカーを選ぶことはできません。

あらかじめ用意されたイコライザーカーブの中から、お好みのイコライザーカーブを選ぶことができます。



それぞれのイコライザーカーブの効果

- Super Bass：低域が厚みを持ち、迫力ある重低音が響きます。
- Powerful：低音と高音が厚みを持ち、アップテンポな曲がメリハリよく聞こえます。
- Natural：自然なバランスで、聞き疲れしない心地よい音を再生します。
- Vocal：中高域が厚みを持ち、伸びやかなヴォーカルを際立たせます。
- Flat：音の補正をしません。設定したイコライザーカーブと交互に切り換えて、イコライザーの効果を確認するときに使用してください。
- Custom1：お好みに合わせて調節したイコライザーカーブがソースごとに登録されます。内蔵 CD とマルチ CD / External1 と External2 は、それぞれ同じ設定になります。
- Custom2：お好みに合わせて調節したイコライザーカーブが、全ソース共通に登録されます。

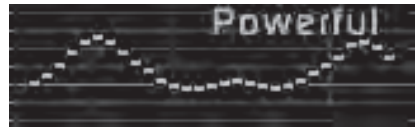
1

イコライザーカーブを選ぶ

EQ ボタンを押す

ボタンを押すごとに、次のように切り換わります。

Powerful → Natural → Vocal → Flat → Custom1 → Custom2 → Super Bass → Powerful に戻る



メモ

- イコライザー選択モードで、ロータリーコマンドを押して、イコライザーカーブを切り換えることもできます。

3 バンドパラメトリックイコライザーを調節する

“Custom 1”と“Custom 2”はフロント／リア／センターのイコライザーカーブを別々に調節することができます。各スピーカーのバンドごとに中心周波数を設定し、レベル調節やカーブの傾きの切り換えを行うことができます。

📌 イコライザーの調節について

センタースピーカーは、音像を定位させるのに影響が大きいスピーカーです。このため、他のスピーカーと同時にバランスをとるのは、とても難しい作業です。全体のバランスをとるため、2チャンネルの音声（CDなど）を再生し、センターを除く全てのスピーカーのバランスを調節したあと、5.1チャンネルの音声（ドルビーデジタルやDTS）を再生し、センタースピーカーを全体のバランスに合わせるように調節すると、スムーズに行うことができます。

📌 中心周波数について

各バンドの中心周波数は、26種類の周波数の中から選ぶことができます。周波数は、1/3オクターブずつのステップで切り換えることができますが、各バンドの中心周波数の間隔を1オクターブ未満に設定することはできません。

1 3バンドパラメトリックイコライザーモード (PEQ) にする

ロータリーコマンドを操作して選ぶ
(→「別売 DSP」99 ページ)

2 スピーカー選択モードを選ぶ

ロータリーコマンドを左右に操作する
ロータリーコマンドを左右に操作すると、次のように切り換わります。

スピーカー選択モード ↔ バンド選択モード
↔ 中心周波数選択モード ↔ レベル調整モード ↔ カーブの傾き選択モード

3 スピーカーを選ぶ

ロータリーコマンドを上下に操作する



Front (フロント)、Center (センター)、Rear (リア)の中から選ぶことができます。

4 バンドを選ぶ

ロータリーコマンドを右に操作してから、上下に操作する



Low (低音)、Mid (中音)、High (高音)の中から選ぶことができます。

5 中心周波数を選ぶ

ロータリーコマンドを右に操作してから、上下に操作する

上：高い周波数を選ぶとき
下：低い周波数を選ぶとき



40、50、63、80、100、125、160、200、250、315、400、500、630、800、1k、1.25k、1.6k、2k、2.5k、3.15k、4k、5k、6.3k、8k、10k、12.5k (Hz)の中から選ぶことができます。

6 レベルを調節する

ロータリーコマンドを右に操作してから、上下に操作する

上：強めるとき
下：弱めるとき



レベルは-6～+6の範囲で調節できます。

7 カーブの傾きを選ぶ

ロータリーコマンドを右に操作してから、上下に操作する

上：Q. WIDE（穏やかな傾き）
下：Q. NARROW（急な傾き）



8 手順2～7を繰り返して、各スピーカーの各バンドを同様に調節する

メモ

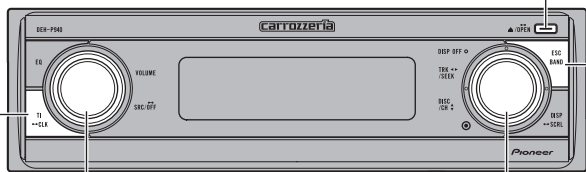
- スピーカー設定モード（→「別売 DSP」110 ページ）で「OFF」に設定したスピーカーは選べません。

この操作で使用するボタン

トラフィックインフォメーション
T.INFOボタン

イジェクト
▲ボタン

バンド
BANDボタン



ソース/ボリューム
SOURCE/VOLUME

ロータリーコマンダー

瞬時に音量を小さくする

アッテネーター

車内の会話が聞き取りにくいときに、瞬時に音量を小さくすることができます。

1 瞬時に音量を小さくする

リモコンの ATT ボタンを押すボタンを押すごとに ON / OFF します。



アッテネーターが ON のときは、音量が約 1/10 になります。

時計を表示させる

時計表示

本機の電源が ON のとき、または電源が OFF でデモモード (→「はじめに」12 ページ) を解除しているときに、時計を表示させることができます。

1 時計を表示する

T.INFO ボタンを長く押しボタンを押すごとに ON / OFF します。



メモ

- 時計を合わせるには (→「便利な機能」123 ページ)

よく使う機能を直接操作する

ダイレクトファンクション

リモコンの DF ボタンを押すと、よく使う機能をソースごとに直接操作することができます。

内蔵 CD・WMA/MP3/AAC/WAV・マルチ CD・iPod・DVD のとき

1 再生を一時停止する

リモコンの DF ボタンを押す
(⇒「はじめに」9 ページ)

ボタンを押すごとに機能が ON / OFF します。

(⇒「内蔵 CD」33 ページ、「WMA/MP3/AAC/WAV」42 ページ、「マルチ CD」54 ページ、「iPod」67 ページ、「1 枚型 DVD / マルチ DVD の取扱説明書」)

ラジオのとき

1 BSM を始める

リモコンの DF ボタンを長く押す
BSM が始まります。(⇒「ラジオ」48 ページ)

メモ

- BSM 中にリモコンの DF ボタンを押すことで、BSM を途中解除することもできます。

テレビのとき

1 BSSM を始める

リモコンの DF ボタンを長く押す
BSSM が始まります。(⇒「テレビの取扱説明書」)

メモ

- BSSM 中にリモコンの DF ボタンを押すことで、BSSM を途中解除することもできます。

交通情報を受信する

トラフィックインフォメーション

AM 1 620 kHz または 1 629 kHz の交通情報を、簡単に受信することができます。

1 交通情報を受信する

T.INFO ボタンを押す
交通情報を受信します。

2 放送に合わせて周波数を切り換える

ロータリーコマンドナーを左右に操作する
右：1 629 kHz にするとき
左：1 620 kHz にするとき



受信周波数

3 交通情報の受信をやめる

T.INFO ボタンを押す
交通情報を受信する前の状態に戻ります。

メモ

- この機能は、電源が OFF のときでも、どのソースからでも操作できます。
- 交通情報を受信しているときに音量を調節すると、交通情報用の音量として設定することができます。
- 交通情報を受信すると SFC (⇒「内蔵 DSP」91 ページ、「別売 DSP」103 ページ) が OFF になり、イコライザーカーブは交通情報用になります。交通情報の受信をやめると SFC およびイコライザーカーブは、もとの状態に戻ります。

エンタテインメントを表示する

音楽などを聞いているときに、ディスプレイの表示をエンタテインメント表示に切り換えることができます。車内で、いろいろな表示を楽しむことができます。

1 メインメニューにする

ロータリーコマンドを押す
「FUNCTION」、「AUDIO」、
「ENTERTAINMENT」が表示されます。

2 エンタテインメントモードにする

ロータリーコマンドを回して
「ENTERTAINMENT」を選び、ロー
タリーコマンドを押す

3 エンタテインメント表示を切り換える

ロータリーコマンドを回す
ロータリーコマンドを回すごとに次のよ
うに切り換わります。

エンタテインメント OFF (ENT. OFF)
↓
バックグラウンドビジュアル 1 (BGV-1)
↓
バックグラウンドビジュアル 2 (BGV-2)
↓
バックグラウンドビジュアル 3 (BGV-3)
↓
バックグラウンドビジュアル 4 (BGV-4)
↓
バックグラウンドピクチャー 1 (BGP-1)
↓
バックグラウンドピクチャー 2 (BGP-2)
↓
バックグラウンドピクチャー 3 (BGP-3)
↓
バックグラウンドピクチャー 4 (BGP-4)
↓
スペアナ 1 (SPECTRUM ANALYZER-1)

↓
スペアナ 2 (SPECTRUM ANALYZER-2)
↓
レベルメーター (LEVEL METER)
↓
レベルインジケーター
(LEVEL INDICATOR)
↓
バッテリーボルテージ
(BATTERY VOLTAGE)
↓
エンタテインメントクロック
(ENT CLOCK)
↓
ムービー (MOVIE)
↓
ディスプレイオフ (DISPLAY OFF)
↓
エンタテインメント OFF (ENT. OFF) に戻る

4 選んだエンタテインメント表示を設定する

ロータリーコマンドを押す
選んだエンタテインメント表示が設定さ
れ、エンタテインメントモードが解除され
ます。

5 ディスプレイフォームを切り換える

エンタテインメントモード中に、ロー
タリーコマンドを上下に押す
(ENT OFF、BGV、BGP 選択時)
押すごとに、Form1、Form2、Form3 が
切り換わります。

6 選んだディスプレイフォームを設定する

ロータリーコマンドを押す
選んだディスプレイフォームが設定され、
エンタテインメントモードが解除されます。

ナビゲーションの音声を本機で再生する

デジタル/アナログ切り換え

エンタテインメント表示

メモ

- エンタテインメントモードを解除するには、BAND ボタンを押します。(約 30 秒間、何も操作しなかったときも、自動的に解除されます。)
- バッテリーポルテージ表示は、実際の電圧とは異なることがあります。
- ディスプレイオフを選ぶと、ノイズを抑え、音質への影響を抑えることができます。ディスプレイオフ選択中は、DISP OFF インジケータが点灯します。
- リモコンの ENTERTAINMENT ボタンを押して、エンタテインメント表示を切り換えることもできます。

メモ

- Form 2 では、次のソースを操作しているときに、再生経過時間とタイトルなどの文字情報を同時に表示しません。
内蔵 CD
マルチ CD
マルチ DVD / 1 枚型 DVD
iPod
- Form 3 では、次のソースを操作しているときに、表示の切り換えはできません。(DISPLAY ボタンは使用できません。)
内蔵 CD
ラジオ
マルチ CD
マルチ DVD / 1 枚型 DVD
iPod

パイオニア製のナビゲーションユニット(「AVIC-HRV022」など)と 5.1ch 対応・DSP ユニット(「DEQ-P9」など)を光ケーブルで接続している場合、ナビゲーションユニットで選択しているソースの音声を、AUX2 (外部機器 2) として車両のスピーカーから出力することができます。

本機に「DEQ-P9」を接続している場合

この機能は、本機に、別売の 5.1ch 対応・DSP ユニット(「DEQ-P9」)を接続しているときだけ操作できます。



デジタルに設定する場合

ナビゲーションユニットの内蔵プレーヤーを選択しているときは、本機の AUX2 (外部機器 2) をデジタルに設定してください。



アナログに設定する場合

ナビゲーションユニットのテレビ、ミュージックサーバーを選択したとき、または本機にナビゲーションユニットを接続しないときは、AUX2 (外部機器 2) をアナログに設定してください。

便利な機能と初期設定

1 ソースを AUX2 にする

SOURCE/VOLUME を押す
(→「ここだけで」21 ページ)

2 デジタル/アナログを切り換える

BAND ボタンを押す
ボタンを押すごとに次のように切り換わります。
デジタル(Digital) ↔ アナログ(Analog)



メモ

- AUX2 (外部機器 2) の設定 (→「便利な機能」124 ページ) を ON にしないと、AUX2 には切り換わりません。

初期設定モードの切り換えかた

外部機器やデモモードを設定するときは、初期設定モードを切り換えて操作します。

1 電源を OFF にする

SOURCE/VOLUME を長く押す
(⇒「ここだけで」21 ページ)

2 初期設定モードにする

電源が OFF のときに、ロータリーコマンドを長く押す

3 初期設定モードを切り換える

ロータリーコマンドを回す
ロータリーコマンドを回すごとに次のように切り換わります。(各モードの操作は、それぞれのモードの説明を参照してください。)

時計調整モード
(⇒「便利な機能」123 ページ)

↓
デタッチワーニングモード
(⇒「便利な機能」123 ページ)

↓
フェイスオートオープンモード
(⇒「便利な機能」124 ページ)

↓
AUX1 (外部機器 1) モード
(⇒「便利な機能」124 ページ)

↓
AUX2 (外部機器 2) モード
(⇒「便利な機能」124 ページ)

↓
ディマーモード
(⇒「便利な機能」126 ページ)

↓
輝度調整 (ブライト) モード
(⇒「便利な機能」127 ページ)

↓

デュアルイルミ設定モード
(⇒「便利な機能」127 ページ)

↓

デジタルアッテネーターモード
(⇒「便利な機能」128 ページ)

↓

オーディオリセット
(⇒「便利な機能」128 ページ)

↓

ミュートモード
(⇒「便利な機能」129 ページ)

↓

内蔵パワーアンプ設定モード
(⇒「便利な機能」130 ページ)

↓

デモンストレーションモード
(⇒「便利な機能」130 ページ)

↓

リバース (画面反転) モード
(⇒「便利な機能」131 ページ)

↓

連続スクロールモード
(⇒「便利な機能」131 ページ)

↓

時計調整モードに戻る



メモ

- 初期設定モードを解除するには、BAND ボタンを押します。(解除すると、電源が OFF になります。)

時計を合わせる

時計合わせ

時計を合わせることができます。

1 時計調整モードにする

電源が OFF のときにロータリーコマンドナーを長く押す



2 時計の設定をする

■ 時、分を選ぶ
ロータリーコマンドナーを左右に操作する

操作するごとに時、分が切り換わります。

■ 時刻を合わせる
ロータリーコマンドナーを上下に操作する

上：時刻を進めるとき

下：時刻を戻すとき

時または分を調節すると、0 秒からカウントが始まります。

■ 時刻を時報に合わせる
ロータリーコマンドナーを押す

分が“00”になります。

例) 10:00 ~ 10:29 → 10:00

10:30 ~ 10:59 → 11:00

3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

フロントパネルの外し忘れを警告する

デタッチワーニング

デタッチワーニングは、車を離れるときに、フロントパネルの外し忘れを警告ブザーで報せる機能です。(初期設定では、OFF になっています。) フロントパネルを取り外すには (→ 「はじめに」 14 ページ)



デタッチワーニングについて

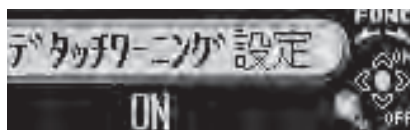
イグニッションスイッチを OFF にしたときに、フロントパネルを外し忘れていたら、約 4 秒後に警告ブザーが鳴り、フロントパネルの外し忘れを知らせます。

1 デタッチワーニングモードにする

電源が OFF のときに、ロータリーコマンドナーを長く押してから、ロータリーコマンドナーを回して選ぶ (→ 「便利な機能」 122 ページ)

2 デタッチワーニングの設定を ON にする

ロータリーコマンドナーを押す
ロータリーコマンドナーを押すごとに ON / OFF します。



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

フロントパネルを外しやすくする

フェイスオートオープン

フェイスオートオープンは、車を離れるときに、フロントパネルを外しやすくする機能です。(初期設定では、OFF になっています。)

フロントパネルを取り外すには (→「はじめに」14 ページ)



フェイスオートオープンについて

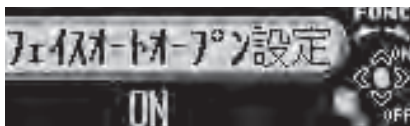
フロントパネルを外しやすくするため、イグニッションスイッチを OFF にした約 4 秒後に、フロントパネルが自動的に開きます。

1 フェイスオートオープンモードにする

電源が OFF のときに、ロータリーコマンダーを長く押ししてから、ロータリーコマンダーを回して選ぶ (→「便利な機能」122 ページ)

2 フェイスオートオープンの設定を ON にする

ロータリーコマンダーを押す
ロータリーコマンダーを押すごとに ON / OFF します。



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

外部機器を使う

市販のポータブル機器や VTR などを 2 台まで接続することができます。また、それぞれの機器の音声を外部機器 (AUX1、AUX2) ソースとして車両のスピーカーから出力させることができます。

外部機器を接続した場合は、外部機器 (AUX1、AUX2) ソースの設定を ON にしてください。



外部機器との接続について

外部機器の接続には、次の 3 通りがあります。

- ① 付属の 2.5 mm ステレオ超ミニプラグを使用する場合 (AUX1)
- ② 別売の RCA/IP-BUS インターコネクターを使用する場合 (AUX2)
- ③ IP-BUS を使用する場合 (AUX2)
(パイオニア製ナビゲーションユニットなど、IP-BUS 出力を持つパイオニア製品を使用する場合)



メモ

- AUX2 は、②と③のどちらか一方の接続のみ使用できます。(両方の接続を同時にすることはできません。)

① 付属の 2.5 mm ステレオ超ミニプラグを使用する場合

▲ ボタンを長く押し、フロントパネルを開けます。フロントパネル底面の AUX1 / マイク入力端子に付属の 2.5 mm ステレオ超ミニプラグを差し込み、接続します。この場合、接続した外部機器は、AUX1 ソースになります。



AUX1/マイク
入力端子

2.5 mmステレオ
超ミニプラグ

② 別売の RCA/IP-BUS インターコネクターを使用する場合

接続する外部機器に RCA 出力がある場合、別売の RCA/IP-BUS インターコネクター「CD-RB10」または「CD-RB20」を使用して、本機の IP-BUS 入力端子に接続します。接続した外部機器は、AUX2 ソースになります。詳しくは、RCA/IP-BUS インターコネクターの説明書をご覧ください。

③ IP-BUS を使用する (パイオニア製ナビゲーションユニットなどを接続する) 場合

別売の IP-BUS ケーブル (「CD-IP600」など) を使用して、本機の IP-BUS 入力に接続します。接続したナビゲーションユニットは、AUX2 ソースになり、音声のみ出力できます。

1 外部機器 (AUX1、AUX2) モードにする

電源が OFF のときに、ロータリーコマンダーを長く押ししてから、ロータリーコマンダーを回して選ぶ (→「便利な機能」122 ページ)

2 外部機器 (AUX1、AUX2) の設定を ON にする

ロータリーコマンダーを押す
ロータリーコマンダーを押すごとに ON / OFF します。



3 ソースを AUX1 または AUX2 にする

SOURCE/VOLUME を押す
(→「ここだけで」21 ページ)



ソースを AUX1 または AUX2 に切り換えると、接続した外部機器の音声が出力されます。

メモ

- 外部機器の名称を変更することもできます。外部機器の名称を変更するには (→「便利な機能」126 ページ)

外部機器の名称を入力する

本機に外部機器（AUX1、AUX2）を接続したときに、その機器の名称を本機に入力して、ディスプレイに表示させることができます。たとえば、VTRを外部機器として本機に接続した場合は、初期状態で表示される“AUX1”または“AUX2”を“VTR”に変更することができます。

1 ソースを外部機器（AUX1、AUX2）にする

SOURCE/VOLUME を押す
(⇒「ここだけ」21 ページ)

2 メインメニューにする

ロータリーコマンドーを押す
「FUNCTION」、「AUDIO」、
「ENTERTAINMENT」が表示されます。

3 外部機器の名称入力モードにする

ロータリーコマンドーを回して
「FUNCTION」を選び、ロータリー
コマンドーを押す



4 外部機器の名称を入力し、記憶させる

CDのタイトル入力の手順3以降を参照し、同様の操作で外部機器の名称を記憶させてください。(⇒「マルチCD」57 ページ)

メモ

- 外部機器の名称は、8文字まで入力できます。

夜間のディスプレイの明るさを切り換える

ディマー

夜間、周囲が暗くなったときにディスプレイがまぶしくならないように、車のライトをONにするとディマーが働き、ディスプレイが暗くなるように設定できます。

1 ディマーモードにする

電源がOFFのときにロータリーコマンドーを長く押してから、ロータリーコマンドーを回して選ぶ
(⇒「便利な機能」122 ページ)

2 ディマーの設定をONにする

ロータリーコマンドーを押す
ロータリーコマンドーを押すごとにON/OFFします。



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

- 車のライトをONにしてディマーが働いているときでも、輝度調整モード(⇒「便利な機能」127 ページ)でディスプレイの明るさを“0”に調整しているときは、ディスプレイの明るさを変えることはできません。

ディスプレイの明るさを調節する

輝度調整 (ブライト)

ディスプレイの明るさを調節できます。

1 輝度調整 (ブライト) モードにする

電源が OFF のときにロータリーコマンドを長く押してから、ロータリーコマンドを回して選ぶ
(→「便利な機能」122 ページ)

2 明るさを調節する

ロータリーコマンドを左右に操作する
右: 明るくしたいとき
左: 暗くしたいとき



0 ~ 15 の範囲で調節できます。

3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

- ディマー設定 (→「便利な機能」126 ページ) が ON のときは、輝度調整の範囲は、0 ~ 10 になります。

イルミネーションの色を変更する

デュアルイルミ設定

ボタンのイルミネーション色を変更できます。

1 デュアルイルミ設定モードにする

電源が OFF のときにロータリーコマンドを長く押してから、ロータリーコマンドを回して選ぶ
(→「便利な機能」122 ページ)

2 ボタンのイルミネーション色を選ぶ

ロータリーコマンドを押す
ロータリーコマンドを押すごとに、ボタンのイルミネーション色が次のように切り換わります。

White (白)



Orange (橙)



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

- この設定で変更されるのは、ボタンの色だけです。画面表示色などは変更されません。

音の歪みを補正する

デジタルアッテネーター

イコライザーカーブの調節（⇒「内蔵 DSP」89 ページ）による音の歪みをなくすることができます。

デジタルアッテネーターについて

イコライザーカーブの設定でレベルを高く設定した周波数の音域が歪むことがあります。イコライザーカーブの設定で音が歪んだように感じたときは、デジタルアッテネーターの設定を“Low”に切り換えてください。

1 デジタルアッテネーターモードにする

電源が OFF のときにロータリーコマンダーを長く押してから、ロータリーコマンダーを回して選ぶ（⇒「便利な機能」122 ページ）

2 デジタルアッテネーターの設定を選ぶ

ロータリーコマンダーを押す
ロータリーコマンダーを押すごとに High / Low が切り換わります。



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

オーディオ設定をリセットする

オーディオの設定を出荷時の状態に戻すことができます。

リセットされる設定について

本機に別売の 5.1ch 対応・DSP ユニット「DEQ-P9」を接続していないときは、内蔵 DSP で調節できる全てのオーディオ設定がリセットされます。

本機に別売の 5.1ch 対応・DSP ユニット「DEQ-P9」を接続しているときは、「DEQ-P9」で調節できる全てのオーディオ設定がリセットされます。

次の設定はリセットされません。

- ・ボリューム
- ・初期設定モードのデジタルアッテネーターモードおよびミュート/アッテネーターモードの設定

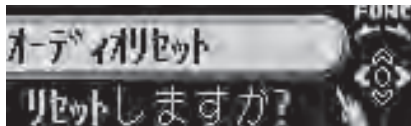
1 オーディオリセットモードにする

電源が OFF のときにロータリーコマンダーを長く押してから、ロータリーコマンダーを回して選ぶ（⇒「便利な機能」122 ページ）

2 リセット操作を始める

ロータリーコマンダーを押す
確認画面が表示されます。リセットをやめるときは、BAND ボタンを押します。

BAND ボタンを押すと、初期設定モードが解除されます。



ミュート／アッテネートを切り換える

ミュート

オーディオリセット

3 リセットの確認をする

ロータリーコマンドを右に操作する再度、確認画面が表示されます。リセットをやめるときは、BAND ボタンを押します。BAND ボタンを押すと、初期設定モードが解除されます。



4 リセットする

ロータリーコマンドを押すオーディオ設定がリセットされます。



5 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す



ミュート／アッテネート機能について

ミュート機能のあるパイオニア製ナビゲーションシステムと本機を組み合わせると、その製品からミュート信号を受け取っている間だけ、ミュートまたはアッテネート機能が働きます。ミュート信号を受け取っているときの各設定の音量は、次のようになります。

- ・ TEL mute : 音量 "0"
 - ・ 10dB ATT : もとの音量の約 1/3
 - ・ 20dB ATT : もとの音量の約 1/10
- ミュートまたはアッテネート機能が解除されると、自動的にもとの音量に戻ります。

1 ミュートモードにする

電源が OFF のときにロータリーコマンドを長く押してから、ロータリーコマンドを回して選ぶ
(→「便利な機能」122 ページ)

2 設定を選ぶ

ロータリーコマンドを押す
ロータリーコマンドを押すごとに次のように切り換わります。
20dB ATT → Mute → 10dB ATT → 20dB ATT に戻る



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

便利な機能と初期設定

内蔵パワーアンプを ON / OFF する

内蔵パワーアンプ

内蔵パワーアンプとファンの動作を ON / OFF できます。

内蔵パワーアンプ ON / OFF 機能について

本機を 3-way ネットワークモードで使用するときなど、内蔵アンプを使用しないことがあります。そのような場合に、内蔵パワーアンプとファンの動作を OFF にすると、消費電力を抑えることができ、音質向上に役立ちます。外部アンプだけでシステムを構築している場合は、本機のパワーアンプを OFF にしてください。

1 内蔵パワーアンプ設定モードにする

電源が OFF のときにロータリーコマンドを長く押ししてから、ロータリーコマンドを回して選ぶ
(⇒「便利な機能」122 ページ)

2 内蔵パワーアンプを OFF にする

ロータリーコマンドを押す
ロータリーコマンドを押すごとに ON / OFF します。



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

フィーチャーデモを ON / OFF する

デモンストレーション

フィーチャーデモの ON / OFF をすることができます。

フィーチャーデモについて

フィーチャーデモは、本機が電源 OFF のときに、各ソースや本機の機能（エンタテインメント、SFC など）の画面を表示して紹介する機能です。

1 デモンストレーションモードにする

電源が OFF のときにロータリーコマンドを長く押ししてから、ロータリーコマンドを回して選ぶ
(⇒「便利な機能」122 ページ)

2 デモンストレーションを ON にする

ロータリーコマンドを押す
ロータリーコマンドを押すごとに ON / OFF します。



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

●フィーチャーデモは、本機が OFF のときに、DISPLAY ボタンを押すことでも ON / OFF することができます。(⇒「はじめに」12 ページ)

リバースモードを ON / OFF する

リバース

リバースモードの ON / OFF をすることができます。

リバース（画面反転）機能について

リバースモードは、各ソースを聞いているときに約 30 秒間操作しないと画面が自動的に反転する機能です。反転は、10 秒間隔で行われます。

1 リバース（画面反転）モードにする

電源が OFF のときにロータリーコマンドを長く押してから、ロータリーコマンドを回して選ぶ
(→「便利な機能」122 ページ)

2 リバースモードを ON にする

ロータリーコマンドを押す
ロータリーコマンドを押すごとに ON / OFF します。



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

- リバースモードは、本機が OFF のときに、BAND ボタンを押すことでも ON / OFF することができます。(→「はじめに」12 ページ)

スクロールのしかたを切り換える

連続スクロール

連続スクロール機能を ON にすると、CD のタイトルなどを連続してスクロールできます。一度だけスクロールさせたいときは、この機能を OFF にしてください。(初期設定では OFF になっています。)

1 連続スクロールモードにする

電源が OFF のときにロータリーコマンドを長く押してから、ロータリーコマンドを回して選ぶ
(→「便利な機能」122 ページ)

2 連続スクロールの設定を ON にする

ロータリーコマンドを押す
ロータリーコマンドを押すごとに ON / OFF します。



3 初期設定モードを解除する

BAND ボタンを押す

便利な機能と初期設定

エクスターナルユニットの操作



エクスターナルとは

本機には、エクスターナルという特殊なソースがあります。このソースには、本機がソースとして対応していない製品（将来発売されるパイオニア製品など）を接続できます。ただし、エクスターナルでは、操作できる機能が限られる場合があります。

本機には、2台のエクスターナル製品を接続することができます。この場合、エクスターナル1とエクスターナル2が自動で設定されます。



ご注意

ここでは、エクスターナルユニットの基本的な操作方法だけを説明しています。機能は、接続するエクスターナルユニットによって異なります。機能については詳しくは、エクスターナルユニットの取扱説明書をご覧ください。

ソースとしてエクスターナルユニットを選ぶ

SOURCE/VOLUME を押す

ふだんの操作

BAND ボタンを押す

BAND ボタンを長く押す

ロータリーコマンドーを左右に操作する

ロータリーコマンドーを左右に長く操作して、離す

ロータリーコマンドーを上下に操作する

リモコンの1～6ボタンの1つを押す

リモコンの1～6ボタンの1つを長く押す

ファンクションメニューの操作

1 メインメニューにする

ロータリーコマンドーを押す
「FUNCTION」、「AUDIO」、
「ENTERTAINMENT」が表示されます。

2 ファンクションモードにする

ロータリーコマンドーを回して
「FUNCTION」を選び、ロータリー
コマンドーを押す

3 ファンクションモードを切り換える

ロータリーコマンドーを回す
ロータリーコマンドーを回すごとに次のよ
うに切り換わります。

ファンクション1モード



ファンクション2モード



ファンクション3モード



ファンクション4モード



オート/マニュアル切換モード



ファンクション1モードに戻る

4 ファンクションモードを解除する

BAND ボタンを押す

メモ

- ファンクションモードは、約30秒間何も操作しないと自動的に解除されます。

CD の正しい使いかた

使用できる CD について

- ・ 下記マークの付いているコンパクトディスク（光学式デジタルオーディオディスク）をご使用ください。



- ・ 本機は音楽 CD 規格に準拠して設計されています。コピーコントロール CD などの CD 規格外ディスクの動作保証及び性能保証は致しかねます。
- ・ ひび、キズ、そりのある CD は使用しないでください。
- ・ 特殊形状のディスクは、使用しないでください。故障の原因になります。



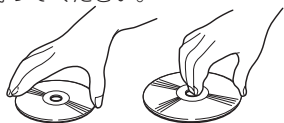
- ・ 音楽用 CD レコーダーまたはパソコンで記録した CD-R / CD-RW ディスクは、ディスクの特性やキズ・汚れ、または本機内部のレンズの汚れ・露などにより、本機では再生できない場合があります。
- ・ パソコンで記録したディスクは、アプリケーションの設定および環境によって再生できないことがあります。（詳細は、アプリケーションの発売元にお問い合わせください。）
- ・ 直射日光や高温など、車内での保管状況により、CD-R / CD-RW ディスクは再生できなくなる場合があります。
- ・ CD-R / CD-RW ディスクに記録されているタイトルなどの文字情報は、本機では表示されない場合があります。（音楽データ（CD-DA）再生時）
- ・ ファイナライズされていない CD-R / CD-RW ディスクには対応していません。
- ・ CD-R / CD-RW ディスクの取り扱いについては、ディスクの説明書や注意書きを十分お読みください。

「DualDisc」の再生について

- ・ 「DualDisc」は、片面に DVD 規格準拠の映像やオーディオが、もう片面に CD 再生機での再生を目的としたオーディオがそれぞれ収録されています。
- ・ DVD 面ではないオーディオ面は、一般的な CD の物理的規格に準拠していないために再生できないことがあります。
- ・ 「DualDisc」を再生機器に挿入をしたり、取り出しをしたりするときに再生面の反対側の面に傷がつく場合があります。傷が付いた面は再生すると不具合がでる場合があります。
- ・ ディスクを取り出せないといった不具合が起こる可能性がありますので「DualDisc」はご使用にならないでください。
- ・ 「DualDisc」の仕様や規格などの詳細に関しましては、ディスクの発売元または販売元にお問い合わせください。

取り扱い上のご注意

- CDは、下図のように、信号記録面（虹色に光っている面）をさわらないように持ってください。



- CDにキズを付けないでください。
- CDにシールなどを貼り付けないでください。

保管上のご注意

- 直射日光の当たるところや高温になるところには、CDを保管しないでください。



- CDがぞらないように、必ずケースに入れて保管してください。

お手入れについて

- CDが汚れたときは、柔らかいきれいな布でCDの内周から外周方向へ軽くふいてください。



- アナログ式レコード用のクリーナー、静電気防止剤などは使用しないでください。またベンジンやシンナーなどの揮発性の薬品をかけないでください。

CD再生の環境について

- 走行中、振動のショックで音飛びを起こすことがあります。
- 寒いとき、ヒーターを入れた直後にCD再生を始めると、本機内部の光学系レンズやCDに露が生じて、正常に再生できないことがあります。このようなときは、1時間ほど放置して自然に露がとれるのをお待ちください。CDに付いた露は柔らかい布でふいてください。

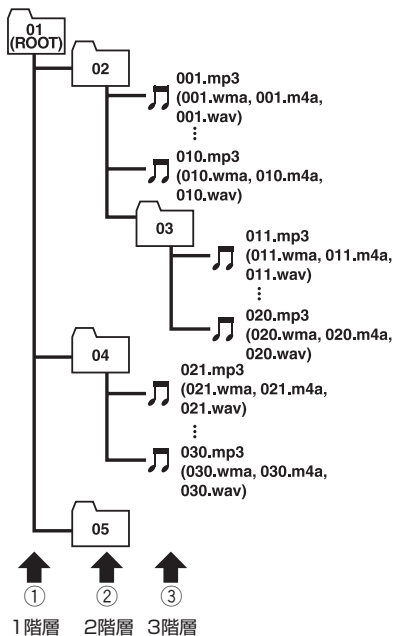


メモ

- 製品設計上配慮していますが、機構上あるいは使用環境・ディスクの取り扱いなどにより、ディスク面に実使用上支障のない程度のキズが付くことがあります。これは、製品の故障ではありません。一般的な消耗としてご理解ください。

フォルダーと WMA/MP3/AAC/WAV ファイルについて

- WMA/MP3/AAC/WAV ファイルを収録した CD-R / CD-RW / CD-ROM のイメージは下図のようになります。



- 本機は WMA/MP3/AAC/WAV ファイルが記録された CD-R / CD-RW / CD-ROM の再生に対応しています。ISO9660 のレベル 1、レベル 2、および拡張フォーマット (Joliet, Romeo) に準拠して記録されたディスクが再生可能です。(⇒「その他」144 ページ)
- 本機はマルチセッション (⇒「その他」144 ページ) 方式で記録したディスクの再生に対応しています。
- パケットライト (⇒「その他」144 ページ) には対応していません。
- m3u (⇒「その他」145 ページ) のプレイリストには対応していません。
- MP3i (MP3 interactive) フォーマット、および MP3 PRO フォーマットには対応していません。

- ファイル名の最大表示文字数は、拡張子 (.mp3, .wma, .m4a, .wav) を含めて半角で 64 文字、全角で 32 文字までです。また、フォルダー名の最大表示文字数は半角で 64 文字、全角で 32 文字までです。
- 拡張フォーマット (Romeo) (⇒「その他」144 ページ) に準拠して記録されたファイルの場合、半角で先頭から 64 文字、全角で先頭から 32 文字までの表示に対応しています。
- 再生などの操作でフォルダーが選択される順番は、ライティングソフトで書き込まれた順番になります。ただし、ライティングソフトによっては、再生の順番を設定できるものもあります。
- 曲間 (トラック間) にブランクがない CD を、WMA/MP3/AAC/WAV ファイルとして CD-R / CD-RW / CD-ROM に記録して再生した場合、曲間が音飛びしたように聞こえます。



メモ

- フォルダー番号は本機が割り当てます。お客様が割り当てることはできません。
- CD-R、CD-RW、CD-EXTRA、MIXED-MODE CD ディスクに、WMA/MP3/AAC/WAV ファイルと音楽データ (CD-DA) が混在しているときは、WMA/MP3/AAC/WAV ファイルと、音楽データ (CD-DA) を切り換えることができます (⇒「ここだけで」25 ページ)。WMA/MP3/AAC/WAV ファイルと、音楽データ (CD-DA) を切り換えた場合、再生は一番先頭の曲から始まります。
- WMA/MP3/AAC/WAV ファイルを含まないフォルダーは認識しません。(フォルダー番号を表示せず、スキップします。)
- 8 階層までの WMA/MP3/AAC/WAV ファイルの再生に対応しています。ただし、多くの階層を持つディスクは、再生が始まるまでに時間がかかります。ディスク作成時には、階層を 2 つ以下にすることをおすすめします。
- ディスクに含まれるフォルダーの合計が 99 個まで再生可能です。

WMA とは？

- ・「Windows Media™ Audio」の略で、米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。WMA データは、Windows Media Player Ver. 7 以降を使用してエンコードすることができます。(⇒「その他」145 ページ)

ご注意

- WMA ファイルをエンコードしたアプリケーションによっては、正常に動作しないことがあります。
- WMA ファイルをエンコードした Windows Media Player のバージョンによっては、アルバム名などの文字情報が正しく表示されないことがあります。
- 画像データを含む WMA ファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。

再生できる WMA ファイルについて

ご注意

- WMA ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.wma) を付けてください。
- 本機は、拡張子 (.wma) が付いているファイルを WMA ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、WMA ファイル以外には拡張子 (.wma) を付けられないでください。

- ・ 再生可能な WMA ファイルのサンプリング周波数は 32/44.1/48 kHz です。
- ・ 一般的に WMA ファイルは、ビットレート (⇒「その他」144 ページ) が高いほど音質は良くなります。本機は、CBR (固定ビットレート) では 48kbps ~ 320kbps、VBR (可変ビットレート) では 48kbps ~ 384kbps のビットレートで記録された WMA ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、できるだけ高いビットレートで記録されたディスクの使用を推奨します。
- ・ デジタル著作権保護 (DRM) で保護されたファイルを再生したときは、“TRK SKIPPED” と表示され、そのファイルの再生がスキップされます。
- ・ ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権保護 (DRM) で保護されている場合は、“PROTECT” と表示され、そのディスクは再生できません。
- ・ この製品は、下記形式の一部のバージョンには対応していません。
 - Windows Media Audio Professional (5.1ch)
 - Windows Media Audio Lossless (可逆圧縮)
 - Windows Media Audio Voice

MP3 とは？

- ・「MPEG Audio Layer3」の略で、音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。(→「その他」145 ページ)

再生できる MP3 ファイルについて



ご注意

- MP3 ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.mp3) を付けてください。
- 本機は、拡張子 (.mp3) が付いているファイルを MP3 ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、MP3 ファイル以外には拡張子 (.mp3) を付けなくてください。
- ID3 tag (→「その他」144 ページ) の Ver.1.0 / 1.1 / 2.2 / 2.3 / 2.4 のアルバム名 (ALBUM TITLE として表示)、曲名 (TRACK TITLE として表示)、およびアーティスト名 (ARTIST NAME として表示) の表示に対応しています。なお、ID3 tag の Ver.1.X と Ver.2.X が混在している場合は、Ver.2.X が優先されます。
- サンプリング周波数が 32 / 44.1 / 48 kHz の MP3 ファイルを再生する場合のみ、エンファシスに対応します。(なお、再生可能なサンプリング周波数は 16 / 22.05 / 24 / 32 / 44.1 / 48 kHz です。)
- 一般的に MP3 ファイルは、ビットレート (→「その他」144 ページ) が高いほど音質は良くなります。本機は、8kbps ~ 320kbps のビットレートで記録された MP3 ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、128kbps 以上のビットレートで記録されたディスクの使用を推奨します。

AAC とは？

- ・「Advanced Audio Coding」の略で、MPEG2、MPEG4 で使用される音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。(→「その他」144 ページ)

再生できる AAC ファイルについて



ご注意

- AAC ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.m4a) を付けてください。
- 本機では、Ver. 7.2 以前の iTunes を使用してエンコードされた AAC ファイルの再生に対応していません。
- 本機は、iTunes で作成された拡張子 (.m4a) が付いているファイルを AAC ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、AAC ファイル以外には拡張子 (.m4a) を付けなくてください。
- 画像データを含む AAC ファイルを再生する場合、再生が始まるまでに時間がかかることがあります。
- AAC ファイルをエンコードした iTunes のバージョンによっては、正しく再生されないことがあります。
- 再生可能な AAC ファイルのサンプリング周波数は、11.025 / 16 / 22.05 / 24 / 32 / 44.1 / 48 kHz です。
- 一般的に AAC ファイルは、ステレオビットレートが高いほど音質は良くなります。本機は、16kbps ~ 320kbps のステレオビットレートで記録された AAC ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、できるだけ大きいステレオビットレートで記録されたディスクの使用を推奨します。
- この製品は、下記の形式には対応していません。
 - ・ Apple ロスレス・エンコーダ

WAV とは？

- ・「Waveform」の略で、Windows での標準音声フォーマットです。(➡「その他」145 ページ)



ご注意

- ・ WAV ファイルをエンコードした Windows Media Player のバージョンによっては、正常に動作しないことがあります。

再生できる WAV ファイルについて



ご注意

- WAV ファイルに名前を付けるときは、ファイル名のあとに拡張子 (.wav) を付けてください。
- 本機は、拡張子 (.wav) が付いているファイルを WAV ファイルとして再生します。雑音や故障の原因となりますので、WAV ファイル以外には拡張子 (.wav) を付けないでください。
- ・ 本機は、LPCM 形式および MS ADPCM 形式でエンコードされた WAV ファイルの再生に対応しています。
- ・ 本機は、LPCM 形式では 16 / 22.05 / 24 / 32 / 44.1 / 48 kHz、MS ADPCM 形式では 22.05 / 44.1 kHz のサンプリング周波数で記録された WAV ファイルの再生に対応しています。
- ・ 表示されるサンプリング周波数の桁は、すべてではないことがあります。
- ・ 一般的に WAV ファイルは、量子化ビット数 (➡「その他」144 ページ) が大きいほど音質は良くなります。本機は、LPCM では 8 / 16 bit、MS ADPCM では 4 bit の量子化ビット数で記録された WAV ファイルの再生に対応しています。ただし、ある一定の音質で音楽を楽しんでいただくためには、できるだけ大きい量子化ビット数で記録されたディスクの使用を推奨します。

故障かな？と思ったら

故障かな？ と思ったら

修理を依頼される前に、次の表の内容をチェックしてください。

チェックしても 直らないときは

本機をリセットしてください。(⇒「はじめに」13ページ)

それでも 直らないときは

「保証書とアフターサービス」(⇒「その他」143ページ)をお読みになり、修理を依頼してください。

●共通項目

症状	原因	処置
電源が入らない。 動作しない。	各リード線やコネクターが正しく接続されていない。	正しく確実に接続されているかどうか、もう一度確認してください。 (⇒「取付説明書」)
	ヒューズが切れている。	ヒューズが切れた原因を解決し、切れたヒューズと同じ容量のものに交換してください。(⇒「取付説明書」)
音が出ない。 音が小さい。	音量を下げている。	音量を上げてください。 (⇒「ここだけ」22～29ページ)
	アッテネーターがONになっている。	アッテネーターを解除してください。 (⇒「便利な機能」118ページ)
	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。 (⇒「内蔵 DSP」79ページ)
	ミュートを設定している。	ミュートを解除してください。 (⇒「内蔵 DSP」82、86ページ)
	内蔵パワーアンプがOFFになっている。	内蔵パワーアンプをONにしてください。 (⇒「便利な機能」130ページ)
前または後ろのスピーカーから音が出ない。	前後の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。 (⇒「内蔵 DSP」79ページ)
左または右のスピーカーから音が出ない。	左右の音量バランスの調節が適切でない。	正しく調節してください。 (⇒「内蔵 DSP」78ページ)
音量が自動的に変化する。	ASL がONになっている。	ASL を解除してください。 (⇒「内蔵 DSP」93ページ)
ディスプレイが反転表示する。	リバースモードがONになっている。	リバースモードを解除してください。 (⇒「便利な機能」131ページ)
電源をOFFにしても映像が出ている。	フィーチャーデモがONになっている。	フィーチャーデモを解除してください。 (⇒「便利な機能」130ページ)
ディスプレイの表示がおかしい。	エンタテインメント表示が設定されている。	お好みの表示を選んでください。 (⇒「便利な機能」120ページ)
フロントパネルが閉まらない。	AUX1/マイク入力端子に何か接続されている。	AUX1/マイク入力端子に何か接続されている状態では、フロントパネルを閉めることはできません。接続されているものを一度取り外してください。

症状	原因	処置
エンジンを切ったら警告音が鳴る。	デタッチワーニングが ON になっている。	フロントパネルを取り外してください。(⇒「はじめに」14 ページ) フロントパネルを取り外さない場合は、デタッチワーニングを OFF にしてください。(⇒「便利な機能」123 ページ)
エンジンを切ったらフロントパネルが自動で開く。	フェイスオートオープンが ON になっている。	フロントパネルを取り外してください。(⇒「はじめに」14 ページ) フロントパネルを取り外さない場合は、フェイスオートオープンを OFF にしてください。(⇒「便利な機能」124 ページ)

メモ

- 別売の 5.1ch 対応・DSP ユニートを接続している場合は、DSP ユニートの取扱説明書をご覧ください。

●ラジオ

症状	原因	処置
ラジオの受信中、“ジーザー、ザーザー”という雑音が多い。	放送局の周波数が合っていない。	周波数を正しく合わせてください。(⇒「ここだけで」27 ページ)
	放送局の電波が弱い。	他の放送局を選局してみてください。(⇒「ここだけで」27 ページ)
	周りに障害物があるなど、受信状態が良くない。	受信状態が良くなると、雑音が少なくなります。
自動選局できない。	放送局の電波が弱い。	手動で選局してください。(⇒「ここだけで」27 ページ)

●CD、WMA / MP3 / AAC / WAV

症状	原因	処置
CD 再生中、大きな雑音が出る。 CD の再生が途中で止まる。 CD を再生できない。	CD に大きなキズやそりがある。	他の CD に交換してください。良くなれば、CD の不良です。
	CD が極端に汚れている。	CD の汚れをふき取ってください。(⇒「その他」135 ページ)
	CD にくもりや水滴が付いている。	CD のくもりや水滴をふき取ってください。(⇒「その他」135 ページ)
	CD の裏表を逆にしてセットしている。	CD のタイトル面を上にしてセットしてください。(⇒「ここだけで」22、24 ページ)
CD を再生できない。 CD を取り出せない。	本機がディスクを認識していない。	フロントパネルを開けた状態で、▲ボタンを長く押し、ディスクを取り出すことができます。もう一度、入れ直してください。

こんなメッセージが表示されたら

●CD、WMA / MP3 / AAC / WAV のエラー表示

メッセージ (エラー番号)	原因	処置
「ERROR-10」「ERROR-11」 「ERROR-12」「ERROR-15」 「ERROR-17」「ERROR-30」 「ERROR-50」「ERROR-A0」	電気系、機構系の故障が考えられる。	車のエンジンスイッチを一度 OFF にしてから ON にするか、CD 再生を一度やめてから、もう一度 CD 再生にしてください。
「ERROR-11」「ERROR-12」 「ERROR-17」「ERROR-30」	CD が汚れている。 CD にキズやひびがある。	CD の汚れをふき取ってください。 (⇒「その他」135 ページ) CD を交換してください。
「ERROR-12」「ERROR-15」 「ERROR-17」	CD-R / CD-RW を録音しないまま使用している。	CD-R / CD-RW は録音してからお使いください。
「ERROR-23」	再生できないフォーマットの CD-ROM を挿入した。	CD を交換してください。
「No Audio」	何も録音されていない CD-ROM を挿入した。	WMA / MP3 / AAC / WAV ファイルの記録されている CD-ROM と交換してください。
「TRK SKIPPED」	デジタル著作権保護 (DRM) で保護された WMA ファイルを再生した。	デジタル著作権保護 (DRM) で保護されていないファイルを再生してください。
「PROTECT」	ディスク内のすべてのファイルがデジタル著作権保護 (DRM) で保護されている。	CD を交換してください。



メモ

- マルチ CD 再生中に、上記以外のエラーメッセージが表示されたときは、マルチ CD の取扱説明書をご覧ください。

●オートイコライジングのエラー表示

メッセージ	原因	処置
「AUX1/ マイクを外して下さい」	AUX1/ マイク入力端子に何かが接続されている。	AUX1/ マイク入力端子から 2.5 mm ステレオ超ミニプラグやマイクを取り外してください。
「マイクエラー」	マイクが接続されていない。	付属の音響特性測定用マイクをきちんと差し込んでください。 (⇒「内蔵 DSP」96 ページ)
「フロントレフト SP エラー」 「フロントライト SP エラー」 「フロント SP エラー」 「センター SP エラー」 「リアレフト SP エラー」 「リアライト SP エラー」 「サブウーファーエラー」	スピーカーの計測音がマイクで拾えない。	ソースを切り換えて、スピーカーから音が出るか確認してください。音が出ない場合は、スピーカーリード線の接続を確認してください。 (⇒「取付説明書」)
「騒音大きすぎます」	周囲の騒音レベルが高すぎる。	付属の音響特性測定用マイクを正しくセットしてください。 なるべく静かなところに車を停車し、車のエンジン、およびエアコンやヒーターを止めてください。 なるべく静かなところに車を停車し、車のエンジン、およびエアコンやヒーターを止めてください。 付属の音響特性測定用マイクを正しくセットしてください。

保証書とアフターサービス

●保証書

保証書は、ご購入年月日、販売店名などが記入されていることをお確かめのうえ、ご購入の際に販売店より受け取ってください。

保証書に記入もれがあったり、保証書を紛失したりすると、保証期間中でも保証が無効となります。記載内容をよくお読みのうえ、大切に保管してください。

●保証期間

この製品の保証期間は、お買い上げの日より1年間です。

●保証期間中の修理について

万一、故障が生じたときは、保証書に記載されている当社保証規定に基づき修理いたします。お買い上げの販売店または修理受付センター（沖縄県のみ沖縄サービスステーション）にご連絡ください。所在地、電話番号は本機に付属の「ご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

●保証期間経過後の修理について

お買い上げの販売店または修理受付センター（沖縄県のみ沖縄サービスステーション）にご相談ください。修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理いたします。

●補修用性能部品の最低保有期間

当社は、本機の補修用性能部品を、製造打ち切り後最低6年間保有しています。（性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。）

●ご質問、ご相談は

本機に関するご質問、ご相談はパイオニアカスタマーサポートセンターまたはお買い上げの販売店にお問い合わせください。

ドルビープロロジック II

ドルビープロロジック II は、2 チャンネル信号を 5.1 チャンネルに拡張することができます。CD のような通常のステレオ音楽でも立体音場効果、包囲感、より明確な定位感を実現します。



パケットライト

フロッピーディスクやハードディスクと同じように、必要なファイルを必要な時点で、CD-R などに書き込む記録方式の総称です。

ビットレート

1 秒当たりの情報量をあらわし、単位は bps (bit per second) です。この数字が大きいほど、音楽を再現するために多くの情報を持つことになるため、同じ符号化方式 (MP3 など) での比較では、一般的に数字が大きい方が良い音となります。(MP3 と WMA のように、異なる符号化方式の場合、単純な比較はできません。)

マルチセッション

マルチセッションは、データの追加ができる記録方式です。CD-ROM、CD-R、および CD-RW にデータを記録するとき、その記録の始めから終わりまでをひとまとめにした単位をセッションといいます。マルチセッションとは、1 枚のディスクに 2 つ以上のセッションデータを記録する方法のことです。

リニア PCM (LPCM)

音楽 CD に用いられている信号記録方式で、「Linear Pulse Code Modulation」の略です。音楽 CD は、44.1 kHz/16 bit で記録されています。

量子化ビット数

量子化ビット数は、音質を定義する要素の 1 つです。この数が大きいほど、音質が良くなります。ただし、量子化ビット数が大きくなるほどデータサイズが大きくなるため、より多くの記憶容量が必要となります。

AAC

「Advanced Audio Coding」の略で、MPEG2、MPEG4 で使用される音声圧縮技術に関する標準フォーマットです。

ID3 tag

曲の関連情報を MP3 ファイルの中に埋め込む方式です。埋め込むことのできる情報には、曲名、アーティスト名、アルバム名、ジャンル、製作年、コメントなどがあります。この内容は ID3 tag 編集機能のあるソフトを利用して自由に編集できます。通常は文字数などに制限がありますが、曲の再生時に情報を見ることができるようになっています。

ISO9660 フォーマット

CD-ROM のファイルおよびフォルダーに関する論理フォーマットの国際基準です。ISO9660 フォーマットには、次のようなレベルに関する規制があります。

レベル 1 :

ファイル名は、8.3 形式 (名前は半角英文大文字と半角数字、"_" で 8 文字以下、拡張子は 3 文字)

レベル 2 :

ファイル名は、最大 31 文字 (区切り文字、"." と拡張子を含む) で、各フォルダーの階層は 8 つ以下

拡張フォーマット

Joliet :

ファイル名は、最大で 64 文字

Romeo :

ファイル名は、最大で 128 文字

iTunes

米国および他の国々で登録された Apple Inc. の商標です。

m3u

プレイリストファイルの拡張子 (.m3u) で、「WINAMP」というソフトで作成したプレイリストに付きます。

m4a

AAC ファイルに付属される拡張子の 1 つです。iTunes でエンコード可能です。

MP3 (エムピースリー)

「MPEG Audio Layer3」の略で、ISO (国際標準化機構) のワーキンググループ (MPEG) が定めた音声圧縮の規格です。MP3 は、音声データを元のデータの約 1/10 のサイズに圧縮することができます。

MS ADPCM

「Microsoft adaptive differential pulse code modulation」の略で、米国 Microsoft Corporation のマルチメディア・ソフトウェアで使用される信号記録方式です。

VBR (バイビーアール)

「Variable Bit Rate (可変ビットレート)」の略です。一般的には CBR (固定ビットレート) が多く使われていますが、音声圧縮では圧縮状況に合わせてビットレートを可変にすることで、音質を優先した圧縮が可能となります。

WAV

「Waveform」の略で、Windows での標準音声フォーマットです。

WMA (ダブルユーエムエー)

「Windows Media™ Audio」の略で、米国 Microsoft Corporation によって開発された音声圧縮技術です。WMA データは、Windows Media Player Ver. 7 以降を使用しエンコードすることができます。

Microsoft、Windows Media、Windows のロゴは、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

おもな仕様

●オーディオ / DSP 部

最大出力： 50 W × 4
定格出力： 22 W × 4 (50 Hz ~ 15 000 Hz, 5 % THD)
負荷インピーダンス： 4 Ω (4 Ω ~ 8 Ω 使用可能)
プリアウト：

最大出力レベル : 5.0 V
出カインピーダンス : 100 Ω

ラウドネスコンター： 10 dB (100 Hz)
6.5 dB (10 kHz)
(ボリューム：-30 dB)

イコライザー (左右独立 16 バンドグラフィックイコライザー)：

周波数 : 20/31.5/50/80/125/200/315/500/800/1.25k/2k/3.15k/5k/8k/
12.5k/20k Hz

調整幅 : ± 12 dB (2 dB step)

オートイコライザー (F & R & SW) / (High & Mid & Low)：

周波数 : 20/31.5/50/80/125/200/315/500/800/1.25k/2k/3.15k/5k/8k/
12.5k/20k Hz

調整幅 : -12 dB ~ + 6 dB (2 dB step)

ネットワーク (左右独立)

(スタンダードモード)：

HPF (Front/Rear)

周波数 : 50/63/80/100/125/160/200 Hz

スロープ : -12, -6, 0 (Pass) dB/oct.

調整幅 : -24 dB ~ 0 dB/Mute (1 dB step)

Subwoofer (Stereo/Mono)

周波数 : 50/63/80/100/125/160/200 Hz

スロープ : -18, -12, -6 dB/oct.

調整幅 : -24 dB ~ + 6 dB /Mute (1 dB step)

位相 : Normal/Reverse

(3 ウェイネットワークモード)：

High (HPF)

周波数 : 1.25k/1.6k/2k/2.5k/3.15k/4k/5k/6.3k/8k/10k/12.5k Hz

スロープ : -24, -18, -12, -6 dB/oct.

調整幅 : -24 dB ~ 0 dB/Mute (1 dB step)

位相 : Normal/Reverse

Mid (HPF/LPF)

周波数 (LPF) : 1.25k/1.6k/2k/2.5k/3.15k/4k/5k/6.3k/8k/10k/12.5k Hz

周波数 (HPF) : 25/31.5/40/50/63/80/100/125/160/200/250 Hz

スロープ (LPF) : -24, -18, -12, -6, 0 (Pass) dB/oct.

スロープ (HPF) : -24, -18, -12, -6, 0 (Pass) dB/oct.

調整幅 : -24 dB ~ 0 dB/Mute (1 dB step)

位相 : Normal/Reverse

Low (LPF) / (Stereo/Mono)

周波数 : 25/31.5/40/50/63/80/100/125/160/200/250 Hz

スロープ : -36, -30, -24, -18, -12 dB/oct.

調整幅 : -24 dB ~ + 6 dB/Mute (1 dB step)

位相 : Normal/Reverse

●CD プレーヤー部

形式：コンパクトディスクオーディオシステム
 使用ディスク：コンパクトディスク
 信号フォーマット：

サンプリング周波数：44.1 kHz
 量子化ビット数：16 ビット直線

周波数特性：5 Hz ~ 20 000 Hz (± 1 dB)
 S/N：105 dB (1 kHz) (IHF-A ネットワーク)
 ダイナミックレンジ：100 dB (1 kHz)
 チャンネル数：2 (ステレオ)
 MP3 デコーディングフォーマット：MPEG-1 & 2 AUDIO LAYER-3
 WMA デコーディングフォーマット：Ver. 7, 7.1, 8, 9, 10, 11 (2 ch audio) (Windows Media Player)
 AAC デコーディングフォーマット：MPEG-4 AAC (Ver. 7.2 以前の iTunes でエンコードされた楽曲)
 WAV シグナルフォーマット：Linear-PCM, MS ADPCM

●FM チューナー部

受信周波数帯域：76.1 MHz ~ 89.9 MHz
 実用感度：9 dBf (0.8 μ V/75 Ω , MONO, S/N : 30 dB)
 S/N：75 dB (IHF-A ネットワーク)
 高調波歪率：0.3 % (at 65 dBf, 1 kHz, Stereo)
 0.05 % (at 65 dBf, 1 kHz, MONO)
 周波数特性：30 Hz ~ 15 000 Hz (± 3 dB)
 ステレオセパレーション：45 dB (65 dBf, 1 kHz)

●AM チューナー部

受信周波数帯域：522 kHz ~ 1 629 kHz (9 kHz)
 実用感度：18 μ V (S/N : 20 dB)
 S/N：67 dB (IHF-A ネットワーク)

●共通部

使用電源：14.4 V DC (10.8 V ~ 15.1 V 使用可能)
 アース方式：マイナスアース方式
 最大消費電流：10.0 A
 寸法：

(取り付け寸法 (D)) 178 (W) mm × 50 (H) mm × 164 (D) mm
 (ノーズ寸法) : 170 (W) mm × 45 (H) mm × 18 (D) mm

質量：1.5 kg (コードユニット含まず)

●付属品

コードユニット(電源コード、RCA コード)：2
 AUX ケーブル：1
 取付ネジ類：1 式
 フェイスパネルケース：1
 音響特性測定用マイク：1
 リモコン：1
 リチウム電池 (CR2025)：1
 取扱説明書：1
 取付説明書：1
 安全上のご注意：1
 保証書：1
 ご相談窓口・修理窓口のご案内：1

メモ

- 上記の仕様および外観は予告なく変更することがあります。また、この説明書の中のイラストと実物が、一部異なる場合があります。

<各窓口へのお問い合わせ時のご注意>

「0120」で始まる【フリーコール】および【フリーダイヤル】は、PHS、携帯電話などからは、ご使用になれません。
また、【一般電話】は、携帯電話・PHSなどからご利用可能ですが、通話料がかかります。

ご相談窓口のご案内

パイオニア商品の修理・お取り扱い（取り付け・組み合わせなど）については、お買い求めの販売店様へお問い合わせください。

商品についてのご相談窓口 ● 商品のご購入や取り扱い、故障かどうかのご相談窓口およびカタログのご請求について

カスタマーサポートセンター（全国共通フリーコール）

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～17:00（弊社休業日は除く）

● カーオーディオ／カーナビゲーション商品

電話 【フリーコール】0120-944-111 【一般電話】03-5496-8016

ファックス 03-3490-5718

インターネットホームページ <http://pioneer.jp/support/>

※商品についてよくあるお問い合わせ・メールマガジン登録のご案内・お客様登録など

修理窓口のご案内

修理をご依頼される場合は、取扱説明書の「故障かな?と思ったら」を一度ご覧になり、故障かどうかご確認ください。
それでも正常に動作しない場合は、① 型名、② ご購入日、③ 故障症状を具体的にご連絡ください。

修理についてのご相談窓口 ● お買い求めの販売店に修理の依頼ができない場合

修理受付センター（沖縄県を除く全国）

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00、土曜・日曜・祝日 9:30～12:00、13:00～17:00（弊社休業日は除く）

電話 【フリーコール】0120-5-81028 【一般電話】03-5496-2023

ファックス 【フリーコール】0120-5-81029

インターネットホームページ <http://pioneer.jp/support/repair.html>

※インターネットによる修理受付対象商品は、家庭用オーディオ／ビジュアル商品に限ります

沖縄サービスステーション（沖縄県のみ）

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00（土曜・日曜・祝日・弊社休業日は除く）

電話 【一般電話】098-879-1910

ファックス 098-879-1352

部品のご購入についてのご相談窓口 ● 部品（付属品・リモコン・取扱説明書など）のご購入について

部品受注センター

受付時間 月曜～金曜 9:30～18:00、土曜 9:30～12:00、13:00～18:00（日曜・祝日・弊社休業日は除く）

電話 【フリーコール】0120-5-81095 【一般電話】0538-43-1161

ファックス 【フリーコール】0120-5-81096

パイオニア株式会社

〒153-8654 東京都目黒区目黒 1-4-1

© パイオニア株式会社 2009

<KKMZ> <09A00000 > <CRA4278-A/N>